
SYLLABUS

シラバス

2013 年度

LEC 東京リーガルマインド大学院大学

高度専門職研究科 会計専門職専攻

LEC GRADUATE UNIVERSITY

著作権者 LEC 東京リーガルマインド大学院大学
©2013 LEC GRADUATE UNIVERSITY Printed in Japan
複製・頒布を禁じます。

2013 年度 講義日程／時間割 2

前期 開講科目**全体**

マネジメント・シミュレーション I	6
IT リテラシー I	8
実用英語演習基礎	10
マネジメント・シミュレーション II (夏期)	12
専門英語基礎	14
会計総合事例研究	16
英語プレゼンテーション基礎	18

財務会計

財務会計論	20
簿記論	22
税法会計	24
英文会計	26
公会計	28
財務会計論研究指導 ^(通)	30

管理会計

管理会計論	32
管理会計入門	34
マネジメント・コントロール・システム論	36
意思決定会計	38
応用管理会計	40
管理会計論研究指導 ^(通)	42

監査

監査論	44
職業倫理	46
監査事例研究	48

経営・ファイナンス

経済学	50
ファイナンス事例研究	52

法律系

企業法 I	54
租税法	56
法人税法	58
所得税法	60
企業法事例研究	62
租税法事例研究	64
国際租税法	66
租税法研究指導【導入クラス】 ^(通)	68

租税法研究指導【序論クラス】 ^(通)	70
租税法研究指導【先行研究検討クラス】 ^(通)	72
租税法研究指導【完成追込みクラス】 ^(通)	74

後期 開講科目**全体**

マネジメント・シミュレーション I	76
IT リテラシー I	78
実用英語演習応用	80
IT リテラシー II	82
専門英語応用	84
会計総合事例研究	86
英語プレゼンテーション応用	88

財務会計

会計制度 I	90
会計制度 II	92
ディスクロージャー制度	94
IFRS 研究	96
財務会計事例研究	98

管理会計

原価計算論	100
財務分析論	102
管理会計事例研究	104

監査

監査論	106
監査手続論	108
内部統制監査	110

経営・ファイナンス

経営学 I	112
ファイナンス論	114
経営学 II	116
経営事例研究	118
M&A	120

法律系

租税法	122
企業法 II	124
法人税法	126
所得税法	128
実践国際租税法	130

注 1: ^(通)の付いた科目は通年科目です。

注 2: 前期開講科目と後期開講科目に同じ科目名があるものは、講義内容が同じで開講日が異なる科目です。

注 3: 各シラバスの授業内容は、進度などに応じて変わることがあります。

LEC会計大学院 講義日程 - 2013年度(前期)4月13日開講

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
				オリエンテーション		
7	8	9	10	11	12	13
					第1回	第1回
					※前期授業開始	
14	15	16	17	18	19	20
第1回	第1回	第1回	第1回	第1回	第1回	第2回
21	22	23	24	25	26	27
第2回	第2回	第2回	第2回	第2回	第2回	懇親会
28	29	30				
	昭和の日					

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
					憲法記念日	みどりの日
5	6	7	8	9	10	11
	第3回	第3回	第3回	第3回	第3回	第3回
こどもの日	振替休日					
12	13	14	15	16	17	18
第3回	第4回	第4回	第4回	第4回	第4回	第4回
19	20	21	22	23	24	25
第4回	第5回	第5回	第5回	第5回	第5回	第5回
26	27	28	29	30	31	
第5回	第6回	第6回	第6回	第6回	第6回	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
						第6回
2	3	4	5	6	7	8
第6回	第7回	第7回	第7回	第7回	第7回	第7回
9	10	11	12	13	14	15
第7回	第8回	第8回	第8回	第8回	第8回	第8回
16	17	18	19	20	21	22
第8回	第9回	第9回	第9回	第9回	第9回	第9回
23	24	25	26	27	28	29
第9回	第10回	第10回	第10回	第10回	第10回	第10回
30						
第10回						

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	第11回	第11回	第11回	第11回	第11回	第11回
7	8	9	10	11	12	13
第11回	第12回	第12回	第12回	第12回	第12回	第12回
14	15	16	17	18	19	20
第12回	第13回	第13回	第13回	第13回	第13回	第13回
	海の日					
21	22	23	24	25	26	27
第13回	第14回	第14回	第14回	第14回	第14回	第14回
28	29	30	31			
第14回						

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
						第15回
4	5	6	7	8	9	10
第15回						
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
前期試験						
25	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
	敬老の日	成績通知			オリエンテーション	
22	23	24	25	26	27	28
	秋分の日					
29	30					
	第1回					
	※後期授業開始					

※講義日程は発行日現在のものであり、変更になる場合があります。

LEC会計大学院 講義日程 - 2013年度(後期) 9月30日開講

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1 第1回	2 第1回	3 第1回	4 第1回	5 第1回
6 第1回	7 第2回	8 第2回	9 第2回	10 第2回	11 第2回	12 第2回
13 第2回	14 第3回 体育の日	15 第3回	16 第3回	17 第3回	18 第3回	19 第3回
20 第3回	21 第4回	22 第4回	23 第4回	24 第4回	25 第4回	26 第4回
27 第4回	28 第5回	29 第5回	30 第5回	31 第5回		

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1 第5回	2 第5回
3 第5回 文化の日	4 第6回 振替休日	5 第6回	6 第6回	7 第6回	8 第6回	9 第6回
10 第6回	11 第7回	12 第7回	13 第7回	14 第7回	15 第7回	16 第7回
17 第7回	18 第8回	19 第8回	20 第8回	21 第8回	22 第8回	23 第8回 勤労感謝
24 第8回	25 第9回	26 第9回	27 第9回	28 第9回	29 第9回	30 第9回

12月

日	月	火	水	木	金	土
1 第9回	2 第10回	3 第10回	4 第10回	5 第10回	6 第10回	7 第10回
8 第10回	9 第11回	10 第11回	11 第11回	12 第11回	13 第11回	14 第11回
15 第11回	16 第12回	17 第12回	18 第12回	19 第12回	20 第12回	21 第12回
22 第12回	23 第12回 天皇誕生日	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月

日	月	火	水	木	金	土
			1 元日	2	3	4
5	6 第13回	7 第13回	8 第13回	9 第13回	10 第13回	11 第13回
12 第13回	13 第14回 成人の日	14 第14回	15 第14回	16 第14回	17 第14回	18 第14回
19 第14回	20 第15回	21 第15回	22 第15回	23 第15回	24 第15回	25 第15回
26 第15回	27	28	29	30	31	
	後期試験					

2月

日	月	火	水	木	金	土
						1 試験
2 試験	3	4	5	6	7	8
9	10	11 建国記念	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5 成績通知	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16 卒業式	17	18	19	20	21 春分の日	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

ID: YA13112a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	基本	マネジメント・シミュレーションⅠ	小林健吾 高田博行 横井隆志	15	2

授業の目的

マネジメント・シミュレーションは、LEC 会計大学院の教育目的に基づいた実践的な教育の中核となる科目として設置されている。そこではバーチャルな経営環境の下で財務数値の分析に基づいた経営意思決定を行い、企業経営の諸問題への理解を促進する。そして、企業会計の必要性和効用をチームによる協働を通じて体験的に学習することを意図している。

マネジメント・シミュレーションⅠでは、入門的なステップとして、基礎的な知識の必要性を知覚させ、関連諸科目の学習を促し、学習意欲の向上に貢献することを目的としている。

授業の到達目標

マネジメント・シミュレーションⅠでは卸売業を対象とし、市場環境に応じた価格の決定、営業規模の選択と販売量の予測、それに対応する販売計画や仕入計画、財務計画の策定といった基礎的な問題に限定している。それらの意思決定を行うことによって、利益計画の基本構造を習得することが到達目標となる。

履修条件

必修として実施するから、履修条件は設けない。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	この授業の進め方のガイダンス、並びにチームの編成、企業内での職務の担当を決定する。次に、参加者間の討議によって第3期までの分析に基づく企業評価を行い、事後の経営方針を決定する。	4月13日(土) ③13:30-15:00
2	システムの立ち上げと利用方法のガイダンス。システムの運用についてはマネジメント・シミュレーションⅡも共通化しているので、要領をしっかり習得してもらう。場合によってはトライアルを行う。	4月13日(土) ④15:10-16:40
3	第3期までの財務数値の分析に基づいて第4期の入力を行う。続いてサーバー処理した結果について分析を行う。入力と結果の分析にはそれぞれ時間をかけ、指導主任の教授をはじめ全教員が適宜指導を行う。	4月20日(土) ③13:30-15:00
4	マネジメント・シミュレーションⅠは一連のマネジメント・シミュレーションの基礎入門編であることから、幾つかの基礎知識講座を設けている。ここではテーマ学習①として「利益計画と損益分岐点分析の実践」を執り行う。	4月20日(土) ④15:10-16:40
5	テーマ学習①を参考に第5期の入力について検討を行う。またサーバー処理後の結果についても分析を行う。適宜、自動主任を中心に教員一同がアドバイスを行う。	5月11日(土) ③13:30-15:00
6	第6期の意思決定と入力を行う。サーバー処理された結果を入手し分析する。参加者の習熟度を見ながら、特に損益分岐点分析の活用注目してアドバイスを行う。	5月11日(土) ④15:10-16:40
7	基礎知識講座：テーマ学習②として「KPIとしての新しいROEモデル」を実施する。ここでは企業経営の目標としてのROEの重要性和、そのKPI(Key Performance Indicator)への展開と利用について演習を行う。	5月18日(土) ③13:30-15:00
8	第7期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。テーマ学習②を参考に、利益計画を立てる際にどのようなKPIを重視し、どのように重視したかに注目する。	5月18日(土) ④15:10-16:40
9	第8期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。加えて、各チームに業績について発表を行ってもらい、今後の方針等を説明してもらう。教育主任を中心に講評する。	5月25日(土) ③13:30-15:00
10	基礎知識講座：テーマ学習の③として「キャッシュ・フローの重要性和とその活用法」を実施する。ここではシステム内に準備されたテンプレートを利用して、キャッシュ	5月25日(土) ④15:10-16:40

	ユ・フローの重要性とその理解の仕方について実践的な講義を行う。	
11	第9期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。ここではテーマ学習③の内容を踏まえた検討が行われているかに注目する。	6月1日(土) ③13:30-15:00
12	第10期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。第2回目となる経営報告会も実施し、意思決定の精度が上がっているか検証する。	6月1日(土) ④15:10-16:40
13	第11期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。経営報告会を踏まえて、一連のテーマ学習の成果が業績に結実するようアドバイスしていく。	6月8日(土) ③13:30-15:00
14	最終期となる第12期の意思決定と入力を行う。またサーバー処理された結果を入手し分析する。次回に行われる最終の経営報告会の準備を行う。	6月8日(土) ④15:10-16:40
15	経営報告会と反省会を行う。経営報告会は全期を通じた総括として報告をしてもらい、教育主任を中心に各チームの取り組みについて討議する。引き続いて反省会を実施する。	6月15日(土) ③13:30-15:00
試験	実施しない。	

使用教科書／評価方法等

教科書	参加者用マニュアルを配布する。
参考書	必要な資料等はインターネット・デバイスを通して随時配布される。
評価方法	企業業績だけではなく、計画と実績の乖離(業績管理能力)、株主総会の報告と資料の準備、(業績報告能力)、およびチーム内でのコミュニケーション(協調性と意思疎通能力)の状況、学習能力の向上(積極性と自己革新能力)の状況等によって総合的に評価する。
その他	<p>1. この授業では学生間のコミュニケーション能力の向上も重要なテーマであるから、授業中は勿論のこと、授業時間以外でもインターネット等を通して意見の交換が可能なように準備されるので、積極的にこれを活用することが求められる。</p> <p>2. この科目では授業時間中の状況に応じた適時の指導とコメントが重要な要因になっているから、これに受動的に対応するだけでなく、さらに積極的に疑問等を受講者の側から発信することが求められる。</p> <p>3. 授業概要でも触れたように、この授業科目では学生諸君に基礎的知識の必要性を知覚してもらうことも目標に含まれるが、特に知識の不足が見られる場合には、インターネットを利用して必要な情報を提供し、さらには必要に応じて臨時的に基礎知識講座を補足する。</p> <p>4. この科目は、そこで得られた利益計画の基本の上に、更により高度な競争環境での経営実践を学習する準備段階でもある。つまり、マネジメント・シミュレーションⅡ以降の準備段階とも位置づけられる。積極的なⅡ・Ⅲの受講も期待する。</p>

ID: YA13416a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	基本	ITリテラシー I	横井隆志 徐伯昇	15	2

授業の目的

LEC 会計大学院が掲げるシミュレーション・アプローチを具体化する上で重要な役割を果たすのが表計算アプリケーション“Microsoft Office Excel”である。本科目では、シミュレーション・アプローチの土台を形成すべく、実習を通じて Excel の基本操作を習得し、関数を中心としたワークシートの作り込みを行う。あわせて、修士論文の作成等を念頭に、研究資料の入手方法や、効率的な論文作成のためのワープロソフトの使用法を学習する。

授業の到達目標

シミュレーター作成等に必要 Excel の操作法を中心に、ITリテラシーの基本的な素養を身につけ、表計算アプリケーションを用いて簡易的なシステムを構築できる程度のスキルを修得することを本科目の到達目標とする。

履修条件

特になし

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	＜ガイダンス並びに Excel の基本＞ 初めて Excel を使用することを想定し、ワークシートの基本やセルを参照する計算など、Excel の基礎的な要素を学習する。その中で、相対参照と絶対参照について学習する。あわせて、関数の基本について触れる。	6月22日(土) ③13:30-15:00
2	＜条件判断を行う関数＞ 設定された論理式(条件)の正否を判断する IF 関数について、基本的な用法を学ぶ。あわせて、関数ウィザードを用いて関数の引数を入力する方法などを学ぶ。	6月22日(土) ④15:10-16:40
3	＜関数のネストと論理関数＞ 引き続き、条件判断を行う関数について学習する。さらに、複数の関数を組み合わせるネストや、IF 関数を補う論理関数について学習する。	6月29日(土) ③13:30-15:00
4	＜検索を行う関数＞ 様々な用途に活用できる基本的な関数として、表の中から目的の値を取り出すことができる VLOOKUP 関数、HLOOKUP 関数について学習する。	6月29日(土) ④15:10-16:40
5	＜VLOOKUP 関数をより実践的に活用するための関数の活用＞ VLOOKUP 関数と組み合わせることにより、ワークシートの実用性を高める MATCH 関数について学習する。あわせて、INDEX 関数、CHOOSE 関数について学習し、早見表や複数の対照表からデータを取り出す方法について学習する。	7月6日(土) ③13:30-15:00
6	＜日付と時刻＞ Excel における日付と時刻の扱いについて、シリアル値の概念を中心に学習する。その中で、日付と時刻を操作する関数の使い方、ユーザー定義による表示形式の設定について学ぶ。	7月6日(土) ④15:10-16:40
7	＜インターフェースを意識したワークシートの作り込み＞ 第三者がワークシートを使用することを想定する場合、作業の手順や入力する内容ができるだけわかりやすいようにワークシートの構成を工夫する必要がある。ここでは、データの入力規則等によるワークシートの操作性向上を目指す。	7月13日(土) ③13:30-15:00
8	＜修士論文執筆のための Word の活用＞ Word には、論文等の作成を念頭に、目次や脚注、引用文献、図表等を管理する機能が備わっている。これらの機能を活用し、より効率的に修士論文を作成する方法を学習する。	7月13日(土) ④15:10-16:40

9	<IT ツールの活用と著作権問題> 社会人学生が効率的に研究を進めるための携帯情報端末やクラウド等の活用法について学ぶ。同時に、高度情報社会において生じる著作権の問題等について考える。	7月20日(土) ③13:30-15:00
10	<データベース機能> Excel のワークシート上で「フィールド」と「レコード」という概念に基づいて構成されるデータベースについて、フォームによる入力やフィルタによるデータの抽出について学習する。あわせて、小計機能や	7月20日(土) ④15:10-16:40
11	<Excel によるデータ分析> 商品や顧客の重要度を把握するための ABC 分析とパレート図の作成、商品の位置づけを確認する PPM 分析を通じて、グラフの作成・加工の手法を学ぶ。	7月27日(土) ③13:30-15:00
12	<システムの設計思想とインテリジェンスの構築> 様々な情報の集合である“information”に対し、ユーザーの意思決定と行動を喚起する有益な情報が“intelligence”である。実例を通じて intelligence の概念を学ぶと同時に、データの収集と Intelligence の構築について、演習を通じて学習する。	7月27日(土) ④15:10-16:40
13	<システムの設計思想とインテリジェンスの構築> 実務の現場で必要とされる Intelligence とは何か、実際にデータを収集し、Intelligence を構築する際の課題などについて、ディスカッションを通じて情報共有を行う。	8月3日(土) ③13:30-15:00
14	<VBA の基本 (1) > Excel には操作を自動で実行するためのプログラミング言語として Visual Basic for Applications が搭載されている。ここでは、一連の動作を記録することでマクロ化する方法と VBA コードの基本、VBA エディタを用いたマクロの編集について学習する。	8月3日(土) ④15:10-16:40
15	<VBA の基本 (2) > あらかじめ用意された関数ではまかなえない処理を行う方法として、VBA で処理の内容を記述することによりワークシート上で一般の関数と同様に扱うことの出来る関数を作成するユーザー定義関数について学習する。	8月24日(土) ③13:30-15:00
試験	試験は実施しない。授業で扱った内容の修得と定着を目的として出題する課題と出席状況、授業への貢献などにより成績評価を行う。	

使用教科書／評価方法等

教科書	特に指定しない。
参考書	適宜、授業時間内に示す。
評価方法	課題 70%、出席ならびに授業への貢献度など 30%
その他	

ID: YA13450

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	基本	実用英語演習基礎	藤澤慶已	15	2

授業の目的

言語学・音声学から見る日本語と英語の違いを理解し、日本人特有の英語の弱点を体系的に克服していきます。実用的な英語を身につけるため発音練習、表現力習得などのトレーニングを通しコミュニケーションの手段としての英語（実用的に英語を『読む、書く、聞く、話す』こと）を目標にします。最終的にはTOEICのスコアアップはもちろん、実践的なコミュニケーション力を養います。

授業の到達目標

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストTOEICでCランク（470～730点）前半を目指す。

履修条件

--

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	流暢な英語の5つのリズム（波）「音のつながり」を体系的に克服していきます。TOEIC 演習	4月16日(火) ⑤19:30-21:00
2	英語を聞くうえで、日本人特有の弱点である「リエゾン」を体系的に克服していきます。TOEIC 演習	4月23日(火) ⑤19:30-21:00
3	Practicum (実践演習)	5月7日(火) ⑤19:30-21:00
4	英語の会話を聞き取る。日常やビジネスの場面で用いられる実用的な語彙にも触れ、効果的に語彙力を高めていきます。TOEIC 演習	5月14日(火) ⑤19:30-21:00
5	Practicum (実践演習)	5月21日(火) ⑤19:30-21:00
6	公的な英語を聞き取る。TOEIC 演習	5月28日(火) ⑤19:30-21:00
7	記事、ビジネスレターを読む TOEIC 演習	6月4日(火) ⑤19:30-21:00
8	Practicum (実践演習)	6月11日(火) ⑤19:30-21:00
9	英文ライティング (Email、ビジネスレター) TOEIC 演習	6月18日(火) ⑤19:30-21:00
10	Expressions 聞き慣れない表現 TOEIC 演習	6月25日(火) ⑤19:30-21:00
11	TOEIC 模試 Listening	7月2日(火) ⑤19:30-21:00
12	TOEIC 模試 Reading	7月9日(火) ⑤19:30-21:00
13	Practicum (実践演習)	7月16日(火) ⑤19:30-21:00
14	身近にある誤った英語。TOEIC 演習	7月23日(火) ⑤19:30-21:00
15	まとめ	8月6日(火) ⑤19:30-21:00
試 験		

使用教科書／評価方法等

教科書	* 『藤澤博士の英語セラピー』 藤澤慶巳著 マクミランランゲージハウス出版 2007年 * 各回配布レジメ
参考書	
評価方法	期末課題 50%、出席を含む授業への貢献度など 30% 平常点 20%
その他	

ID: YA13121

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	発展	マネジメント・シミュレーションⅡ	小林健吾 高田博行 横井隆志	15	2

授業の目的

昨年度からマネジメント・シミュレーションはⅠとⅡだけになったが、LEC 会計大学院の実践的な教育の中核となるマネジメント・シミュレーションの仕上げとして、また大学院の勉強の総まとめとして実施するのがマネジメント・シミュレーションⅡである。複数製品の製造業の販売予測から販売計画、設備投資と製造計画、材料の購入計画、営業員の雇用計画、さらには株式発行、社債の発行と償還の計画までを含めた、販売・製造・財務の総合的な諸問題に対する意思決定を体験する。マネジメント・シミュレーションⅡでは、Ⅰに比して決定すべき項目は非常に多くなり、価格競争も厳しく、また近年のアメリカからの金融恐慌の様な急激な経営環境の変化を、緊急経営情報によって実施することを予定しているなど、現実の経営環境に非常に近く設定して実施するので、マネジメント・シミュレーションによる学習の仕上げとして受講されることを期待している。

上記の狙いの他に、会計を通じた企業業績の発表や経営方針についての説明といったプレゼンテーション能力や、企業職能の各担当社としてのコミュニケーションによる能力の向上も意図している。そのため、ⅡではⅠと多少趣を異にして、入力回数少なくして、経営方針や結果の分析、分析方法などの発表の機会を多くするゼミ的な実施を予定している。

その他、Ⅰと同様に開講時に準備されるインターネット・デバイスを通して、多くの資料等が提供されるので、その活用による実践能力の向上を図ることが要求される。

授業の到達目標

経営管理のための財務諸表の分析に止まらず、その状況でのニーズに対応した会計情報の処理分析技法の創造にも対応できる能力を持った人材の育成を目指す。このため、ディスカッションを重視するとともに、参加者独自の利益計画のシミュレーションの開発等も積極的に支援することによって、履修者による創造的で合理的な分析方法の構築を到達目標とする。

履修条件

特に設けない。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	マネジメント・シミュレーションⅡの要点と、授業の進め方のガイダンス、並びにチームの構成、企業内での職務の担当を決定し、参加者間の討議によって第3期までの分析に基づく企業評価を行い、事後の経営方針を決定する。	(以下、未定)
2	システムの立ち上げと利用方法のガイダンスと実施。基本的にマネジメント・シミュレーションⅠと同様であるため、場合によっては4期の入力へと進む可能性もある。もしくは3期までの分析について時間をとって行い、ディスカッションする。	
3	第3期までの財務数値の分析に基づく第4期の入力と、結果の入手と反省・分析。経営報告会に向けたプレゼンテーションの準備。	
4	第4期の決定と結果に関連しての経営報告会。各企業チームの発表を踏まえて全員でディスカッションする。特にどのような視点と方法によって意思決定を行ったか。その妥当性などを中心に検討する。	
5	ここまでで見出された問題についての研究報告やシミュレーションの状況報告。各企業チームの意思決定と論拠、方法を比較しながら全員で議論を深めていく。	
6	第5期の意思決定と入力、および結果の入手と分析。プレゼンテーションに向けた準備。	
7	第5期の決定と結果に関連しての経営報告会。第4期でのディスカッションと同様。	
8	見出された問題についての研究報告やシミュレーションの状況報告。第4期の際と同	

	様の方法で深掘りする。	
9	第6期の意思決定と入力、および結果の入手と分析。プレゼンテーションに向けた準備。	
10	第6期の決定と結果に関連しての経営報告会。第5期でのディスカッションと同様。	
11	見出された問題についての研究報告やシミュレーションの状況報告。第5期の際と同様の方法で深掘りする。	
12	第7期の意思決定と入力、および結果の入手と分析。プレゼンテーションに向けた準備。	
13	見出された問題についての研究報告やシミュレーションの状況報告。第6期の際と同様の方法で深掘りする。	
14	第8期の意思決定と入力、および結果の入手と分析。プレゼンテーションに向けた準備。	
15	反省会。各自の分析モデルについて時間を十分にとって経過と結果を報告してもらう。また、得られた知見を情報共有する	
試験	実施しない。	

使用教科書／評価方法等

教科書	特に使用しない。参加者マニュアルを配布する。
参考書	必要な資料等はインターネット・デバイスを通して随時配布される。
評価方法	企業業績だけではなく、計画と実績の乖離(業績管理能力)、株主総会の報告と資料の準備、(業績報告能力)、およびチーム内でのコミュニケーション(協調性と意思疎通能力)の状況、学習能力の向上(積極性と自己革新能力)の状況等によって総合的に評価する。また、このⅢでは各自の会計的分析能力とプレゼンテーション能力の向上を目指しているため、積極的に授業に貢献した者、しようとしている者の姿勢を評価する。
その他	<p>マネジメント・シミュレーションⅡでは、価格や広告費の企業間競争が生じるほか、経営環境が複雑になり、意思決定するべき項目も飛躍的に増加するが、これと共に状況によって毎期に大きな環境変化が生じるなど、参加者の分析能力が大きく要求される。また日程からも知られるように、ゼミ的に頻繁に報告が要求されるので、マネジメント・シミュレーションⅠで確実に基礎を築いておくことが望ましい。</p> <p>マネジメント・シミュレーションで求める基礎とは、販売の不確実性に対処しつつ販売と製造、購買のバランスを実現することであり、企業の利益計画の骨格の理解である。単に頭で理解するだけでなく、体感的に理解できていることが望まれる。その上で、需要の価格弾力性、マネジッド・コスト、コミテッド・コスト、ROAとROE、セールス・ミックス、プロダクト・ミックス、KPI マネジメント、キャッシュ・フロー・マネジメントといった、利益計画と経営意思決定に関連する重要な概念を総合的に理解する能力を完成させれることを期待している。とりわけ、ファンダメンタルと株価、社債価格の関係などにも見聞を広め、ファイナンス的な素養も身につけてもらいたい。Ⅰのモデルでは、ファイナンスに関する部分を限定的に取り上げていたので、これらの本格的な実践はこのⅡ登場する。ここではこうしたパソコンで有効に実行できる範囲でできるだけ広く取り上げている。企業は製品市場だけでなく、資本市場ともうまく付き合わなければならない。その付き合い方のポイントを理解してもらいたいと考えている。注意事項：授業の内容や進度は状況に応じて変えることがあります。</p>

ID: YA13452

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	発展	専門英語基礎	藤澤慶已	15	2

授業の目的

英語能力を伸ばすためには、実用英語と学校英語の表現方法の違いを理解することが大きなポイントとなります。この講座では、様々な英語に接することによって、英語を理解できない理由を理論的に解説し、日本語と英語表現の根本的な発想の違い（ギャップ）を把握します。Reading・表現力の両面からギャップを意識的に矯正していく事で、読む・書くという実践的な英語力を身につけることを目標とします。

授業の到達目標

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト TOEIC で B ランク（730～860点）前半を目指す。

履修条件

--

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	Eメールを読む Words & Expressions TOEIC 演習	4月17日(水) ⑤19:30-21:00
2	新聞記事を読む Words & Expressions TOEIC 演習	4月24日(水) ⑤19:30-21:00
3	Practicum (論文読解演習)	5月8日(水) ⑤19:30-21:00
4	広告を読む Words & Expressions TOEIC 演習	5月15日(水) ⑤19:30-21:00
5	旅先で見かける英語 Words & Expressions TOEIC 演習	5月22日(水) ⑤19:30-21:00
6	ビジネスレターを読む Words & Expressions TOEIC 演習	5月29日(水) ⑤19:30-21:00
7	日常生活の中の英語 Words & Expressions TOEIC 演習	6月5日(水) ⑤19:30-21:00
8	Practicum (論文読解演習)	6月12日(水) ⑤19:30-21:00
9	広告を読む Words & Expressions TOEIC 演習	6月19日(水) ⑤19:30-21:00
10	総合演習 Words & Expressions	6月26日(水) ⑤19:30-21:00
11	TOEIC 模試 Listening	7月3日(水) ⑤19:30-21:00
12	TOEIC 模試 Reading	7月10日(水) ⑤19:30-21:00
13	敬語的表現 Words & Expressions	7月17日(水) ⑤19:30-21:00
14	Practicum (論文読解演習)	7月24日(水) ⑤19:30-21:00
15	まとめ	8月7日(水) ⑤19:30-21:00
試 験		

使用教科書／評価方法等

教科書	* 『レベル別問題でスコアアップ！新TOEIC テスト厳選700問』藤澤慶己著 DHC 出版 * 『新TOEIC テストリーディング 重要フレーズ&問題集』藤澤慶己著 DHC 出版 * 毎回配布物
参考書	
評価方法	期末課題 50%、出席を含む授業への貢献度など 30% 平常点 20%
その他	

ID: YA13132a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	応用実践	会計総合事例研究	林總 山本宣明	15	2

授業の目的

本科目は会計専門職業人が直面する経営問題を、管理会計を始めとして会計関連諸分野の知識を総合して見ていく能力の養成を目的としています。ここでいう会計関連諸分野には、財務会計や監査だけでなく本大学院のカリキュラムで言うところの経営ファイナンス領域や法律領域を含みます。加えて、本科目では特に IT と会計の関連に注目していきます。

授業の到達目標

本科目の到達目標は、履修者が会計というレンズを通して組織を俯瞰するスキルを特に IT に関連付けて養うことです。

本科目は主担当である林と山本が中心となってゲスト講師を適宜迎えて進行します。進行は、1つのストーリーを題材としながら議論を深めていきます。そのため、毎回の授業ではストーリーに関する部分を履修者に発表してもらい、ディスカッションを経た後に担当教員もしくはゲスト講師が各専門の立場から追加講義もしくはミニ・レクチャーを行います。そして、更に議論を深めていくという方法で、とにかく共に徹底して考えていくことを行います。

授業は2週に1回のペースで、1回に2コマ（3時間）を当てます（初回だけは1コマ）。

履修条件

積極的に授業に参加すること。授業への貢献が成績に大きく影響します。なお、履修人数の上限を本科目は15名とします。15名を超える希望者がいる場合は、成績等を加味して選抜します。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	プロローグ<趣旨説明やチーム分けなど>	4月13日(土) ⑤16:50-18:20
2	1日目 会社の仕組み チーム発表とディスカッション① 追加講義「企業価値と会計」(山本)	5月11日(土) ⑤16:50-18:20
3	ディスカッション②	5月11日(土) ⑥18:30-20:00
4	2日目 製品を考える チーム発表とディスカッション② 追加講義「顧客価値と会計」(山本)	5月25日(土) ⑤16:50-18:20
5	ディスカッション②	5月25日(土) ⑥18:30-20:00
6	3日目 材料を管理する チーム発表とディスカッション① 追加講義「工場と会計システム」(林・岸野)	6月8日(土) ⑤16:50-18:20
7	ディスカッション②	6月8日(土) ⑥18:30-20:00
8	4日目 製品をつくる① チーム発表とディスカッション	6月22日(土) ⑤16:50-18:20
9	5日目 製品をつくる② チーム発表とディスカッション	6月22日(土) ⑥18:30-20:00
10	6日目 品質をあげる チーム発表とディスカッション① 追加講義「伝統的な原価計算と戦略的コストマネジメント」(山本)	7月6日(土) ⑤16:50-18:20

11	ディスカッション②	7月6日(土) ⑥18:30-20:00
12	7日目 製品を売る チーム発表とディスカッション① 追加講義「販売システムと生産システム」(岸野)	7月20日(土) ⑤16:50-18:20
13	ディスカッション②	7月20日(土) ⑥18:30-20:00
14	8日目 会社を経営する チーム発表とディスカッション①	8月3日(土) ⑤16:50-18:20
15	9日目・10日目 チーム発表とディスカッション②	8月3日(土) ⑥18:30-20:00
試験	期末レポート	

使用教科書／評価方法等

教科書	林總・山本宣明著『崖っぷち女子大生あおい、チョコレート会社で会計を学ぶ。』清文社
参考書	適宜紹介
評価方法	担当部分の発表や発言を含む授業への貢献を出席ととして総合する割合(60%)、期末レポート(40%)
その他	授業の進度は状況に応じて変化します。

ID: YA13455

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	応用実践	英語プレゼンテーション基礎	藤澤慶已	15	2

授業の目的

英語プレゼンテーション能力を身につけるために、その基礎能力を、実践発話練習、実用文法、スピーチセラピー等、日常生活のさまざまな場面で使用されている英語を実際に口に出して使うことを通じて養っていきます。

授業の到達目標

英語コミュニケーション、プレゼンテーション能力や発音、マナーといった基本的な能力を身につけると同時に、英語に関する歴史的、文化的背景についても学ぶことで、グローバル化が進む現代社会における異文化理解を促進する。

履修条件

--

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	オリエンテーション	4月18日(木) ⑤19:30-21:00
2	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	4月25日(木) ⑤19:30-21:00
3	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	5月9日(木) ⑤19:30-21:00
4	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	5月16日(木) ⑤19:30-21:00
5	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	5月23日(木) ⑤19:30-21:00
6	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	5月30日(木) ⑤19:30-21:00
7	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	6月6日(木) ⑤19:30-21:00
8	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	6月13日(木) ⑤19:30-21:00
9	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	6月20日(木) ⑤19:30-21:00
10	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	6月27日(木) ⑤19:30-21:00
11	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	7月4日(木) ⑤19:30-21:00
12	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	7月11日(木) ⑤19:30-21:00
13	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	7月18日(木) ⑤19:30-21:00
14	会話演習 表現、発音矯正 実用文法	7月25日(木) ⑤19:30-21:00
15	プレゼンテーション課題	8月8日(木) ⑤19:30-21:00
試 験		

使用教科書／評価方法等

教科書	* 『英語高速リスニング 入門編』 藤澤慶巳著 (DHC 出版) * 『すぐに話せる! しゃべれる! 1秒英作文』 藤澤慶巳著 (あさ出版) * 毎回配布物
参考書	
評価方法	プレゼンテーション課題 50%、出席を含む授業への貢献度など 30% 平常点 20%
その他	

ID: YA13212

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	基本	財務会計論	斎藤淳	15	2

授業の目的

企業会計原則、種々の会計基準、実務指針等や会社法、金融商品取引法等の規定をも踏まえた上で、会計理論について、企業の実例を参照にしつつ、収支会計や税務計算と絡めながら一連の流れがつかめるように、その基本と重要論点につき解説することによって、広範かつ体系的な知識を身につけてもらう。本講座で取り上げきれない重要論点については、会計制度Ⅰ・会計制度Ⅱにて解説する。

授業の到達目標

細切れの単なる知識ではなく会計を巡る広範な世界を体系的にかつ実践的に理解し使いこなせるようになること。

履修条件

簿記の基礎知識は必要。素直な心と懐疑心が肝要。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	簿記、会計とは、監査とは、情報のリテラシーとは何か、有機的結びつきを踏まえ、その意義・内容を体系的に解説する。情報を正しく読み解くには何が必要か、重要か。	4月18日(木) ⑤19:30-21:00
2	設例による財務諸表の体系と、損益計算、収支計算、所得計算についての理解を深める。固定資産の減価償却計算と継続性の変更、正当な理由等についても理解する。	4月25日(木) ⑤19:30-21:00
3	設例による財務諸表の体系と、損益計算、収支計算、所得計算についての理解を深める。後発事象、追加情報の内容、類型、決算書、監査報告書における開示等についても理解する。	5月9日(木) ⑤19:30-21:00
4	設例による財務諸表の体系と、損益計算、収支計算、所得計算についての理解を深める。キャッシュフロー計算書の意義と二つの作成方法、資金収支計算書のさまざまなパターンとの比較を行う。	5月16日(木) ⑤19:30-21:00
5	設例による財務諸表の体系と、損益計算、収支計算、所得計算についての理解を深める。決算書の体系と様式、流動性・固定性配列法、流動・固定区分等についても理解する。	5月23日(木) ⑤19:30-21:00
6	計算書類、財務諸表の体系・注記を含めた表示、株主資本等変動計算書について整理し、一株当たり情報、希薄化について理解する。	5月30日(木) ⑤19:30-21:00
7	企業会計原則の設定、監査基準の設定、一般原則、重要性の原則と税法通達の比較等を行い、更に損益アプローチと資産負債アプローチに触れつつ国際会計基準とも対比しながら理解を深める。	6月6日(木) ⑤19:30-21:00
8	収益認識、発生主義、実現主義、特殊販売、長期の請負工事特に工事進行基準について理解する。	6月13日(木) ⑤19:30-21:00
9	種々の引当金とその意義・要件・計算、財務諸表表示について税法とも比較しながら理解する。	6月20日(木) ⑤19:30-21:00
10	給与・報酬・賞与等人件費の会計と、退職給付会計の様々な概念の意義、体系、仕組みについて理解する。	6月27日(木) ⑤19:30-21:00
11	棚卸資産の評価基準、評価方法、財務諸表表示について理解する。更に、後入先出法についてその是非を考えてみる。	7月4日(木) ⑤19:30-21:00
12	同その2	7月11日(木) ⑤19:30-21:00
13	ソフトウェア・研究開発費、繰延資産の意義と会計処理について、諸税金の意義と算出の仕方、表示について理解する。	7月18日(木) ⑤19:30-21:00

14	外貨建取引、外貨換算会計についての内容と処理について、実際の計算を行いながら理解する。	7月25日(木) ⑤19:30-21:00
15	その他の財務諸表項目（詳しくは、会計制度Ⅰ、Ⅱにおいて解説する）について触れる。	8月8日(木) ⑤19:30-21:00
試験	期末試験を実施する。	8月22日(木) ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	『会計監査六法 平成25年版』 日本公認会計士協会編 中央経済社
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末テスト50%、授業中の発言等20%、出席を含む授業への貢献度など30%
その他	

ID: YA13213

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	基本	簿記論	斎藤淳	15	2

授業の目的

会計理論、監査論等の学習を進める上で必要な簿記の基礎・入門編として初学者向けに、設例をもとに広く基本的な解説をしていきます。

授業の到達目標

対象は初学者向けですが、履修終了により一通りの簿記の知識と実務能力の習得を目指します。

履修条件

簿記の基本から解説を行いますので特に履修条件はありません。初学者は毎回復習を行ってください。既に通一簿記の学習を終えている方は、本講座は履修されなくてかまいません。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	簿記と会計の概括、複式簿記の基礎、決算書の仕組みと構造等の簿記に関する基礎と体系を理解する。	4月14日(日) ③13:30-15:00
2	現金預金の意義とそれに関わる様々な入出金取引、銀行勘定調整表、当座借越、現金過不足等様々な処理を理解する。	4月21日(日) ③13:30-15:00
3	売上債権に関わる様々な取引、債権の回収可能性の評価による貸倒引当金、貸倒損失の処理を理解する。	5月12日(日) ③13:30-15:00
4	手形取引における、振出、指図、名宛、約束手形と為替手形、金融手形と商業手形、裏書・割引・不渡等の処理について理解する。	5月19日(日) ③13:30-15:00
5	諸税金其々の算出の仕方と処理、税効果会計の意義と計算、処理の仕方と理解する。消費税の意義と処理の仕方、処理方式の違いによる決算書への反映の仕方について理解する。	5月26日(日) ③13:30-15:00
6	税効果会計の意義と様々な処理を実際の企業の決算処理・開示をも絡めて理解する。	6月2日(日) ③13:30-15:00
7	有価証券の意義とそれに関わる全部純資産直入法、部分純資産直入法、償却原価法等の処理を理解する。	6月9日(日) ③13:30-15:00
8	棚卸資産につき様々な評価方法の処理と特徴を比較し、売価還元法、期末の評価についても理解する。	6月16日(日) ③13:30-15:00
9	有形固定資産の取得、除却・売却の取引と減価償却計算について理解する。	6月23日(日) ③13:30-15:00
10	有形固定資産の圧縮記帳、火災未決算等の処理を理解する。ここまでの授業内容につき、テストを実施し理解度の確認を行う。	6月30日(日) ③13:30-15:00
11	無形固定資産、市場販売目的と自社利用の場合のソフトウェア、繰延資産取引の処理につき理解する。	7月7日(日) ③13:30-15:00
12	従業員の給与・賞与、役員の報酬・賞与、賞与引当金、退職給付会計の諸取引について理解する。	7月14日(日) ③13:30-15:00
13	純資産取引につき新株式取引発行の取引や配当と準備金の積立、自己株式の取得、所有、処分取引、株主資本等変動計算書の内容等について理解する。	7月21日(日) ③13:30-15:00
14	工事完成基準・工事進行基準につき税法と会計の改正事項を含めて理解する。	7月28日(日) ③13:30-15:00
15	リースの変遷、分類、要件、会計処理を税務上の取り扱いと比較しつつ理解する。	8月4日(日) ③13:30-15:00
試	期末試験を実施する	8月18日(日)

験		③13:30-15:00
---	--	--------------

使用教科書／評価方法等

教科書	その都度レジユメを配布する
参考書	『会計監査六法 平成25年版』日本公認会計士協会
評価方法	期末テスト50%、確認テスト25%、出席を含む授業への貢献度など25%
その他	

ID: YA13225

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	発展	税法会計	斎藤淳	15	2

授業の目的

会計専門職業人としては会計理論と税務を有機的に結び付けて理解することが肝要である。法人税、地方税、消費税等の諸税法と企業会計とを、一体化して解説し、具体的な会計処理、決算書上の表示、申告書の記載の仕方、税当局の見方、取扱い等実践的な点にまで言及する。適宜設例をもとに実際の計算も取込んで行う。

授業の到達目標

机上の空論でもなく、実務倒れでもない、会計の知識と税の知識そしてそれを有機的に結び付けて総合的にバランスの取れた実務的な処理判断ができる能力の習得を目指す。

履修条件

簿記会計の基礎知識は必要。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	損益計算と所得計算の違い、会計上の決算と申告業務との関連、青色申告・白色申告、確定決算、損金経理、申告調整等につき解説。大法人と中小法人の違いと取り扱いについても言及。	4月16日(火) ⑤19:30-21:00
2	租税特別措置法と法人税法、基本通達等の位置づけ、欠損金の繰越制度、繰戻し還付制度につき解説。	4月23日(火) ⑤19:30-21:00
3	企業に係わる諸税金についてその概要と体系、計算の仕方を解説。外形標準課税についても言及。確定納付、中間納付、予定納付の処理の仕方、源泉税のグロス処理とネット処理、法人税等の発生ベース処理と現金主義ベース処理とで会計と税務計算がどう変わるかを検討。	5月7日(火) ⑤19:30-21:00
4	受取配当金の益金不算入制度の仕組みにつき解説。消費税導入の経緯とその概要、過去の変遷と今後の動向について言及。	5月14日(火) ⑤19:30-21:00
5	消費税等の税込処理、税抜処理、課税取引、非課税取引、課税事業者、簡易課税、課税売上割合、総額表示等について仕訳、計算例も織り込んで解説。未払消費税等についての会計と税務計算がどう変わるかを検討。	5月21日(火) ⑤19:30-21:00
6	同上その二	5月28日(火) ⑤19:30-21:00
7	同上その三	6月4日(火) ⑤19:30-21:00
8	固定資産についての取得価額、減価償却計算、除却損失、有姿除却、圧縮記帳、修繕費と資本的支出、固定資産税、償却資産税等の諸テーマについて計算例も織り込んで解説。その一	6月11日(火) ⑤19:30-21:00
9	同上その二	6月18日(火) ⑤19:30-21:00
10	交際費、寄付金課税の意図と概要、子会社支援損について解説。	6月25日(火) ⑤19:30-21:00
11	グループ法人税制の概要と処理につき解説。	7月2日(火) ⑤19:30-21:00
12	営業収益の認識、工事進行基準、工事完成基準につき解説。	7月9日(火) ⑤19:30-21:00
13	リース取引についての会計処理と法人税、消費税法上の取扱いを解説。	7月16日(火) ⑤19:30-21:00

14	役員報酬、従業員給与、賞与、未払賞与、賞与引当金、退職金、退職給付引当金、役員退職慰労引当金等の諸テーマについて計算例も織り込んで解説。請負、外注、出向、人材派遣にまつわる会計処理と法人税、消費税法上の取扱いを解説。	7月23日(火) ⑤19:30-21:00
15	貸倒損失と貸倒引当金の繰入と取崩における会計処理と法人税、消費税法上の取扱いを解説。会社設立、納税地、及び会社の解散と清算の計算につき解説。	8月6日(火) ⑤19:30-21:00
試験	期末試験を実施する	8月20日(火) ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	特に指定しない。
参考書	「税務六法平成24年版法令編及び通達編」日本税理士連合会編集 ぎょうせい
評価方法	期末テスト50%、授業中の発言等20%、出席を含む授業への貢献度など30%
その他	

ID: YA13241

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	発展	英文会計	富田幸恵	15	2

授業の目的

英文会計の基本的な考え方を学修し、英語で書かれたアニュアル・レポートから企業に関する情報を的確に読み取る能力を身につけ、グローバルに活躍できる会計専門職業人としての高い見識の習得を目的とする。

授業の到達目標

英文会計の基本的な考え方を理解し、自らの力で英語で書かれたアニュアル・レポートを読み解き分析できるようになることを目標とする。そのような能力を身につけることで、IFRS へのコンバージョンという流れの中にある日本で、さらにはグローバルに活躍できる会計専門職業人となることを目標とする。

履修条件

特になし

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	オリエンテーション、英文財務諸表の種類、基本概念①（貸借対照表のエレメント、貸借一致の原則、貨幣価値測定原則）	4月14日(日) ①9:30-11:00
2	基本概念②（企業実体の原則、継続企業の原則、資産価値測定原則）	4月21日(日) ①9:30-11:00
3	貸借対照表の変化：損益の測定①（主要な貸借対照表項目の意味）	5月12日(日) ①9:30-11:00
4	貸借対照表の変化：損益の測定②（損益の性質と損益計算書）	5月19日(日) ①9:30-11:00
5	会計記録と会計システム①（勘定の性質、元帳と仕訳帳）	5月26日(日) ①9:30-11:00
6	会計記録と会計システム②（締切の手続き、損益計算書項目）	6月2日(日) ①9:30-11:00
7	収益と貨幣性資産①（発生主義会計、保守主義の原則、重要性の原則）	6月9日(日) ①9:30-11:00
8	収益と貨幣性資産②（実現主義の原則、収益項目の測定、貨幣性資産の測定）	6月16日(日) ①9:30-11:00
9	費用の測定：損益計算書①（費用と支出、費用の測定、費用収益対応の原則）	6月23日(日) ①9:30-11:00
10	費用の測定：損益計算書②（損益計算書項目の意味、損益計算書の分析手法）	6月30日(日) ①9:30-11:00
11	棚卸資産と売上原価①（売上原価の計算、棚卸資産の金額）	7月7日(日) ①9:30-11:00
12	棚卸資産と売上原価②（製造業における棚卸資産の測定、製造原価と期間費用の区別）	7月14日(日) ①9:30-11:00
13	固定資産と減価償却①（有形固定資産の会計処理、減価償却の計算方法）	7月21日(日) ①9:30-11:00
14	固定資産と減価償却②（減耗償却の意味と会計処理、無形固定資産の会計処理）	7月28日(日) ①9:30-11:00
15	負債と純資産の部、総括	8月4日(日) ①9:30-11:00
試 験		8月18日(日) ①9:30-11:00

使用教科書／評価方法等

教科書	
参考書	Essentials of Accounting, Tenth Edition. Leslie K. Breitner and Robert N. Anthony
評価方法	出席を含む授業への貢献度 40%、試験 60%
その他	注意事項：授業の内容は進度などに応じて変わることがあります。

ID: YA13238

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	応用実践	公会計	筆谷勇	15	2

授業の目的

公的部門の財務報告のあり方について理解する。そのためには、あるべき公会計・公監査・行政評価のあり方について、日本及び先進諸外国の「公的部門財務報告の理論と実務の実態」について調査研究する。

授業の到達目標

公認会計士、税理士、公的部門における財務コンサルタント・ファイナンシャル・プランナー等の財務マネジメント専門家の養成。

履修条件

日本商工会議所が実施する簿記検定試験2級程度以上をマスターすることが望まれる。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「公会計」「公監査」「行政評価」の概要説明 ・GASB 概念意見書第1号の研究 ・JICPA（日本公認会計士協会）公表の「公会計原則（試案）」の研究 ・東日本大震災復旧・復興財源に関する基本的な考え方 	4月14日(日) ④15:10-16:40
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「公会計改革と行財政改革」の研究 ・H25年2月12日「国会予算委員会：日本国の”公会計改革”に関する質疑応答」 ・「行政改革基本法（案）（平成10年6月17日、国会提出）」の研究 	4月14日(日) ⑤16:50-18:20
3	<ul style="list-style-type: none"> ・IFAC（国際会計士連盟）のSTUDY（研究報告）第11号・第14号、および、IFAC/IPSAS（国際公会計基準第1号～第21号）をベースにして、日本及び先進諸外国の「公会計」の動向について研究 	4月21日(日) ④15:10-16:40
4	<ul style="list-style-type: none"> ・IFAC（国際会計士連盟）のSTUDY（研究報告）第11号・第14号、および、IFAC/IPSAS（国際公会計基準第1号～第21号）をベースにして、日本及び先進諸外国の「公会計」の動向について研究 	4月21日(日) ⑤16:50-18:20
5	<ul style="list-style-type: none"> ・SNA（国民経済計算）の概要について研究 ・統計（SNA・GFS（政府財政統計） ・ESA95（欧州勘定システム95））等と「公会計制度」との比較研究 	5月12日(日) ④15:10-16:40
6	<ul style="list-style-type: none"> ・「IASB（国際会計基準審議会）」によるIFRS（国際財務報告基準）とIPSASB（国際公会計基準審議会）によるIPSAS（国際公会計基準）との比較研究 	5月12日(日) ⑤16:50-18:20
7	<ul style="list-style-type: none"> ・「政府監査基準の構造（同文館出版）」に基づいて、「公監査」について研究 	5月19日(日) ④15:10-16:40
8	<ul style="list-style-type: none"> ・「公監査を公認会計士・監査法人が実施する場合に必要な制度要因の研究調査」（日本監査研究学会・公監査研究特別委員会、編）に基づいて、「公監査」について研究 	5月19日(日) ⑤16:50-18:20
9	<ul style="list-style-type: none"> ・公的部門の「パブリック・ガバナンス」、[NPM（新公的部門マネージメント）]、および、「公的部門の内部統制」の研究 	5月26日(日) ④15:10-16:40
10	<ul style="list-style-type: none"> ・INTOSAI（国際最高検査官会議）、米国、英国、等の「公監査基準」の研究 ・先進各国の公的部門監査の概要についての研究 	5月26日(日) ⑤16:50-18:20
11	<ul style="list-style-type: none"> ・公的部門における「行政評価」の最近の動向について研究 	6月2日(日) ④15:10-16:40
12	<ul style="list-style-type: none"> ・公的部門における「行政評価」の理論と実務の研究 	6月2日(日) ⑤16:50-18:20
13	<ul style="list-style-type: none"> ・（非営利組織体の会計基準）の「特性」についての研究 ・日本国・地方公共団体・独立行政法人・地方独立行政法人・国立大学法人・公益法 	6月9日(日) ④15:10-16:40

	人・社会福祉法人、等の「会計基準」の特性についての比較研究 ・「地方公共団体財政健全化法(平成19年6月22日施行)」の内容と実態についての研究	
14	・「東京都の会計基準」についての「理論」と「活用」についての研究 ・「地方行財政検討会議(平成22年1月20日発足)」の審議概要と今後の動向についての研究 ・地方公営企業会計基準の改正内容の解説	6月9日(日) ⑤16:50-18:20
15	・「今後の新地方公会計の推進に関する研究会(平成22年9月30日発足)」の審議概要と今後の動向についての研究 ・IFAC・IPSASBのSTUDY(研究報告)第1号及び第2号をベースに、公的部門における「会計の基礎」と「測定焦点」の重要性についての再確認とその活用方法についての研究	6月16日(日) ④15:10-16:40
試験	・期末レポートの提出による。	

使用教科書／評価方法等

教科書	①「公会計原則の解説」 筆谷 勇著 中央経済社 1998年 ②「政府監査基準の構造」 鈴木 豊編著 同文館出版 2005年 ③「公会計小辞典」国際公会計学会(監修) ぎょうせい 平成23年 ④「公共政策のための政策評価手法」伊多波良雄(編著) 中央経済社 2009年
参考書	・「公会計原論」 筆谷 勇共著 株式会社 東京リーガルマインド 2004年 ・「自治体の公会計・監査の入門」 筆谷 勇共著 (株)ぎょうせい 2002年 ・「Q&A 公会計読本」 筆谷 勇共著 (株)ぎょうせい 2004年 ・「公会計・監査用語辞典」 筆谷 勇共著 (株)ぎょうせい 2002年
評価方法	期末レポート60%、出席を含む授業への貢献度など40%
その他	

ID: YA13239

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	通年	応用実践	財務会計論研究指導	若杉明	30	4

授業の目的

われわれは問題に直面した場合、これを解決するために、種々の方法を用いて解決策を見出さなければならぬ。財務会計論演習指導においては、このようなプロセスにおける会計的ものの考え方、方法の選択と適用等についてのトレーニングを通じて、各自が財務会計に関するテーマについて論文を作成するための指導を行います。論文指導は、たんなる講義だけでは得られない思考力と創造力を培い、高度の職業会計人の育成に役立ちます。

授業の到達目標

職業会計人は企業会計の実務的専門家として、常に種々の問題解決に取り組まなければなりません。本演習指導においては、会計職業専門家としての適切な判断が行使でき、創造的な指導力を発揮できる人材の養成を目標としています。

履修条件

--

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	情報科学としての企業会計の特質について考察する。会計情報の概念、会計ディスクロージャ・システム、企業会計の社会的役割等、財務会計の社会科学としての基礎的性格について学習し、議論する。	4月15日(月) ⑤19:30-21:00
2	同上	4月22日(月) ⑤19:30-21:00
3	同上	5月6日(月) ⑤19:30-21:00
4	財務会計に関する研究および論文作成の基礎となる諸理論、すなわち情報理論、コミュニケーション理論、システム理論、プラグマティズムの哲学、概念の定義法等について学習し、議論する。	5月13日(月) ⑤19:30-21:00
5	同上	5月20日(月) ⑤19:30-21:00
6	財務会計に関する研究および論文作成にとって必要な各種の方法について学習する。すなわち会計公準論、会計主体論、伝統的な帰納法と演繹法、意思決定の方法、起承転結の論理、問題解決の方法、仮説演繹法、コンテインジェンシー理論等について学び、それらの応用について実践する。	5月27日(月) ⑤19:30-21:00
7	同上	6月3日(月) ⑤19:30-21:00
8	同上	6月10日(月) ⑤19:30-21:00
9	一般に認められた会計基準(GAAP)について、その役割、性格、種類、機能等について学ぶ。さらに国際会計基準(IFRS)とわが国会計基準との関係、すなわちハーモナイゼーション(調和化)、コンヴァージェンス(収束)およびアドプション(全面的導入)について議論する。	6月17日(月) ⑤19:30-21:00
10	同上	6月24日(月) ⑤19:30-21:00
11	金融商品等の会計;金融商品の概念、時価情報開示の必要性、金融商品の貸借対照表価額の算定、ヘッジ会計等について学習し、議論する。	7月1日(月) ⑤19:30-21:00
12	同上	7月8日(月) ⑤19:30-21:00
13	リース取引の会計;リース取引の分類、ファイナンス・リース取引の会計処理および	7月15日(月)

	表示、オペレイティング・リース取引の会計処理および表示等について学習し、議論する。	⑤19:30-21:00
14	同上	7月22日(月) ⑤19:30-21:00
15	退職給付会計；退職給付に関する諸概念の定義、負債の計上、退職給付費用の処理、貸借対照表および損益計算書の表示等について学習し、議論する。	8月5日(月) ⑤19:30-21:00
16	退職給付会計；退職給付に関する諸概念の定義、負債の計上、退職給付費用の処理、貸借対照表および損益計算書の表示等について学習し、議論する。	9月30日(月) ⑤19:30-21:00
17	税効果会計；税効果会計の目的、税効果に係る会計基準、繰延税金資産および繰延税金負債の計上方法および表示方法等について学習し、議論する。	10月7日(月) ⑤19:30-21:00
18	同上	10月14日(月) ⑤19:30-21:00
19	キャッシュ・フロー計算書の作成；キャッシュ・フロー計算書の財務諸表における位置づけ、作成目的、作成基準、表示方法等について学習し、議論する。	10月21日(月) ⑤19:30-21:00
20	同上	10月28日(月) ⑤19:30-21:00
21	固定資産の減損会計；減損会計の整備の必要性、対象資産、減損損失の認識と測定、減損処理後の会計処理、ファイナンス・リース取引の取扱い、投資不動産の会計処理等について学習し、議論する。	11月4日(月) ⑤19:30-21:00
22	同上	11月11日(月) ⑤19:30-21:00
23	企業結合会計；企業結合会計の整備の必要性、取得と持分の結合の考え方、取得の会計処理、持分の結合の会計処理、共通支配下の取引等の会計処理等について学習し、議論する。	11月18日(月) ⑤19:30-21:00
24	同上	11月25日(月) ⑤19:30-21:00
25	研究開発費の会計；研究開発費の定義、研究開発費を構成する原価要素、研究開発費に係る会計処理、ソフトウェア制作費の会計処理等について学習し、議論する。	12月2日(月) ⑤19:30-21:00
26	同上	12月9日(月) ⑤19:30-21:00
27	連結財務諸表制度；連結財務諸表の目的、連結の範囲、連結貸借対照表の作成、連結損益計算書の作成、連結剰余金計算書の作成等について学習し、議論する。	12月16日(月) ⑤19:30-21:00
28	同上	1月6日(月) ⑤19:30-21:00
29	企業犯罪の概念と経営倫理；企業犯罪と企業の不祥事、企業犯罪の分類、企業の社会的責任（CSR）、経営者と経営倫理等について学習し、議論する。	1月13日(月) ⑤19:30-21:00
30	企業価値と企業評価；企業価値の概念、企業価値と知的財産、企業価値形成における人的資源の役割、企業評価の概念と必要性、企業評価の諸方法について学習し、議論する。	1月20日(月) ⑤19:30-21:00
試験		

使用教科書／評価方法等

教科書	『企業会計の基礎的考え方』若杉明著 LEC会計大学院叢書 第3巻 2009年 会計学関係の専門誌に掲載されている各種の論文。
参考書	『現代財務会計』野村健太郎著 税務経理協会 2008年 『グローバル財務報告 ― その真実と未来への警鐘』 J.J. ベンストン他著、川村義則、石井 明監訳 中央経済社 2009年
評価方法	期末テストまたはレポート 80%、出席を含む授業への貢献度など 20%
その他	

ID: YA13312

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	基本	管理会計論	林總 山本宣明	15	2

授業の目的

本会計大学院の管理会計領域全体の目的は、会計情報を利用したコンサルティング、会計ソリューションの提案ができる人材の養成にあります。管理会計領域の基本科目に位置付けられる本科目の目的は、管理会計がその名の通りマネジメントのための会計の技法であることを理解することです。ここで言うマネジメントが想定する内容は、基本的に利益計画を中心とする Plan-Do-See のサイクルです。

授業の到達目標

管理会計がマネジメントのための技法であることを理解し、各技法を利益計画全体の一部として位置付けられるようになること。

履修条件

必修科目なので制限を加えるということはありません。ただし、積極的に授業に参加することを求めます。また、管理会計入門を事前もしくは同時に履修することを推薦します。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	<企業経営の基本目標と利益計画> 企業経営の基本目標は「満足できる利益」の実現にあります。利益計画は、この基本目標を達成するための計画です。「満足できる利益」とは何か。利益計画はどのような要素を含むものか。初回は管理会計の諸技法の基本的位置付けを行います。	4月13日(土) ②11:10-12:40
2	<予算の発展史> 予算の本質は何か。予算はどのような段階を経て発展してきたのか。各段階でどのような技法を整備していったのか。以上のような点を取り上げます。	4月20日(土) ②11:10-12:40
3	<CVP分析> 利益計画を立てる基本となるCVP分析について理論的に検討します。また、利益計画の立案にリニア・プログラミングが果たす役割を議論します。	5月11日(土) ②11:10-12:40
4	<予算編成の基本プロセス> 予算の種類として業務予算と資本(財務)予算を示し、業務予算の編成に焦点を当てて議論します。	5月18日(土) ②11:10-12:40
5	<中長期経営計画と予算> 予算編成の基礎となる中長期経営計画との関連を中心に取り上げます。特に原価企画に注目し、中長期経営計画と予算が連動することの重要性を考察します。	5月25日(土) ②11:10-12:40
6	<固定予算・変動予算・ローリング予算> 当初予算に位置付けられる固定予算と、実績との合理的な比較基準となる変動予算を検討します。また、ローリング予算の実態と可能性について議論します。	6月1日(土) ②11:10-12:40
7	<差異分析の実践的可能性と Beyond Budgeting> 伝統的な差異分析の手法と共に、『レバンス・ロスト』以降に提唱された差異分析を検討します。加えて、差異分析の在り方を根本的に否定もしくは変えようとする Beyond Budgeting について議論します。	6月8日(土) ②11:10-12:40
8	<諸井先生特別講義> わが国の管理会計を語る上で欠かすことのできない諸井先生に、ご自身の学問遍歴、すなわち原価計算からファイナンスへの道程について講義して頂きます。諸井先生の講義を聴けば、管理会計の問題意識の広がり理解できます。そのことを共有して下さい。	6月15日(土) ②11:10-12:40
9	<在庫管理とキャッシュ・コンバージョン・サイクル> 業務予算の連結環である在庫に注目し、関連する債権・債務の流れを取り上げます。自ずと、ジャスト・イン・タイムの理論的意義を明らかにすることになるでしょう。さらに同活動を支える業績測度の在り方を検討します。	6月22日(土) ②11:10-12:40

10	<資本予算とキャッシュ・フロー> 資本予算の基本的な評価法を概観すると共に、日本企業の実態について議論します。ここでも利益計画の一環として資本予算を捉えることの重要性を確認します。	6月29日(土) ②11:10-12:40
11	<バランスト・スコアカード> 予算管理の発展からバランスト・スコアカードをどのように位置づけることが適切なのか。バランスト・スコアカードの概要と共に実践的な含意を抽出します。	7月6日(土) ②11:10-12:40
12	<業績評価の測度と報酬> 事業部などの組織単位を評価する測度を整理し、報酬設計に関する議論を検討します。	7月13日(土) ②11:10-12:40
13	<日本型事業部制と管理会計> 日本企業の独特な組織構造を概観し、管理会計との関連を深堀します。	7月20日(土) ②11:10-12:40
14	<国際管理会計> 為替リスクへの対応と国際振替価格を中心に検討します。移転価格税制との関連にも注目します。	7月27日(土) ②11:10-12:40
15	<総まとめ> 本授業が意識してきたことを各回の内容を踏まえて総括します。	8月3日(土) ②11:10-12:40
試験	期末レポート	

使用教科書／評価方法等

教科書	林總著『新版 わかる!管理会計—経営の意思決定に役立つ会計のしくみを学ぶ』ダイヤモンド社
参考書	適宜紹介
評価方法	期末レポート40%、出席を含む授業への貢献度など60%
その他	授業内容などは進度に応じて変化します。

ID: YA13313

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	基本	管理会計入門	結城邦博	15	2

授業の目的

本講座では、

- ① 本会計大学院の管理会計領域における入門コースとして、
- ② 管理会計の基本的な考え方を理解し、
- ③ 実務担当者として使える管理会計スキルを身に着けることを目的とします。

業績管理会計、意思決定会計、原価計算を学修範囲とし、
設例を使って実際に計算することで、理解を深めていただきたいと思います。

授業の到達目標

本講座では、各単元の基本的な概念を理解していただくことに加え、
実務の現場で対応できるように設例を的確に解答できるようになることを到達目標とします。
また、知識の定着を図るため小テストを実施する予定です。

履修条件

入門コースという位置づけですので、履修条件はありません。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	【オーバービュー】： 初回は講座の説明を行い、管理会計の歴史や管理会計の定義について考察します。	4月20日(土) ⑤16:50-18:20
2	【原価の分類】： 管理会計の分野には、様々な概念の原価があります。 各単元に入る前に、原価そのものについて考察します。 内容： 原価とは何か、製造原価と営業費、製品原価と期間原価、直接費と間接費、コスト・ビヘイビア、変動費と固定費、その他の分類（小テスト）	4月20日(土) ⑥18:30-20:00
3	【財務諸表分析】： 財務諸表分析の手法自体は、管理会計生成初期から存在するものです。 BS/PL 構造の概観を理解し、伝統的な財務諸表分析手法について考察します。 内容： 財務諸表分析とは何か、収益性分析、安全性分析、営業活動の測定、財務レバレッジ	5月18日(土) ⑤16:50-18:20
4	【業績管理会計：CVP分析】 CVP分析は利益計画に対して有用な手段です。数値例を使いCVP計算を理解します。 内容： CVP分析とは、CVP分析の目的、単純化するための前提、CVP図表、CVP公式、経営レバレッジ（小テスト）	5月18日(土) ⑥18:30-20:00
5	【業績管理会計：予算】 予算は多くの企業で活用されている管理会計ツールです。 予算の体系を理解し、予算編成についても数値例を用いて考察します。 内容： 企業予算とは何か、予算の役割、その他の予算手法、基本予算プロセス、基本予算編成手続	6月1日(土) ⑤16:50-18:20
6	【業績管理会計：予算統制】 実績と予算は比較され、差異の発生原因は調査されなければなりません。 そのための予算・実績差異分析について考察します。 内容： 予算統制とは何か、予算・実績差異分析（小テスト）	6月1日(土) ⑥18:30-20:00
7	【業績管理会計：責任会計と業績測定】 営業部門と管理部門とでは、業績の測定方法が異なってきます。 この回では業績測定方法について考察します。	6月15日(土) ⑤16:50-18:20

	内容： 企業の組織、責任センター、業績測定、振替価格、 バランスト・スコアカード	
8	【意思決定会計：差額原価収益分析】 製品を自社で製造するか他社から購入するかといった業務的な意思決定について 考察します。 内容： 意思決定とは、差額原価収益分析とは、関連原価と埋没原価、 業務的意思決定の設例 (小テスト)	6月15日(土) ⑥18:30-20:00
9	【意思決定会計：設備投資の意思決定】 設備投資の意思決定について考察します。 割引計算・現在価値についても説明します。 内容： 設備投資の意思決定とは、設備投資の意思決定モデル、 キャッシュ・フロー予測、現在価値と将来価値	6月29日(土) ⑤16:50-18:20
10	【原価計算：個別原価計算】 売上原価の計算方法や原価計算の概略について説明し、個別原価計算について 考察します。(小テスト)	6月29日(土) ⑥18:30-20:00
11	【原価計算：総合原価計算、標準原価計算】 総合原価計算と個別原価計算の違いを検討し、 完成品換算量についても考察します。 標準原価計算は、実際原価計算と対比しながら検討します。	7月13日(土) ⑤16:50-18:20
12	【原価計算：全部原価計算と直接原価計算】 固定費を製品原価に配賦しない直接原価計算について、 全部原価計算と対比しながら数値例を用いて考察します。(小テスト)	7月13日(土) ⑥18:30-20:00
13	【原価計算：活動基準原価計算】 伝統的な原価計算とは、配賦基準が異なる新しい原価計算「活動基準原価計算」に ついて考察します。	7月27日(土) ⑤16:50-18:20
14	【レバンス・ロスト】： 伝統的管理会計の適合性の喪失について考察します。(小テスト)	7月27日(土) ⑥18:30-20:00
15	【総括】： 全体を総括するとともに、小テストの解説などを行う予定です。	8月24日(土) ⑤16:50-18:20
試験	期末テストを実施します。 筆記用具、電卓のみ持ち込み可。	8月24日(土) ⑥18:30-20:00

使用教科書／評価方法等

教科書	GLEIM CMA Review をベースに準備した資料を講義で配布します。
参考書	「管理会計 第2版」 岡本清 共著 中央経済社、 「崖っぷち女子大生あおい、チョコレート会社で会計を学ぶ」 林總、山本宣明著 清文社 「新版わかる！管理会計」 林總著 ダイヤモンド社 「世界一わかりやすい会計の授業」 林總著 中経出版
評価方法	出席を含む授業への貢献度など (20%)、小テスト (30%)、期末テスト(50%)
その他	授業の進み具合によって、授業内容を変更することがあります。 授業中の設例や小テストは計算問題を含みますので、電卓は忘れずに。

ID: YA13324

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	発展	マネジメント・コントロール・システム論	山本宣明	15	2

授業の目的

マネジメント・コントロール・システムは管理会計諸技法の論理的統合とされています。何らかの管理会計システムを構築しようとする時、マネジメント・コントロール・システムという考え方を持つことは、適切かつ効率的なシステム設計を可能にします。本授業は、そのような管理会計諸技法の論理的統合を可能にするマネジメント・コントロール・システムの思考のエッセンスを身につけることを目的とします。

授業の到達目標

計画と統制、目標の整合、責任センター、責任の区別と関連、部分最適と全体最適、振替価格、これらの意味を理解することを目標とします。

履修条件

本年度の授業では重要な原典である Robert N. Anthony 著『Management Control Systems』を丁寧に履修者全員で読み解いていきます。英文読解を行い、翻訳文を発表してもらう形で進行していきます。したがって、英文読解を精力的に行うことが求められます。履修に当たっては英文読解能力を簡単な英文で試して選抜を行う予定です。また、ゼミ方式で進行するため、履修上限人数も5名程度とします。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	マネジメント・コントロール・システムの特徴について、中心となる問題（戦略実行）と基本概念（目標整合性）を紹介します。また、戦略の策定やタスク・コントロールとの差異に注目します。	4月18日(木) ⑤19:30-21:00
2	マネジメント・コントロール・システムが想定する戦略実行の内容について講義を行います。また、戦略を実行する具体的な手段である責任センターについて概要を中心に紹介します。	4月25日(木) ⑤19:30-21:00
3	責任センターの特徴を概観し、レベニュー・センターとエクスペンス・センターに焦点を当てます。インプットとアウトプットの関連付けや測定問題、効率性と有効性の峻別、利益の役割を紹介します。	5月9日(木) ⑤19:30-21:00
4	プロフィット・センターを詳細に検討します。前提条件、メリット、デメリット、基本型、応用型といった点を巡って議論します。業績評価の各種利益概念にも言及します。	5月16日(木) ⑤19:30-21:00
5	インベストメント・センターについて講義します。投下資本利益率や残余利益を用いることのメリットとデメリットを検討します。また、投下資本に含める資産の範囲や資本コストの設定などにも言及します。	5月23日(木) ⑤19:30-21:00
6	第6章「Transfer Price」の翻訳と議論	5月30日(木) ⑤19:30-21:00
7	第6章「Transfer Price」の翻訳と議論	6月6日(木) ⑤19:30-21:00
8	第6章「Transfer Price」の翻訳と議論	6月13日(木) ⑤19:30-21:00
9	第6章「Transfer Price」の翻訳と議論	6月20日(木) ⑤19:30-21:00
10	第6章「Transfer Price」の翻訳と議論	6月27日(木) ⑤19:30-21:00
11	第15章「Multinational Organizations」の翻訳と議論	7月4日(木) ⑤19:30-21:00

12	第15章「Multinational Organizations」の翻訳と議論	7月11日(木) ⑤19:30-21:00
13	第15章「Multinational Organizations」の翻訳と議論	7月18日(木) ⑤19:30-21:00
14	第15章「Multinational Organizations」の翻訳と議論	7月25日(木) ⑤19:30-21:00
15	第15章「Multinational Organizations」の翻訳と議論	8月8日(木) ⑤19:30-21:00
試験	期末レポート (3,000字程度)	

使用教科書／評価方法等

教科書	特に指定しない。
参考書	『Management Control Systems』Anthony and Govindarajan 著 McGraw Hill Higher Education; 12th Revised edition 版 2006年
評価方法	期末レポート40%、出席を含む授業への貢献度など60%
その他	進度などは状況に応じて変化します。講義日程は、変更が生じる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

ID: YA13333

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	応用実践	意思決定会計	小林健吾	15	2

授業の目的

本講義では、企業の各種の意思決定問題に関連する原価と収益の分析と、それらの情報の利用についてパソコンを利用した実践的な教育を行う。本講義を通じて、受講者が企業の意思決定のための会計的フレームワークを理解するのみならず、パソコンを駆使して経営管理者に高度な情報を提供する技法を身につけてもらう。特にパソコンの創造的利用に取り組めるように工夫する。

上述の目的に即して、本講義で取り扱うトピックは、①意思決定の基本的な理論である差額利益概念と、②パソコンによるゴールシークやソルバーを利用したLPを含めた多重的な分析技法の活用、③主観確率の利用を含めた不確実性に対応した経営意思決定のための情報の提供を、高度な実務的な視点から受講生自身に課題を課しながら取り上げる。

授業の到達目標

本講義の到達目標は、終了時に受講者が意思決定の問題にパソコンの高度な活用によって、正しく対応できる能力を持つことにある。職業会計人に必要な経営意思決定を支援する理論と実践の知識を得て、問題を体系的かつ論理的に処理する能力を身につけ、経営管理者に適切な情報を創造的に提供できることを目標とする。

履修条件

表計算を高度に利用するが、開講時には表計算ソフトの基礎的な利用が出来る程度でよい。当初から使いこなすことは要求しない。しかし終了時までにはゴールシークやソルバーのほか、各種の表関数やユーザー定義関数の活用、さらにユーザー定義関数やマクロを利用した問題の処理まで行うので、事前にこれらの知識を習得していれば好ましいが、そうでない場合には講義の進行に応じて習得活用する意欲を持つことが不可欠である。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	入門としてまず、パソコンによって意思決定のための情報が有効かつ迅速に提供できること、および従来の管理会計での処理で何が不足していたかを体験してもらうために、原価分解と損益分岐点分析を取り上げる。ここでは費用な分析が差額利益分析であることと、過度に単純化された条件設定による分析が、不確実性に如何に無力であるかを体験的に学習して、パソコンの利用の必要を知覚してもらうことに重点を置く。	4月13日(土) ①9:30-11:00
2	入門的な学習の第2回として、投資案の評価の問題を取りあげ、不確実性を考慮しない分析がいかにか脆弱であるかを体験してもらい、特に投資案が長期の予測・見積りに基づくことから、不確実性の問題への配慮を欠いては、信頼される経営管理のための情報を提供し得ないことを体験する。	4月20日(土) ①9:30-11:00
3	2回の入門的学習に基づいて、現代の会計情報の経営管理への課題を、企業の常務会から経理部への注文のかたちでまとめ、この講義の基本的なシナリオとして提示する。そして、この現在の管理会計の課題の達成には、What-If分析を活用したシミュレーション技法が有効なことを明確にして、この授業科目の技法として位置づける。	5月11日(土) ①9:30-11:00
4	設備の取替で予測の誤りによって有利さが逆転する例によってシミュレーションの要領を纏めて、シミュレーション・モデルの作成を基礎演習①として実施する。ここでは意思決定で予測される各要因のどれほどの見積りの誤りが評価の逆転をもたらすかの分析を含めて、従来如何にか脆弱な分析で済ましていたかを取りあげる。	5月18日(土) ①9:30-11:00
5	基礎知識講座①として、われわれの分野で不当に注目されてこなかった離散事象と連続事象の区別と、それぞれに対する資料からの有利さの評価の問題を取り上げる。特に連続事象に対しては回帰分析の適用とこれを活用してゴールシークを行う方法を採り上げ、絶対番地、IF構文、ユーザー定義関数を利用したシミュレータの効果的な作成を学習する。この週に「提出課題1」を出題する。問題はすでにテキストに印刷されている。	5月25日(土) ①9:30-11:00
6	シミュレーションの基礎演習②として、ソルバーの活用をLP問題によって実施するとともに、複雑な代替案の選択問題になると、従来の方法では十分でなく、LPの利用が有効なることを学習する。この週に「提出課題2」を出題する。この問題もテキストに印刷し、配布済みである。	6月1日(土) ①9:30-11:00
7	基礎演習③として広告費の効果の分析例によって、回帰分析を利用して販売量を予測する例によって、利用するグラフの種類による相違、回帰式を利用した分析での問題点、関連範囲の	6月8日(土) ①9:30-11:00

	概念の重要性などを演習する。回帰式の信頼性の評価の問題は第 15 週に予定している。	
8	これまででは当然として取り上げてきたところの差額利益分析について、なぜ差額利益分析が必要か、なぜそれによいのか、どのような範囲について考えるべきかを、部品を自家製造するか外注加工するかの問題例で採り上げる。これを通して代替案の選択では部分的な最適化の判断基準ではなく、総合的な最適化の必要性と、どのような意味での総合化が考えられべきかを学習する。	6月15日(土) ①9:30-11:00
9	管理会計において本来的な原理にぞくするものと、便宜的に適用されている原則との分けて認識する訓練として、投資決定法で取られる現在価値の概念を取り上げて、終点価値と対比してその特徴をシミュレーションによって分析する。ここでは上のも問題とともに、シミュレータの作成の演習も兼ねる。なおこの認識は次週からの長期的な意思決定の原理を考える基礎になる。	6月22日(土) ①9:30-11:00
10	長期的な経営意思決定の問題を投資案の評価を通して取り上げる。ここでは従来とは比較にならないほど詳細でしかも不確実性に十分に配慮した分析が、表計算を利用したシミュレーションによって可能になることを学習する。特にいくつもの要因について不確実性が見いだされる場合にどのような分析が可能であるかが重要なテーマとなる。なお確率の利用は、第 14 週以降に取り上げる。	6月29日(土) ①9:30-11:00
11	先週の続き。「提出課題 3」の出題。問題はテキストに一応は印刷済みであるが、解答のための計算表等はこれまでの学習成果を利用して各自工夫させることによって、学習効果の苦情を狙っている。授業の進行状況から一部修正や問題の取り替えも想定している。	7月6日(土) ①9:30-11:00
12	短期的な意思決定問題の例として、3製品で3制約条件の場合のセールスマックスの決定、製品の採算性の基準(どの製品が有利な製品かの判断基準)が工業企業でも粗利益率であり得るか、何によって判断されるか、複数の制約条件の場合にも従来の採算性の基準による判断が適用できるかの諸問題を取りあげ、最終的な解決策としては多品種の採算性分析も LP によらざるを得ないことを取りあげる。	7月13日(土) ①9:30-11:00
13	管理会計は経営工学の諸問題の技法を積極的に取り入れることで有効な分析が可能になることを、最適バッチサイズの決定と複雑な LP 問題の例で取り上げて学習する。前者については従来の公式によるのでは解決できないような問題も、表計算とソルバー等を利用したシミュレーションによって解決案が見いだされることを取りあげる。この週には製品数 4 つ、制約条件も非負条件等も含めると合計 10 以降になる実践的レベルの LP 問題を「提出課題 4」として出題する。	7月20日(土) ①9:30-11:00
14	意思決定での不確実性に対応するための確率を利用した評価法を学習する。この週では標準偏差は知られているものとしてその利用法を取り上げ、特に確率を利用しない場合と比較して提供する情報でどのような違いが出るかを中心に学習する。ここでは統計学的な理論を取り上げるのではなく、利用者の立場で学習するから、特に統計学の理論についての知識を前提としない。	7月27日(土) ①9:30-11:00
15	経営では客観確率の利用できる例は非常に限られている。そこで主観確率を利用して不確実性を評価する方法を学習する。また標準誤差を利用した回帰分析の信頼性の検討の問題にもおよびたいが、例年時間の制約上断念することが多い。	8月3日(土) ①9:30-11:00
試験	実施しない。	

使用教科書／評価方法等

教科書	作成した講義録を配布してテキストとする。毎年変わっているので、注意されたい。
参考書	講義の時間中に必要な参考書は適時指摘する。
評価方法	課題を 4 回ほど出すので、これの解答の提出が 75%、出席を含む授業への貢献度など 25%。
その他	課題はできるだけ早く e メールで提出して添削を受けること。期限ぎりぎりに提出して添削の余裕時間のないのは、よい評価は得られない。

ID: YA13335

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	応用実践	応用管理会計	林總	15	2

授業の目的

P.F. ドラッカーの著書の中で、管理会計のテキストと言うべき「創造する経営者」を精読し、ディスカッションを重ねることで、マネジメントのための会計の意味を理解、実感することを目的とします。

授業の到達目標

経営者はどのような視点で会社を経営し、どのように管理会計を活用すべきかを理解することを到達目標とする。

履修条件

管理会計または原価計算を履修した者

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	P.F. ドラッカーの会計観を概観する。『創造する経営者』全体を通じて、どのような議論が為されているのかを把握する。また会計と言う視点から捉えると、どのような理解ができるのか考えて行く。ドラッカーは現在の会計学の考え方とは異なる発想で会計を表現していたりするので、初回は違いがあるという認識を共有する。	4月13日(土) ④15:10-16:40
2	第1章「企業の現実」を取り上げる。	4月20日(土) ④15:10-16:40
3	第2章「業績をもたらす領域」を取り上げる。	5月11日(土) ④15:10-16:40
4	第3章「利益と資源、その見通し」取り上げる。	5月18日(土) ④15:10-16:40
5	第4章「製品とライフサイクル」を取り上げる。	5月25日(土) ④15:10-16:40
6	第5章「コストセンターとコスト構造」を取り上げる。	6月1日(土) ④15:10-16:40
7	第6章「顧客が事業である」を取り上げる。	6月8日(土) ④15:10-16:40
8	第7章「知識が事業である」を取り上げる。	6月15日(土) ④15:10-16:40
9	第8章「これがわが社の事業である」を取り上げる。	6月22日(土) ④15:10-16:40
10	第9章「強み基礎とする」を取り上げる。	6月29日(土) ④15:10-16:40
11	第10章「事業機会の発見」を取り上げる。	7月6日(土) ④15:10-16:40
12	第11章「未来を今日築く」を取り上げる。	7月13日(土) ④15:10-16:40
13	第12章「意思決定」を取り上げる。	7月20日(土) ④15:10-16:40
14	第13章「事業戦略と経営計画」を取り上げる。	7月27日(土) ④15:10-16:40
15	第14章「業績をあげる」を取り上げる。	8月3日(土) ④15:10-16:40
試験	期末レポート	

使用教科書／評価方法等

教科書	『創造する経営者』P.F. ドラッカー原著 ダイアモンド社 2007年
参考書	『ドラッカーと会計の話をしよう』林總著 中経出版 2010年
評価方法	期末レポート 30%、出席を含む授業への貢献度など 70%
その他	

ID: YA13338

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	通年	応用実践	管理会計論研究指導	山本宣明	30	4

授業の目的

本科目は修士論文作成を目的としています。そのため、各自研究発表を行っていただきますが、管理会計研究のフロンティアに関して、共同で議論をしていきます。そこで、本年度の授業では管理会計の国際的側面に光を当てます。

授業の到達目標

履修者各自との議論を通じてテーマを確定し、序論→先行研究の検討→結論完成→本論完成へと順次進むことを目標とします。租税法研究指導のマイルストーンと同じペースで本科目でも執筆プロセスを適宜フォローしていきます。

履修条件

修士論文作成・完成・合格は相当な覚悟がなければ達成できません。厳しい執筆と指導に応える覚悟を固めてから履修を検討してください。また、輪読を予定している『国際ビジネス・ファイナンス』についても、有意な議論となるよう積極的に予習・復習いただくことを前提とします。

授業計画

回	授業内容	日程
1	ガイダンス	4月13日(土) ③13:30-15:00
2	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	5月11日(土) ③13:30-15:00
3	各自の発表と議論	5月11日(土) ④15:10-16:40
4	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	5月25日(土) ③13:30-15:00
5	各自の発表と議論	5月25日(土) ④15:10-16:40
6	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	6月8日(土) ③13:30-15:00
7	各自の発表と議論	6月8日(土) ④15:10-16:40
8	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	6月22日(土) ③13:30-15:00
9	各自の発表と議論	6月22日(土) ④15:10-16:40
10	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	7月6日(土) ③13:30-15:00
11	各自の発表と議論	7月6日(土) ④15:10-16:40
12	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	7月20日(土) ③13:30-15:00
13	各自の発表と議論	7月20日(土) ④15:10-16:40
14	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	8月3日(土) ③13:30-15:00
15	各自の発表と議論	8月3日(土) ④15:10-16:40
16	ガイダンス	10月5日(土) ③13:30-15:00

17	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	10月19日(土) ③13:30-15:00
18	各自の発表と議論	10月19日(土) ④15:10-16:40
19	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	11月2日(土) ③13:30-15:00
20	各自の発表と議論	11月2日(土) ④15:10-16:40
21	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	11月16日(土) ③13:30-15:00
22	各自の発表と議論	11月16日(土) ④15:10-16:40
23	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	11月30日(土) ③13:30-15:00
24	各自の発表と議論	11月30日(土) ④15:10-16:40
25	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	12月14日(土) ③13:30-15:00
26	各自の発表と議論	12月14日(土) ④15:10-16:40
27	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	1月11日(土) ③13:30-15:00
28	各自の発表と議論	1月11日(土) ④15:10-16:40
29	『国際ビジネス・ファイナンス』の輪読・議論	1月25日(土) ③13:30-15:00
30	各自の発表と議論	1月25日(土) ④15:10-16:40
試験	修士論文の完成・審査の合格	

使用教科書／評価方法等

教科書	特に無し
参考書	『国際ビジネス・ファイナンス』
評価方法	修士論文の完成・合格 40%、出席を含む授業への貢献度など 60%
その他	

ID: YA13512a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	基本	監査論	篠宮雅明	15	2

授業の目的

現代の市場経済では、企業に対して財務内容の開示が求められており、開示の主要な手段である財務諸表については、適正性に関する独立した公認会計士又は監査法人による監査が必要とされている。その意味で、財務諸表の監査は、市場経済を支える重要な役割を担っている。本講義では、財務諸表の監査を中心とした監査の目的から機能、我が国における監査制度、監査基準の構成、監査実施のプロセスについて学習していく。

授業の到達目標

監査の制度的枠組みや監査実施上の基本的な考え方・技術・意見形成の過程を理解することにより、監査理論の基礎を習得することを目標とする。

履修条件

なし

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	社会を揺るがす経済事件 会計及び監査に関する事件（一般的に粉飾決算と呼ばれる事件）として、証券市場に大きな影響を与えた我が国のカネボウ事件と米国のエンロン事件の概要の理解を通して、株式が証券市場に上場するという事、証券市場における開示の手段と粉飾決算の原因（不正リスク要因）の概要を学習する。	4月16日(火) ⑤19:30-21:00
2	経済事件とコーポレート・ガバナンス 経営者のリスク管理体制の構築義務を再認識させた大和銀行ニューヨーク支店事件の概要の理解を通して、コーポレート・ガバナンス（企業統治）、コンプライアンス（法令遵守）、内部統制の概要を学習する。	4月23日(火) ⑤19:30-21:00
3	経済社会を支える財務情報 主に企業の資金調達の手段と財務情報の公開制度の概要の理解を通して、財務情報を利用する利害関係者のニーズ、利害関係者保護の必要性（情報の信頼性の確保）、財務情報開示制度の充実（頻度の増加、開示手段の多様化など）について学習する。	5月7日(火) ⑤19:30-21:00
4	財務諸表監査の必要性 監査の役割に関する歴史的な考察を通して、財務諸表監査の目的、財務諸表監査の必要性、監査人がなすべきこと、利害関係者が監査人に期待することと監査人が実際に行っていることのギャップ（期待のギャップ）などについて学習する。	5月14日(火) ⑤19:30-21:00
5	監査を取り巻く法律 監査に関係する法律は多数存在するが、それらの中から、営利企業に対して監査を義務付ける法律である金融商品取引法と会社法、監査主体（公認会計士、監査法人）を規制する法律である公認会計士法の概要について学習する。	5月21日(火) ⑤19:30-21:00
6	監査を担当する人 監査証明業務を行う公認会計士とはどのような職業なのか、公認会計士の業務、公認会計士の資格取得、公認会計士に求められるもの（独立性、正当な注意、職業的懐疑心、守秘義務など）、公認会計士の責任などについて学習する。	5月28日(火) ⑤19:30-21:00
7	監査を取り巻く組織 監査制度、証券市場、財務情報に関係する組織として、我が国における唯一の監査主体の組織（日本公認会計士協会）、監督組織（金融庁、公認会計士・監査審査会など）、会計基準の作成主体（企業会計審議会、企業会計基準委員会）の概要、米国及び国際的な組織の概要について学習する。	6月4日(火) ⑤19:30-21:00

8	<p>監査のルール</p> <p>財務諸表監査が社会的に信頼を得るためには、監査の実施や報告について一定の基準を設ける必要がある。我が国における一般に公正妥当と認められる監査の基準である監査基準の社会的役割、改訂の経緯、構成などについて学習する。</p>	6月11日(火) ⑤19:30-21:00
9	<p>監査のプロセス(1)</p> <p>監査契約の締結から、監査の実施、監査報告に至るまでの、監査の基本的なプロセスの概要を理解するとともに、主に監査計画の策定から監査の実施に際して考慮すべき監査の基本的な考え方(試査、リスク・アプローチなど)の概要について学習する。</p>	6月18日(火) ⑤19:30-21:00
10	<p>監査のプロセス(2)</p> <p>監査のプロセスのうち、監査の実施プロセス(リスク評価、監査要点の設定、リスク対応、監査証拠の評価など)を中心に、さらに経営者から入手する監査証拠の一種である経営者確認書、監査の実施過程とその結果を記録する監査調書について学習する。</p>	6月25日(火) ⑤19:30-21:00
11	<p>監査結果の報告</p> <p>監査主体から利害関係者への情報伝達の手段としての監査報告書の構成と記載内容、除外事項の種類と監査意見の関係、追記情報の意義と種類、さらに継続企業(ゴーイング・コンサーン)前提について学習する。</p>	7月2日(火) ⑤19:30-21:00
12	<p>監査の信頼性向上のための取り組み</p> <p>カネボウ事件などで失墜した監査の社会的な信頼性を回復するための取り組みとして、内部統制報告書の監査制度、監査人の独立性の確保を強化するための施策(非監査証明業務の同時提供禁止、ローテーションなど)、監査人に対する監視・監督体制の強化などについて学習する。</p>	7月9日(火) ⑤19:30-21:00
13	<p>健全な社会と監査—いろいろな組織の監査</p> <p>社会は営利企業のみで構成されているのではなく、広く不特定多数の者に対してサービスを提供する非営利組織体も数多く存在する。非営利組織体が開示する財務情報とその信頼性の確保について、学校法人、公益法人、独立行政法人・国立大学法人、政治団体に対する監査を中心に学習する。</p>	7月16日(火) ⑤19:30-21:00
14	<p>コンピュータ環境下の監査</p> <p>監査が義務付けられる営利企業のほとんどは、情報技術(IT)を利用して財務情報を記録・処理している。また、内部統制も情報システムに組み込まれて機能しているケースが多い。このような高度にコンピュータ化された環境における監査の実施について学習する。</p>	7月23日(火) ⑤19:30-21:00
15	<p>不正リスクに対応した監査</p> <p>平成25年3月に設定された「監査における不正リスク対応基準」について、不正に対応した監査の考え方、財務諸表監査の目的や期待ギャップとの関係、不正リスクに対応した監査のプロセスについて、その概要を学習する。</p>	8月6日(火) ⑤19:30-21:00
試験	<p>期末テスト(筆記試験)</p>	8月20日(火) ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	<ul style="list-style-type: none"> 『新版 まなびの入門監査論(第2版)』盛田良久・百合野正博・朴大栄編著 中央経済社 2012年 講義において配布する資料
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『財務諸表監査 私論』五十嵐達朗著 日経事業出版センター 2012年 『監査実務ハンドブック(平成25年版)』日本公認会計士協会出版局 2012年
評価方法	期末テスト60%、出席を含む授業への貢献度など40%
その他	

ID: YA13513

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	基本	職業倫理	慶松勝太郎 服部彰	15	2

授業の目的

LEC 会計大学院の使命・目的の一つは、職業倫理観を備えた会計職業人の養成である。本授業はこの目的のために、受講者が前半で倫理に関する基本的な考え方を、後半で実際の倫理判断の制度的基礎を学習し、かつその上において倫理的な思考が行えるようになることを目指す。なお、後半ではケース・スタディを取り入れて、公認会計士倫理の国際的な方法論となっている「概念的枠組みアプローチ」によって専門職業たる会計職業人の倫理問題へ対処法を学ぶ。

授業の到達目標

倫理に関する種々の考え方を理解し、かつ実際の倫理判断の制度的基礎と適用方法を知り、会計職業人としての倫理的判断の岐路に立った時に自主的に判断ができる人材の養成。

履修条件

会計、税務又は監査に関する一般的知識があること

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	[イントロダクション]マイケル・サンデルの『これからの正義の話をしよう』から倫理とは何だろうと考える。日本における倫理判断の伝統的基礎になっている考え方についても触れる。	4月17日(水) ⑤19:30-21:00
2	[日本の倫理思想]第1回に引き続き日本における倫理思想について考える。	4月24日(水) ⑤19:30-21:00
3	[倫理に絶対はあるか]バーナードの倫理思想を学ぶ。動物からの倫理学、カントの絶対思想を学ぶ。	5月8日(水) ⑤19:30-21:00
4	[科学哲学の形成]カントの対極にあると思われるライヘンバッハの考え方を学ぶ。	5月15日(水) ⑤19:30-21:00
5	[目的論的アプローチ]功利主義について考える。プラグマティズムを通じて神と自然科学の共存を考える。ウェーバーの責任倫理について学ぶ。	5月22日(水) ⑤19:30-21:00
6	[現代における正義とは何か]ロールズの『正義論』について考える。[共同体とコミュニティ]サンデルの考え方からアリストテレスとギリシャ・ローマ時代の共同体の倫理を考える。	5月29日(水) ⑤19:30-21:00
7	[企業の社会的責任]企業の社会的責任はあるのか。あるとすればどんな責任があるのかを議論する。	6月5日(水) ⑤19:30-21:00
8	公認会計士、税理士等の職業倫理制度についてその概要、沿革、存在理由、機能等について概説する。	6月12日(水) ⑤19:30-21:00
9	公認会計士業務とは何かを公認会計士協会のブローチャー等を基に学び、公認会計士倫理制度について、公認会計士法、公認会計士協会規則、会社法、金融商品取引法などの法令的側面から解説する。J SOXについても触れる。	6月19日(水) ⑤19:30-21:00
10	税理士業務とは何かを税理士協会のブローチャー等を基に学び、税理士倫理制度について、税理士法、会社法、税法等などの法令的側面から解説する。	6月26日(水) ⑤19:30-21:00
11	公認会計士の倫理規則の内容について説明し、その基本的な考え方である「概念的枠組みアプローチ」について解説する。国際基準である国際会計士連盟(I F A C)の倫理規則との関係についても述べる。	7月3日(水) ⑤19:30-21:00
12	①上記「概念的枠組みアプローチ」に基づく会計職業人の倫理的ジレンマの対処法をケースによって考えてもらう。 ②企業におけるビジネス・エシックス(経営倫理)の実践と会計職業人の関係を考える。	7月10日(水) ⑤19:30-21:00

13	①税理士倫理に関するジレンマをケースによって考えてもらう。 ②倫理の実践に欠かせないIntuition（直観・感得・体得）の方法論を解説・討議する。	7月17日(水) ⑤19:30-21:00
14	職業倫理の実践方法について、個人レベルの実践法、集団レベルの実践法、研修の方法等について具体例を挙げて解説する。 また、具体的倫理問題に関して出席者の意見を交換することにより、個々人の考え方の違いと客観化の重要性に気づいてもらい、考えを深めていく方法論を学ぶ。	7月24日(水) ⑤19:30-21:00
15	討論会 種々の倫理的思考を踏まえた考え方から実際に起こった企業の倫理問題について全員で討論する。	8月7日(水) ⑤19:30-21:00
試験		8月21日(水) ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	「公認会計士倫理読本」八田進二著、財経詳報社。「実践コンプライアンス」田中宏司著、P HP研究所。その他、必要な資料はその都度配布。
参考書	『これからの「正義」の話をしよう』マイケル・サンデル著 鬼澤忍訳、早川書房、2010年。 『道徳形而上学原論』イマニュエル・カント著 篠田秀雄訳、岩波書店、1976年。 『実践理性批判』イマニュエル・カント著 宇都宮芳明訳、以文社、2004年。 『科学哲学の形成』ハンス・ライヘンバッハ著 市川三郎訳、みすず書房、1985年。『道徳 及び立法の諸原理序説』ジェレミー・ベンサム著 山下重一訳、中央公論社「世界の名著32」 昭和42年。 『功利主義』J.S. ミル著 水田珠枝・永井義雄訳、河出書房新社、「世界の大思想Ⅱ-6」昭 和42年。 『プラグマティズム』ウィリアム・ジェームズ著 榊田啓三訳、岩波文庫、1971年。『現代 倫理学の展望』伴博・遠藤博編、勁草書房、2001年。 『正義論』ジョン・ロールズ著 川本隆史・福田聡訳、紀伊国屋書店、2010年。
評価方法	期末テスト70%、出席を含む授業への貢献度など30%
その他	

ID: YA13532

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	応用実践	監査事例研究	篠宮雅明	15	2

授業の目的

本講義では、主として我が国における財務諸表監査を取り巻く重要な課題や、いわゆる粉飾（不正による財務諸表の虚偽表示）、監査人の交代や監査実施に関する品質管理上の問題などについて、重要な事例に関する企業・監督官庁の開示資料や参考となる書籍、日本公認会計士協会の公表資料などを中心に考察していく。なお、本講義の履修者には、各回の授業内容についての予習・発表を行い、積極的に議論に参加することが求められる。

授業の到達目標

①財務諸表の利用者として、不適切・不明瞭な開示などの問題点を推察できる能力を養うこと。②財務諸表の監査人として、監査上の問題点の把握と対応・解決に対する実践的な能力を養うこと及び職業的専門家としての懐疑心を養うこと。

履修条件

「監査論」及び「監査手続論」の既履修もしくは同程度の理解を前提とする。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	不正は、なぜなくなるのか 不正は、発覚した際には、企業イメージの毀損、経営者に対する刑事・民事訴訟、証券市場における上場廃止、企業の存続自体が困難になるケースなど、過去の事例から多額の代償を払うことは明らかである。それにもかかわらず不正はなぜなくなるのか。不正に至る心理、不正リスク要因などについて言及する。	4月17日(水) ⑤19:30-21:00
2	不正な財務報告 不正な財務報告（いわゆる粉飾）について、その手法（売上の過大・架空計上、費用の先送りや過小計上など）、財務諸表に与える影響（当期のみならず、翌期以降）の概要を理解する。	4月24日(水) ⑤19:30-21:00
3	不適切な会計処理と粉飾の違い 近年、上場企業において不適切な会計処理の開示事例が増加しており、課徴金の勧告事案や、影響が大きい場合には上場廃止に繋がることも考えられる。この不適切な会計処理とは、いわゆる粉飾と何が違うのかについて議論を行う。	5月8日(水) ⑤19:30-21:00
4	売上の架空計上 企業を取り巻く多くの利害関係者にとって、企業の業績は最大の関心事であり、その業績に対して売上高の計上、収益認識は重大な影響を与える。粉飾事例も不適切な収益認識に起因するものが多い。今回は実体のない売上取引の架空計上についての議論を行う。	5月15日(水) ⑤19:30-21:00
5	循環取引 売上の架空計上の一形態である、いわゆる循環取引については、ソフトウェア売上取引や商品を直送するあるいは名義変更で取引が行われるなど特有の商慣習を有する業界において粉飾の手段として用いられてきた経緯がある。この循環取引に対する監査上の課題について議論を行う。	5月22日(水) ⑤19:30-21:00
6	原価の過少計上－在庫の過大計上 不適切な収益認識と同様、原価を過少に計上することによっても粉飾を行うことは可能である。原価を過少に計上するためには、原価の発生そのものを隠蔽することや、在庫を過大に計上すること（架空在庫の計上、評価の水増しや評価損の未計上）になる。今回は主に在庫に関する監査上の課題について議論を行う。	5月29日(水) ⑤19:30-21:00
7	貸倒引当金の不計上・過少計上 債権の回収可能性は、債務者の財務内容に応じて判断されるが、一般の事業会社がすべての債務者の財務内容を把握することは現実には困難である。そのため、貸倒見積高が妥当か否かの判断は困難な状況が多い。不計上や過少計上の原因が、不正か誤謬かについての判断を中心に、監査上の課題について議論を行う。	6月5日(水) ⑤19:30-21:00
8	有価証券の評価 余剰資金の運用や本業での損失を補うため、あるいはM&Aなど、企業が投資を行う理由は様々であるが、すべての投資が企業の思惑通りの結果をもたらすとは限らない。いわゆる飛ばしなどに代表される巨額損失の隠蔽について議論を行う。	6月12日(水) ⑤19:30-21:00

9	固定資産の減損 固定資産の減損については、見積対象の期間が長期にわたることが多く、見積りのプロセスそのものも複雑である。今回は固定資産の減損に関する監査上の課題について議論を行う。	6月19日(水) ⑤19:30-21:00
10	繰延税金資産の回収可能性 繰延税金資産の回収可能性は、スケジューリングや課税所得の発生見込などの要素が複雑に絡み合い、その判断に困難を極めることが多い。今回は繰延税金資産の回収可能性に関する監査上の課題について議論を行う。	6月26日(水) ⑤19:30-21:00
11	連結の範囲—連結外し 連結財務諸表が中心的な役割を果たす現在のディスクロージャー制度においては、業績不良の子会社を連結の範囲から意図的に外すことで、企業集団の業績を歪めることが可能となる。連結の範囲をどのように判断するか、監査上の課題について議論を行う。	7月3日(水) ⑤19:30-21:00
12	資産の流用 不正な財務報告は、いわゆる粉飾（情報の操作）のみではなく、会社資産の不適切な使用（横領、着服など）の結果による場合も多い。今回は、主に従業員による資産の流用について議論を行う。	7月10日(水) ⑤19:30-21:00
13	継続企業の前提 企業外部の利害関係者にとって、企業が継続するか否かについての情報は、その意思決定に重要な影響を与える。一方で監査人にとっても、企業が継続するか否かの判断を行うことは決して容易なことではない。継続企業の前提に関する監査上の課題について議論を行う。	7月17日(水) ⑤19:30-21:00
14	リスク・アプローチによる監査の実施 平成3年の監査基準改訂においてリスク・アプローチの考え方が導入されてから既に20年が経過している。その一方で品質管理レビューにおいて、今なおリスク・アプローチによる監査の実施についての改善勧告が数多くなされているという現実がある。リスク・アプローチによる監査の実施に対する課題について議論を行う。	7月24日(水) ⑤19:30-21:00
15	監査人の交代 監査人はどのような場合に交代するのか、交代の時期（任期満了か、期の途中か）、交代の理由、辞任か解任かなどの観点から、企業と監査人はどのような関係にあるのかを考察するとともに、企業側・監査人側それぞれの課題について議論を行う。	8月7日(水) ⑤19:30-21:00
試験	期末レポート	

使用教科書／評価方法等

教科書	講義において配布する資料
参考書	『不正を許さない監査—会計情報はどこまで信用できるか』 浜田康著 日本経済新聞社 2002年 『りそなの会計士はなぜ死んだのか』 山口敦雄著 毎日新聞社 2003年 『ライブドア監査人の告白』 田中慎一著 ダイアモンド社 2006年 『監査難民』 種村大基著 講談社 2007年 『公認会計士 vs 特捜検察』 細野祐二著 日経BP社 2007年 『会計不正—会社の「常識」 監査人の「理論」』 浜田康著 日本経済新聞出版社 2008年 『巨額粉飾』 嶋田健三郎著 新潮文庫 2011年 『解任』 マイケル・ウッドフォード著 早川書房 2012年 『監査実務ハンドブック（平成25年版）』 日本公認会計士協会出版局 2012年
評価方法	期末レポート50%、出席を含む授業への貢献度など50%
その他	

ID: YA13415

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	基本	経済学	高森寛	15	2

授業の目的

会計およびファイナンスの分野でのプロフェッショナル（専門職業人）として活躍できるためには、個々の企業や組織内の会計業務を処理できるだけでなく、より広く、企業を取り巻く経済の動向が読めなくてはなりません。産業と経済を動かす原理や仕組み、ダイナミクスを理解し、企業や組織が切り開くべき進路と戦略を洞察できる知識と素養を身につけることを目的とします。

授業の到達目標

ミクロ経済学の基本的な知識や概念を身につけることを、第1の目標として、経済学的な思考力を磨き、また、マクロ経済と金融経済についても、基本的な知識と概念を学びます。経済の諸現象を、具体的なモデルで、具体的に分析し、思考できるように、演習することを重視します。

履修条件

特になし。中学、高等学校程度の数学知識が望ましい。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	I. イントロダクション「経済学の十大原理」 希少性、経済学、効率、衡平、機会費用、限界的な変化、市場経済、市場の失敗、外部性、市場支配力、生産性、インフレーション、フィリップス曲線、景気循環特になし。 中学、高等学校程度の数学知識が望ましい。	4月13日(土) ⑤16:50-18:20
2	テキスト1章、「需要と供給」 需要曲線とは、価格弾力性、価格と需要、生産可能性フロンティア、需要曲線のシフト、生産機会、機会費用、特化と交易	4月20日(土) ⑤16:50-18:20
3	テキスト2章. 需要曲線と消費者行動 市場と競争、価格と需要、需要と収入、需要と効用、消費者余剰、需要と供給の均衡、市場清算価格、需要と効用最大化	5月11日(土) ⑤16:50-18:20
4	テキスト3章. 「費用の構造と供給行動」 供給曲線、平均費用と限界費用、供給のシフトと均衡の移動、機会費用、生産者余剰、供給の価格弾力性、利潤最大化行動と供給行動、生産可能性フロンティア	5月18日(土) ⑤16:50-18:20
5	テキスト4章. 「市場取引と資源配分」 市場と価格メカニズム、資源の還流の仕組み、余剰分析、計画経済と市場経済、市場競争と経済発展、自由貿易の利点、資源配分の歪み、比較優位、アダム・スミスの「見えざる手」	5月25日(土) ⑤16:50-18:20
6	テキスト5章. 「ゲームの理論入門」 「囚人のジレンマ」、囚人のジレンマ的な諸現象、ナッシュ均衡、参入阻止行動、強調のメカニズム、ゲームの樹による表現、ルールか裁量か	6月1日(土) ⑤16:50-18:20
7	テキスト6章. 「独占と競争の理論」 独占の理論、独占価格と資源配分、完全競争と独占的競争、退出行動と資源配分、市場の失敗	6月8日(土) ⑤16:50-18:20
8	テキスト7章. 「市場の失敗」 外部経済・外部性、外部性と市場の非効率性、外部性に関する余剰分析、外部性の内部化、公共財に理論、厚生経済学のエッセンス、コースの定理	6月15日(土) ⑤16:50-18:20
9	テキスト9章「消費者の理論」 無差別曲線と効用、限界代替率、予算制約と消費者行動、所得変化と需要、需要関数、劣等財と正常財、価格の変化と需要、代替効果と所得効果、補完財と代替材、労働供給の理論	6月22日(土) ⑤16:50-18:20
10	中間試験	6月29日(土)

		⑤16:50-18:20
11	II. マクロ経済学 テキスト 10. 「経済のマクロ的諸事象」、国民所得 GDP について、マクロ経済の鳥瞰 (Over Views) , 国内総生産、経済成長率、GDP に係る恒等式、ケインズ経済学と新古典派経済学、マクロ経済における需要と供給、供給サイドからの GDP と需要サイドからの GDP	7月6日(土) ⑤16:50-18:20
12	テキスト 11. 「有効需要と乗数メカニズム」 需要不足がもたらす不況、所得・需要・生産の相互メカニズム、所費関数と生産・所得・需要の決定、投資と政府支出、外国からの投資	7月13日(土) ⑤16:50-18:20
13	テキスト 12. 「貨幣の機能」 貨幣とは何か、貨幣の交換媒介機能、マネーサプライと信用乗数、信用乗数のマネーサプライの変化、貨幣供給と物価、金利と貨幣需要、貨幣の需給とインフレーション	7月20日(土) ⑤16:50-18:20
14	テキスト 13. 「マクロ経済政策」 財政政策と金融政策、資産市場と財市場の接点：利子率と GDP、金融政策と有効需要、フィリップス曲線について	7月27日(土) ⑤16:50-18:20
15	テキスト 14. 「インフレと失業」 インフレーションと物価、インフレーションと金利、雇用と失業、完全失業率、有効求人倍率、自然失業率、賃金の下方硬直性、効率性賃金仮説	8月3日(土) ⑤16:50-18:20
試験	期末試験	8月24日(土) ⑤16:50-18:20

使用教科書／評価方法等

教科書	『入門経済学』伊藤元重著、日本評論社、2010年
参考書	『入門経済学』マンキュー著、足立他訳、東洋経済新報社、2010年
評価方法	期末テスト 40%、出席を含む授業への貢献度など 30%、宿題・課題・中間試験等 30%
その他	適宜に、宿題、課題等をだします。

ID: YA13435

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	応用実践	ファイナンス事例研究	島義夫	15	2

授業の目的

企業価値評価を中心として「コーポレート・ファイナンス」の主要な内容についてケーススタディを通じて学び、その内容を実践できるようにする。具体的には、将来のフリー・キャッシュフロー予想、資本コストの推定について学び、投資プロジェクト評価や企業価値評価を実践する。その上で、資本構成、企業価値最大化、M&Aなどの現実の経営課題のに対するソリューションに取り組む。企業を財務的に見る目を養うだけでなく、経営上の課題を発見し、問題解決に何が必要かまで理解できることを目的とする。

授業の到達目標

与えられた財務情報から実際に企業価値評価ができるようになる。その作業を通じて、現実世界で様々な企業の直面する経営上の問題を理解し、問題へ対処するためのメニューを具体的に考えることができるようになる。

履修条件

簿記・会計は必須。財務諸表分析の内容を一通り知っていることが望ましい。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	授業の概要と計画。この授業で何が学べるかの説明。教科書第1章。ファイナンスの全体像とコーポレートファイナンスの位置づけについて説明する。	4月13日(土) ③13:30-15:00
2	資産評価手法としてのDCF手法をマスターする。教科書第2章前半の内容である。DCF手法を使った資産評価を、不動産、株式などの実例を通じて理解するだけでなく実践できるようにする。	4月20日(土) ③13:30-15:00
3	企業の投資プロジェクト評価を学ぶ。教科書第2章後半の内容である。代表的な投資プロジェクト評価であるNPVについて理解し実践する。また、類似手法であるIRRとの比較などを通じてそれに精通する。	5月11日(土) ③13:30-15:00
4	営業フリーキャッシュフローを求める。教科書第3章の内容である。実際の企業財務諸表から企業価値評価に必要な「営業フリーキャッシュフロー」の意味を理解しつつ、実際に数字を出す。	5月18日(土) ③13:30-15:00
5	営業フリーキャッシュフローの将来予測を行う。教科書第3章の内容である。営業フリーキャッシュフローの将来予想に必要な要素や注意点を理解し、その予想を実践する。	5月25日(土) ③13:30-15:00
6	企業価値評価の実践。教科書第3章後半の内容である。営業フリーキャッシュフローの予想を行い、あらかじめ与えられた資本コストのもとで、実際に企業価値評価を行う。	6月1日(土) ③13:30-15:00
7	これまでのまとめと中間段階の確認テストを実施する。確認テスト実施の直後にはその解説を行う。	6月8日(土) ③13:30-15:00
8	資本コストの理解と実践。教科書第4章の内容である。資本コストの考え方を知り、株式資本コストについてCAPM式を通じて理解し、実際の数字を推定できるようにする。	6月15日(土) ③13:30-15:00
9	CAPM式の理解に必要な現代ポートフォリオ理論について学ぶ。教科書第4章後半と補論。リスク・リターンの関係で金融商品を理解し、投資理論の基本を学ぶことで資本コストの理解を深める。	6月22日(土) ③13:30-15:00
10	金融市場の実際の動きを実例などを通じて学ぶ。世界の代表的な金融メディアやインターネットなどを通じて、グローバル金融市場の動きを知り、投資家の行動を通じて資本コストに関する理解を深める。	6月29日(土) ③13:30-15:00

11	企業の資本構成に関する主要な論点を学ぶ。教科書第5章。MM 命題とその修正命題について学び、企業の最適負債比率など企業の資本構成に関する実践的な問題について理解を深め、それを現実的な問題に適用できるようにする。	7月6日(土) ③13:30-15:00
12	オプションとリアルオプション。教科書第6章。今や企業の投資決定にも応用されているオプション理論について、その基本を学ぶ。その上で、その応用であるリアルオプションの基本を学ぶ。	7月13日(土) ③13:30-15:00
13	企業経営とファイナンス。教科書第7章。M&A や企業再生の主要な論点について、これまでのコーポレートファイナンスの知識を使って理解する。そして、企業の戦略や主要な意思決定を考えるのにはいかにファイナンスが重要かを学ぶ。	7月20日(土) ③13:30-15:00
14	コーポレートガバナンスに関する実践的な問題や、エージェンシー問題に関する理解を深める。これまでのまとめ。疑問点の整理とそれに対する回答。最終課題へのアドバイス。今後のファイナンス学習へのアドバイスなど。	7月27日(土) ③13:30-15:00
15	出席者による最終課題の簡単な口頭に報告・説明と課題の提出。最終課題報告に対する講評も行う。	8月3日(土) ③13:30-15:00
試験	授業最終回の最終課題報告と提出があるので最終試験は行わない。	

使用教科書／評価方法等

教科書	『入門コーポレート・ファイナンス』 島義夫 著 日本評論社 2010年
参考書	必要に応じて適宜指示する。
評価方法	出席・参加を含む授業への貢献度などで20%、中間段階で行う確認テストで30%、最終課題の発表と提出で50%とする。最終課題では、実際の企業の企業価値評価を行うとともに、そこから引き出される経営上または投資上のインプリケーションが求められる。
その他	税理士・会計士資格の取得後の業務展開には、顧客に対する財務アドバイス・コンサルティング能力などが必要となる。そのためにはコーポレート・ファイナンスの知識は必須である。またホールセール金融業務や企業財務に携わる人間にとっても必須の知識である。当授業の目的は学ぶだけでなく実践できることである。是非多くの学生に受講してほしい。

ID: YA13614

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	基本	企業法 I	平田和夫	15	2

授業の目的

この企業法 I においては、会社法の基礎知識の習得を目的とする。授業では、現時点で最も権威のある体系書をベースとして、適宜判例集を参照することにより、抽象的な概念の把握にとどまらず、具体的な事案についても理解を深めることができるようにする。本講義は、理論と実務の融合を目指すものであるが、更なる発展的な学習の契機ともなり得るものである。

授業の到達目標

法律系専門職に携わる以上、会社法の基礎的な理解は必須といつてよい。今や何らの付加価値もない専門職が生き残ることはできない。本講義で得た知識を武器として、質の高い会計専門職業人を目指してほしい。

履修条件

なし。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	総論 本講義の主な素材は株式会社であるが、合名会社との比較を通じて、株式会社の特質の概要を理解する。株主有限責任の原則を踏まえつつ、法人格否認の法理について主要な判例に触れる。	4月19日(金) ⑤19:30-21:00
2	設立 設立手続には発起設立と募集設立があるが、発起設立を中心に、手続の概要を理解する。併せて、預払い・見せ金について主要な判例に触れる。	4月26日(金) ⑤19:30-21:00
3	株式1 自益権及び共益権という株主の権利の分類を確認した上、株主平等の原則や多様な種類株式の概要を理解する。有価証券法理を踏まえつつ、株券及び株主名簿、更には振替口座簿の概要を学ぶ。	5月10日(金) ⑤19:30-21:00
4	株式2 株式の譲渡自由及び譲渡制限の基本を理解しつつ、自己株式取得の規制の概要を理解する。併せて、株式の分割・併合等の概要を学ぶ。	5月17日(金) ⑤19:30-21:00
5	機関1 定款自治による多様な機関構成及び権限分配の仕組みを理解する。株主総会について、権限、招集、議決権及び決議の瑕疵等の基本を学ぶ。	5月24日(金) ⑤19:30-21:00
6	機関2 取締役について、業務執行の権限分配の基本を押さえつつ、主に取締役会設置会社を念頭に置き、その選任・終任や取締役会及び代表取締役の権限等の基礎を学ぶ。	5月31日(金) ⑤19:30-21:00
7	機関3 引き続き取締役について、善管注意義務及び忠実義務を踏まえ、競業避止義務、利益相反取引、報酬及び責任の概要につき、主要な判例に触れつつ理解する。	6月7日(金) ⑤19:30-21:00
8	機関4 監査役について、権限を中心にその制度の概要を理解する。委員会設置会社について、その仕組みの基本を学ぶ。併せて、会計参与及び執行役に触れる。	6月14日(金) ⑤19:30-21:00
9	計算 決算の手続の概要を理解し、剰余金の処分・配当、資本金・準備金の額の減少の手続に触れ、会計帳簿閲覧権について主要な判例に触れる。	6月21日(金) ⑤19:30-21:00
10	資金調達1 募集株式の発行等について、公開会社と全株式譲渡制限会社との規制の相違を踏まえ、募集の態様に応じて理解する。差止め、無効訴訟について、主要な判例に触れる。	6月28日(金) ⑤19:30-21:00
11	資金調達2 新株予約権について、発行手続の概要を踏まえつつ、買収防衛策について主要な判例に触れる。社債について、発行手続を中心にその概要を理解する。	7月5日(金) ⑤19:30-21:00
12	会社の基礎の変更1 定款の変更及び合併について学ぶ。合併については、株主及び債権者の保護の観点から、その手続の概要を理解する。株式買取請求権について、近時の主要な判例に触れる。	7月12日(金) ⑤19:30-21:00
13	会社の基礎の変更2 会社分割、株式交換・株式移転及び事業譲渡について学ぶ。	7月19日(金)

	合併手続との共通点を踏まえつつ、各手続の特殊性を理解することが重要である。	⑤19:30-21:00
14	解散・清算、倒産法 解散について、解散原因を中心にその基本を理解する。清算については、通常清算と特別清算とに分類されるが、通常清算を中心にその概要を学ぶ。また、破産法を中心に、倒産法の基礎を学ぶ。	7月26日(金) ⑤19:30-21:00
15	特例有限会社及び持分会社並びに会社法制の見直し 特例有限会社について、その概要を理解する。合名会社、合資会社及び合同会社について、その異同を踏まえつつ、各会社形態の特色を浮き彫りにする。また、会社法制の見直しについて概観する。	8月9日(金) ⑤19:30-21:00
試験	期末テスト	8月23日(金) ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	江頭憲治郎『株式会社法』（有斐閣、第4版、2011） 山下友信＝神田秀樹編『商法判例集』（有斐閣、第5版、2012） 『有斐閣判例六法平成25年版』（有斐閣、2012）
参考書	適宜指定する。
評価方法	出席を含む授業への貢献度など80%、期末テスト20%
その他	なし。

ID: YA13615a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	基本	租税法	小山登	15	2

授業の目的

将来、みなさんが会計専門職業人として活躍される際、租税法に対する論理的思考が必須となります。特に租税法では、税実務上前例なき案件に直面することも多々あります。この案件を解決し結論を導出するには、高度の思考力、判断力、実践力が肝要とされるのです。租税法の授業を通じ、これらの能力を十分に養成し、経済社会の発展に貢献できる“人財”を育成することを目的としています。

授業の到達目標

租税法に限らず、会計実践上さまざまな案件に直面した際、自らの能力でその案件を解決し、結論を導き出さなければなりません。租税法の授業を通じて、この能力を養成し実社会で通用する人材を育成していきたいと考えています。

履修条件

受講生のみなさんが、事前に分担した項目につきまとめたレポートを発表し、教員がコメントする形で授業を進めていきます。みなさんの積極的な授業参加を希望します。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	「租税の意義・租税法の意義と特質」 これより研究対象とする租税法の意義と特質、さらに租税の種類と分類等の概要の検討を行います。	4月14日(日) ①9:30-11:00
2	「わが国における租税制度の発達 - 戦後における発達について -、租税法の基本原則」 わが国の戦後における租税制度の発達について、シャープ勧告を中心に検討を行います。さらにわが国における将来の租税制度の展望を考察します。	4月21日(日) ①9:30-11:00
3	「租税法の法源と効力」 租税法の法源の内容を理解し、その効力について研究していきます。特に税実務上使用されている税務通達の意義と位置付けについても検討を行います。	5月12日(日) ①9:30-11:00
4	「租税法の解釈と適用 (1)」 租税法解釈の基盤とされている実質課税の原則について研究します。特に法実主義と経済実質主義について検討を行います。	5月19日(日) ①9:30-11:00
5	「租税法の解釈と適用 (2)」 租税法と私法との関連性について研究します。特に私法からの借用概念について判例等を通じて検討を行います。さらに解釈論の体系に文理解釈と目的論的解釈があり、これら解釈の考察を行います。	5月26日(日) ①9:30-11:00
6	「租税実体法の意義・課税要件総論」 租税実体法の意義を検討し、納税義務の成立要件とされる課税要件について考察を行います。特に各租税に共通の課税要件である納税義務者、課税物件、課税物件の帰属、課税標準(課税ベース)、税率について検討します。	6月2日(日) ①9:30-11:00
7	「課税要件各論・所得課税 - 所得税 -」 個人の所得に対する重要な租税である所得税について検討を行います。所得税の所得の意義、類型、課税単位さらに所得税制度の基本的仕組みについて具体的事例を使い考察をしていきます。	6月9日(日) ①9:30-11:00
8	「所得課税 - 法人税 - (1)」 法人の所得に対する重要な租税である法人税について検討を行います。特に法人税の課税根拠について法人擬制説と法人実在説をとりあげ考察を行います。	6月16日(日) ①9:30-11:00
9	「所得課税 - 法人税 - (2)」 前回の続きとして法人の納税義務者の問題をとりあげ検討を行います。さらにわが国の二重課税調整措置に関して具体例をあげ考察します。	6月23日(日) ①9:30-11:00
10	「法人税法第22条を巡る問題点」 法人税法第22条に規定のある法人の所得金額の計算システムについて検討します。特に益金概念を構成する資産の無償譲渡について企業会計との相違点を考察します。この結果、法人税法上無償取引の益金構成要因を研究します。	6月30日(日) ①9:30-11:00

11	「法人税法第 22 条を巡る問題点」 法人税法第 22 条に規定のある法人の所得金額の計算システムについて検討します。特に益金概念を構成する資産の無償譲渡について企業会計との相違点を考察します。この結果、法人税法上無償取引の益金構成要因を研究します。	7月7日(日) ①9:30-11:00
12	「同族会社と所得課税」 同族会社の行為、または計算の否認規定について、判例等の事例に基づき、規定の趣旨、目的、さらに問題点を考察します。また、この否認規定の過去から現在に至る裁判所の見解に関する変遷の検討を行います。	7月14日(日) ①9:30-11:00
13	「多様な事業体・国際取引と所得課税 (1)」 現在多様な事業体が存在し、この事業体に関する課税問題が租税法上の重要な課題とされています。そこで今回は多様な事業体を取りあげ課税問題を検討します。	7月21日(日) ①9:30-11:00
14	「国際取引と所得課税 (2)」 今回、国際的経済活動に対する課税を研究します。この研究は国際租税法の研究であり、今日重要な課税問題の研究分野となっています。特に、国際的三重課税問題、移転価格税制の問題、過少資本税制の問題、タックス・ヘイヴン対策税制の問題等を取りあげ検討を行います。	7月28日(日) ①9:30-11:00
15	「まとめ」 1回～14回の問題の総括を行いたいと考えています。また、重要な課税事例を取りあげ、みなさんと共に討論を行いたいと思います。(各回、主要判例があれば検討したいと考えています。)	8月4日(日) ①9:30-11:00
試験	課題レポート提出	

使用教科書／評価方法等

教科書	『租税法 第18版』金子宏著 弘文堂 (2013年4月) 『確認租税法用語 250』増田英敏・加瀬昇一編著 成文堂 (2008年12月)
参考書	『ケースブック租税法 第3版』金子宏 他3名編著 弘文堂 (2011年3月)
評価方法	期末課題レポート70%、出席を含む授業への貢献度など30%
その他	みなさんの授業への出席が、授業の成果を有効に高める原動力となります。みなさんの全15回出席を希望します。

ID: YA13627a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	発展	法人税法	木村直人	15	2

授業の目的

法人税法の全体構造を把握し、国内税務・国際税務に関する重要な事項についての理論的な理解を深めることによって、企業が直面する税務上の課題の本質を的確に把握し、適切な判断ができる能力を養うことを目的とします。それにより、進展する経済のグローバル化に対応した高度な専門的知識、問題解決能力を持った質の高い会計専門職業人の育成に資することとします。

授業の到達目標

法令等の条文を読みこなす能力を高め、企業が日々行う取引の課税関係がどうなるかについての的確な判断力を身に着けること、さらには現行税法の問題点や今後の税制のあり方について自分なりの考えを身に着けることを目指します。

履修条件

法人課税に興味を持ち、法人税法についての基礎的な知識を有していること。

授業計画

回	授業内容	日程
1	法人税の意義・性格、法人税の納税義務者の種類と納税義務の範囲、事業年度及び納税地の意義について考察します。	4月15日(月) ⑤19:30-21:00
2	課税所得の計算原理・・・決算利益と所得金額の計算構造及び決算調整・申告調整の意義について考察します。	4月22日(月) ⑤19:30-21:00
3	益金の額の計算(1)・・・益金の意義及び益金の認識基準について、棚卸資産の販売収益・請負の収益を中心に考察します。	5月6日(月) ⑤19:30-21:00
4	益金の額の計算(2)・・・受取配当等の益金不算入制度の意義、益金不算入額がどのように計算されるのか、また外国子会社配当等の益金不算入制度導入の意義とその影響について考察します。	5月13日(月) ⑤19:30-21:00
5	益金の額の計算(3)・・・資産の評価益、受贈益及び還付金等の収益について、何を益金に算入し、何を益金に算入しないか考察します。	5月20日(月) ⑤19:30-21:00
6	損金の額の計算(1)・・・損金の意義、損金の認識基準について考察します。 減価償却資産の意義・取得価額・償却方法及び繰延資産の範囲・償却方法・償却期間について考察します。	5月27日(月) ⑤19:30-21:00
7	損金の額の計算(2)・・・減価償却限度額がどのように計算されるか、事例に基づく演習を行います。	6月3日(月) ⑤19:30-21:00
8	損金の額の計算(3)・・・資産の評価損及び役員給与の損金不算入の意義について考察します。	6月10日(月) ⑤19:30-21:00
9	損金の額の計算(4)・・・租税公課等、不正行為費用等、交際費等及び寄附金の損金不算入について考察します。	6月17日(月) ⑤19:30-21:00
10	グループ法人税制の意義及び完全支配関係がある内国法人間の譲渡取引における譲渡利益額・寄附金の取扱い並びに連結納税制度の意義及び連結納税制度を選択した場合と単体納税制度の相違について考察します。	6月24日(月) ⑤19:30-21:00
11	国際課税(1)・・・国際課税の考え方及び国内源泉所得について考察します。	7月1日(月) ⑤19:30-21:00
12	国際課税(2)・・・タックス・ヘイブン税制の意義、課税対象金額の計算、適用除外の意義及び要件並びに資産性所得の合算課税について考察します。	7月8日(月) ⑤19:30-21:00
13	国際課税(3)・・・タックス・ヘイブン課税が争われた裁判例について検討します。	7月15日(月) ⑤19:30-21:00
14	国際課税(4)・・・移転価格税制の意義、独立企業間価格の算定方法、移転価格課税	7月22日(月)

	回避の手段としての事前確認制度及び国際的二重課税の回避手段としての相互協議の意義について考察します。	⑤19:30-21:00
15	第1回から14回の授業の総まとめを行います。最近の法人税法の改正の方向性等について考察します。	8月5日(月) ⑤19:30-21:00
試験	課題レポート提出	

使用教科書／評価方法等

教科書	『法人税法 理論と計算』（八訂版）成松洋一（平成24年6月1日発行）
参考書	『租税法（第17版）』金子宏（平成24年4月3日発行）授業開始までに第18版が発行されていれば第18版。
評価方法	期末課題レポート60%、出席を含む授業への貢献度など40%
その他	

ID: YA13628a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	発展	所得税法	伊東博之	15	2

授業の目的

わが国に導入されて久しい所得税は基幹税としての地位を保っている。また、個人にとっては最も身近な税といえる。一方、個人納税者の太宗を占める給与所得者の大半が自らの手で税額計算を行うことなく納税が完結するという制度の特徴もあって、所得税法自体は必ずしも身近とはいえない。そこで所得税法の条文の理解はもとより、その趣旨や背景を理解するとともに学説、裁判例等を交えて総合的に所得税課税の全体像を理解する。

授業の到達目標

所得計算や所得区分などの個別規定の修得による所得税制の理解に加え、個人の担税力に応じた課税を特徴とする所得税の課税の目的や根拠と現在における社会事象との乖離や不整合を捉えることができるように理解すること。

履修条件

所得税法等の規定（条文）を繰り返し、繰り返し読み、その制度の内容等を理解する努力をすること。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	【所得税の納税義務（沿革、税体系、所得概念、納税義務者等）】 主にシャープ勧告以後の沿革を概観するとともに、所得税法のわが国税体系における位置づけをはじめ、所得税の納税義務にまつわる事項を中心に説明し爾後の授業の理解に資する。	4月14日(日) ⑥18:30-20:00
2	【所得区分1（所得区分の意義、利子、配当）】 10種類に所得を区分していることの意義を理解する。また、資産性所得の代表である利子所得及び配当所得について、その特徴や性質を理解する。併せて関連する判例を研究する。	4月21日(日) ⑥18:30-20:00
3	【所得区分2（不動産、事業）】 資産性所得である不動産所得と資産勤労結合所得とされる事業所得について取り上げる。これら両所得はいくつもの共通点・類似点があることや沿革から不動産所得廃止論（事業所得統合論）が議論されている。事業的規模かそうでないかにより課税上の取扱いにも影響することや事業所得の意義が明確ではないという指摘などもあり、裁判例も多い。これらを通じて両所得の意義・範囲等を理解する。	5月12日(日) ⑥18:30-20:00
4	【所得区分3（給与、退職）】 勤労性所得とされる給与所得と退職所得とはいずれも規定は例示列举にとどまっているため帰納的に意義付けをするしかない。結果として他の所得区分との境界を巡り多数の判例が存在する。ITの発展に伴う雇用形態の変化や法定控除額の適否等の問題を含め研究する。	5月19日(日) ⑥18:30-20:00
5	【所得区分4（山林、譲渡）】 臨時・偶発的要素の強い両所得について取り上げる。とりわけ譲渡所得については、譲渡の意義を巡る議論、控除費用の範囲等多くの裁判例がありこれらについて研究する。また、土地等又は株式等の譲渡に対する課税制度の変遷とともに複雑化した内容を的確に理解する。	5月26日(日) ⑥18:30-20:00
6	【所得区分5（一時、雑）】 包括所得概念の下で課税の対象とされた両所得について、特に他の所得区分との接点を中心に事例を交えて研究し理解する。	6月2日(日) ⑥18:30-20:00
7	【収入金額（範囲、計上時期）】 収入すべき金額には金銭以外の物や権利を含むこと、その金銭以外のものの評価方法	6月9日(日) ⑥18:30-20:00

	及び所得区分による収入すべき時期の差異等について理解する。併せて関連する判例を研究する。	
8	【必要経費（家事関連費）】 収入金額から控除される必要経費とはどのようなものか（脱税経費は経費として認められるか）、概算経費にはどのようなものがあるか、家事関連費との区分などを理解する。併せて関連する判例を研究する。	6月16日(日) ⑥18:30-20:00
9	【所得計算（総所得金額、損益通算、繰越控除）】 各所得区分ごとの所得金額を計算後の損益通算や純損失や雑損失の繰越控除、純損失の繰戻し還付など特殊な所得計算を含めて年間の課税所得金額の計算について理解する。	6月23日(日) ⑥18:30-20:00
10	【所得控除（各控除の概要）】 所得控除が設けられている意義（課税最低限の保障や担税力への考慮ほか）をはじめ各種所得控除の種類、控除の順序、控除対象者、控除要件等について網羅的に理解する。	6月30日(日) ⑥18:30-20:00
11	【税額計算、変動・臨時所得の平均課税、税額控除】 特殊な税額計算である平均課税を含め税額計算の仕組み及び課税所得金額から控除する各種税額控除の意義及び内容等のほか、還付申告、損失申告、準確定申告などの確定申告の種類並びにその申告要件等その他予定納税を含む納付について理解する。	7月7日(日) ⑥18:30-20:00
12	【青色申告、確定申告と納付】 申告納税制度の根幹をなす申告手続や納付について理解するとともに、併せて事業所得者等に認められている青色申告制度や記帳制度についてその意義を理解する。	7月14日(日) ⑥18:30-20:00
13	【源泉徴収制度（意義、申告所得税との関係）】 源泉徴収制度の意義、仕組み、何らの手続を要せずに確定するその法的性格、特に申告所得税の確定申告との関係等について過去の最高裁等の判例を材料に研究する。	7月21日(日) ⑥18:30-20:00
14	【源泉徴収（徴収義務者、徴収時期、問題点等）】 源泉徴収義務者の範囲、源泉所得税の納税地、支払時の徴収義務と支払の意義、年末調整の意義等源泉徴収を巡る申告所得税との比較においての特徴を理解する。また、源泉徴収制度の問題点とされる事項も検討する。	7月28日(日) ⑥18:30-20:00
15	【不服申立・加算税・罰則・質問検査権】 納税者の権利救済の手段である不服申立制度、申告義務違反等に対する行政上、刑事上の制裁及び税務職員の質問検査権等について理解する。併せて関連する判例も研究する。	8月4日(日) ⑥18:30-20:00
試験	課題レポートの提出	

使用教科書／評価方法等

教科書	池本征男『所得税法 理論と計算 七訂版』税務経理協会 2012年
参考書	金子宏『租税法第17版』弘文堂 2012年、金子宏ほか編著『ケースブック租税法 第3版』弘文堂 2011年
評価方法	課題レポート 70%、出席を含む授業への貢献度など 30% 課題論文に授業の目標とする点がいかに反映しているかに重きを置く。
その他	授業の内容は進度などに応じて変わることがある。

ID: YA13631

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	応用実践	企業法事例研究	平田和夫	15	2

授業の目的

この企業法事例研究においては、会社法を中心に、企業法Ⅰ・Ⅱで得た基礎知識の応用力を養成することを目的とする。オリジナルの問題を受講生に事前に配付するので、徹底的に考え、悩んだ上で、授業に臨んでいただきたい。授業では、受講生全員に発言してもらうので、自らの考えを論理的に表現できるよう努力してほしい。本講義は、正に理論と実務の融合を目指すものであるが、更なる発展的な学習の契機ともなり得るものである。

授業の到達目標

法律系専門職に携わる以上、会社法等の知識の応用力は必須といってよい。今や何らの付加価値もない専門職が生き残ることはできない。本講義で得た応用力を武器として、質の高い会計専門職業人を目指してほしい。

履修条件

企業法Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	会社法総論 法人格否認の法理を出題する。一般に形骸型と濫用型とに区別されているが、事案に当てはめる際の悩みを学んでほしい。関連して、詐害行為取消権、否認権などにも触れる。	4月15日(月) ⑤19:30-21:00
2	設立 見せ金を出題する。発起設立の場合と募集設立の場合とを分類し、条文を丁寧に引用しつつ、各場合における関係者の責任を検討してもらう。	4月22日(月) ⑤19:30-21:00
3	株式1 種類株式を出題する。種類株式には多くの類型があり、会社法の規定も複雑である。事業承継の事案を通じて、各種類株式の利用方法の例を学んでほしい。	5月6日(月) ⑤19:30-21:00
4	株式2 株式譲渡を出題する。株式譲渡に関し、契約書、譲渡承認請求書、取締役会議事録などを作成してもらうことを通じて、契約書等の書面作成の実務の一端に触れる。	5月13日(月) ⑤19:30-21:00
5	株式3 株券及び株主名簿を出題する。善意取得や名義書換の論点を通じ、有価証券理論の基本を学ぶ。併せて、失念株に関する基本的な論点を理解する。	5月20日(月) ⑤19:30-21:00
6	機関1 株主総会について、手続及び決議取消訴訟を出題する。手続については、招集通知や議事録を実際に作成してもらう。決議取消訴訟については、組織再編無効訴訟との関係などを理解する。	5月27日(月) ⑤19:30-21:00
7	機関2 代表権の制約を出題する。権限濫用、表見代表取締役、取締役会決議事項、株主総会特別決議事項などの多様な素材を基に、基本的な論点について、事例を通じて理解する。	6月3日(月) ⑤19:30-21:00
8	機関3 取締役に係る競業取引及び退職慰労金を出題する。いずれも最新の判例及び実務を踏まえ、実践的な観点から検討してもらう。競業取引に関し、不正競争防止法にも触れる。	6月10日(月) ⑤19:30-21:00
9	計算 会計帳簿閲覧権を出題する。近時、最高裁判例を含め重要な判例が複数出ている分野である。実務上も重要な論点について、判例の事案を題材として検討する。	6月17日(月) ⑤19:30-21:00
10	資金調達 募集株式発行の差止め及び無効訴訟を出題する。差止めについては、主要目的ルールの実務を理解する。無効訴訟については、全株式譲渡制限会社である場合の特殊性にも触れる。	6月24日(月) ⑤19:30-21:00
11	会社の基礎の変更 会社分割を出題する。労働契約承継法について、近時の最高裁判例を踏まえ、その手続を理解する。債権者異議手続について、異議権の有無及び個別催告の可否などを検討する。	7月1日(月) ⑤19:30-21:00

12	商法総則・商行為 商行為の代理、多数当事者間の債務の連帯及び商人間の留置権を出題する。留置権については、近時の東京地裁の運用にも触れる。併せて、関連する民法上の諸問題も検討する。	7月8日(月) ⑤19:30-21:00
13	金融商品取引法1 継続開示における民事責任を出題する。近時、関連する判例が相次いでいる分野である。準用の多い複雑な条文を使いこなせるようにする。	7月15日(月) ⑤19:30-21:00
14	金融商品取引法2 公開買付けを出題する。公開買付規制の適用範囲に関する近時の最高裁判例などを踏まえ、実務上の重要な論点について、事案を通じて理解を深める。	7月22日(月) ⑤19:30-21:00
15	民法 企業法に関連する財産法を出題する。財産法に限っても、総則、物権及び債権と、民法が扱う分野は極めて幅広い。近時の判例を踏まえ、実務に即した検討をする。	8月5日(月) ⑤19:30-21:00
試験	期末テスト	8月19日(月) ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	下記のものはいずれも、企業法Ⅰ・Ⅱで教科書として指定されたものである。江頭憲治郎『株式会社法』(有斐閣、第4版、2011)、落合誠一ほか『商法Ⅰ総則・商行為〔第5版〕有斐閣Sシリーズ』(有斐閣、2013)、山下友信＝神田秀樹編『金融商品取引法概説』(有斐閣、2010)、潮見佳男『入門民法(全)』(有斐閣、2007)、山下友信＝神田秀樹編『商法判例集』(有斐閣、第5版、2012)、『有斐閣判例六法平成25年版』(有斐閣、2012)
参考書	適宜指定する。
評価方法	出席を含む授業への貢献度など80%、期末テスト20%
その他	なし。

ID: YA13632

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	応用実践	租税法事例研究	南繁樹	15	2

授業の目的

本講義は、主として所得税法と法人税法に関し、裁判例や立法資料を題材に、特定の論点について掘り下げた検討を行う。以下の授業内容は、『ケースブック租税法 第3版』に沿ったものであり、頁数は同書のものである。受講者は、同書の該当頁を予習してることが前提である。なお、※印は余裕のある者、意欲のある者のみが予習すればよいものとする（それ以外は、予習は必須である。）。

授業の到達目標

基本的知識を前提に、特定の論点についてどのような考え方が可能か、なぜそのような考え方がありうるのか、そしてどのような考え方が可能かを突き詰めて考える。それにより、実務において未知の問題点に遭遇したときに自分で考えることができる力を養成する。

履修条件

所得税法と法人税法の基礎知識を習得していることを前提とする。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	所得税法：所得の概念（中高年齢者雇用開発給付金事件（194頁）、利息制限法違反利息事件（197頁）、※株式会社藤松事件（203頁）） 所得の帰属（歯科医院親子共同経営事件（226頁）※株取引包括委任事件（228頁））	4月19日(金) ⑤19:30-21:00
2	所得税法：所得税額計算の基本的な仕組み（240頁）、※収入金額と必要経費（増井良啓論文（350頁）、賃貸用土地贈与事件（352頁）、高松市塩田宅地分譲事件（357頁））、損益通算（※岩手リゾートホテル事件（395頁））、所得控除（※事実婚「配偶者控除」訴訟（402頁））、税率構造（412頁）	4月26日(金) ⑤19:30-21:00
3	所得税法：年度帰属（雑所得貸倒分不当利得返還請求事件（361頁）、金子宏論文（366頁）、仙台家賃増額請求事件（376頁）） 所得税法：所得分類（譲渡所得：名古屋医師財産分与事件（261頁））	5月10日(金) ⑤19:30-21:00
4	所得税法：所得分類（譲渡所得：ゴルフ会員権贈与事件（281頁）、支払利子付随費用判決（288頁）、給与所得：弁護士顧問料事件（305頁）、※大嶋別訴第一審判決（314頁）、※会社取締役商品先物取引事件（337頁））	5月17日(金) ⑤19:30-21:00
5	法人税法：法人税と所得税の関係（418頁）、法人税の納税義務者（429頁）	5月24日(金) ⑤19:30-21:00
6	法人税法：法人所得の意義（「税法と企業会計との調整に関する意見書」（444頁）、大竹貿易株式会社事件（449頁）、資本等取引（458頁））	5月31日(金) ⑤19:30-21:00
7	法人税法：益金の意義（法人税法22条2項（460頁）、南西通商株式会社事件（461頁）、清水惣事件（466頁）、※オープンシャホールディング事件（475頁））	6月7日(金) ⑤19:30-21:00
8	法人税法：損金の意義—22条3項1号から3号（牛久市売上原価見積事件（493頁）、株式会社ケーエム事件（496頁）、NTTドコモ事件（500頁））	6月14日(金) ⑤19:30-21:00
9	法人税法：損金の意義—22条3項1号から3号（興銀事件（506頁）、※日本総合物産事件（516頁）） 法人税法：損金の意義—役員給与（523頁）	6月21日(金) ⑤19:30-21:00
10	法人税法：損金の意義—寄附金（太洋物産売上値引事件（530頁）、PL農場事件（534頁））、交際費等（荒井商事オートオークション事件（540頁））	6月28日(金) ⑤19:30-21:00
11	法人税法：繰越欠損金（行田電線株式会社事件（545頁））、同族会社の特例（南日本高圧コンクリート株式会社事件（565頁））	7月5日(金) ⑤19:30-21:00
12	多様な組織体と課税（578頁） 相続税法：税制調査会報告（583頁）、課税対象財産（588頁）、小規模宅地の負担軽減	7月12日(金) ⑤19:30-21:00

	減措置 (613 頁)、※ニチアス株式負担付贈与事件 (649 頁)	
13	租税法律主義 (固定資産税名義人課税主義事件 (41 頁)、大阪銘板事件 (47 頁)、※光楽園旅館事件 (59 頁)、福岡マンション譲渡損失事件 (71 頁))	7 月 19 日(金) ⑤19:30-21:00
14	租税法の解釈と適用 (レーシングカー物品税事件 (111 頁)、錯誤による財産分与契約事件 (135 頁))	7 月 26 日(金) ⑤19:30-21:00
15	租税回避と否認の可否 (相互売買事件 (152 頁)、パラツィーナ事件 (168 頁))	8 月 9 日(金) ⑤19:30-21:00
試験		8 月 23 日(金) ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・『ケースブック租税法 第3版』金子宏ほか著 弘文堂 ・『租税法 第18版』金子宏著 弘文堂 (2013年4月9日発売) ・税務六法 (各自の所有しているものでよい)
参考書	
評価方法	期末テスト70%、出席を含む授業への貢献度など30%
その他	授業日程は、変更が生じることがありますので、あらかじめご了承ください。

ID: YA13633

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	前期	応用実践	国際租税法	大塚正民	15	2

授業の目的

「国際租税法」という「法律」は存在しません。日本には、主な「租税に関する法律」として、「所得税法」、「法人税法」、「消費税法」、「相続税法」などが存在します。この講義で「国際租税法」というのは、これらの「租税に関する法律」の「国際的側面」を指す「用語」です。「国際的側面」を便宜的に「対内的取引に関するもの」と「対外的取引に関するもの」の2つに分けます。大雑把に言えば、前者は「外国人または外国法人が日本に入ってくる形の取引に関するもの」ですし、後者は「日本人または日本法人が日本から出て行く形の取引に関するもの」です。ただし、「国際的側面」を学ぶ前提として、「国内的側面」の一応の理解は必須です。しかも、そのような「国内的側面」が、国際的な立場からすると、どのような「特異的側面」を有しているかに留意することが大切です。

授業の到達目標

日本の主な「租税に関する法律」の「特異的側面」に留意しつつ「国内的側面」を理解し、それとの対比で「国際的側面」を学ぶことにより、「日本国内法としての国際租税法の全体像」を把握します。

履修条件

とくにありません。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	日本の主な「租税に関する法律」である「所得税法」、「法人税法」、「消費税法」、「相続税法」の「国内的側面」としての「特異的側面」その1	4月13日(土) ②11:10-12:40
2	日本の主な「租税に関する法律」である「所得税法」、「法人税法」、「消費税法」、「相続税法」の「国内的側面」としての「特異的側面」その2	4月20日(土) ②11:10-12:40
3	個人納税者に関わる「所得税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その1	5月11日(土) ②11:10-12:40
4	個人納税者に関わる「所得税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その2	5月18日(土) ②11:10-12:40
5	個人納税者に関わる「所得税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その3	5月25日(土) ②11:10-12:40
6	個人納税者・法人納税者に関わる「消費税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」	6月1日(土) ②11:10-12:40
7	個人納税者に関わる「相続税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」	6月8日(土) ②11:10-12:40
8	法人納税者に関わる「法人税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その1	6月15日(土) ②11:10-12:40
9	法人納税者に関わる「法人税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その2	6月22日(土) ②11:10-12:40
10	法人納税者に関わる「所得税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その1	6月29日(土) ②11:10-12:40
11	法人納税者に関わる「所得税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その2	7月6日(土) ②11:10-12:40
12	法人納税者に関わる「法人税法」の「国際的側面」としての「対外的取引に関するもの」その1	7月13日(土) ②11:10-12:40
13	法人納税者に関わる「法人税法」の「国際的側面」としての「対外的取引に関するもの」その2	7月20日(土) ②11:10-12:40

14	個人納税者に関わる「所得税法」の「国際的側面」としての「対外的取引に関するもの」	7月27日(土) ②11:10-12:40
15	口頭試問	8月3日(土) ②11:10-12:40
試験	ペーパーテストはありません。	

使用教科書／評価方法等

教科書	レジメ：大塚 正民、実践的国際税務のポイント（続々）を使用します。ただし、すべての関係資料はインターネットを介して閲読します。
参考書	[第5版] 外国企業との取引と税務、仲谷ほか、商事法務（2013年3月）
評価方法	出席率（30%）、授業の際の質問・回答（授業への寄与度：30%）、および、最終日の口頭試問（40%）を総合的に判断します。
その他	

ID: YA13636a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	通年	応用実践	租税法研究指導【導入クラス】	慶松勝太郎 以下、研究 指導委員会	30	4

授業の目的

租税法研究指導の目的は、会計専門職業人に求められる高度な論理的思考力を養成することにあります。とりわけ租税法の独特な思考様式を、論文執筆とディスカッションを通じて涵養することを目指しています。したがって、履修者は主体的に論文執筆を行うと共に、積極的に議論に参加し、自身だけでなくクラス全体に貢献することが求められます。

授業の到達目標

本クラスの目標：論文テーマの確定と序論ドラフトであるレジュメの完成
夏期休暇中にレジュメ発表会を行い、後期は論文作成の大きな山場となる序論の完成・合格を目指すこととなります。その準備として、この前期の授業があります。早期にテーマを確定するとともに、論文の構想を取りまとめ説得力ある序論の執筆を行ってください。

履修条件

論文執筆を主体的に行い、かつ積極的にクラスに貢献すること。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	修士論文の書き方講義	4月14日(日) ⑤16:50-18:20
2	税法修士論文の在り方講義	4月21日(日) ⑤16:50-18:20
3	仮テーマカードの作成(文献検索実習)	5月12日(日) ⑤16:50-18:20
4	文献の読み方講義	5月19日(日) ⑤16:50-18:20
5	仮テーマ発表 ※以下、第13回まで同じ	5月26日(日) ⑤16:50-18:20
6		6月2日(日) ⑤16:50-18:20
7		6月9日(日) ⑤16:50-18:20
8		6月16日(日) ⑤16:50-18:20
9		6月23日(日) ⑤16:50-18:20
10		6月30日(日) ⑤16:50-18:20
11		7月7日(日) ⑤16:50-18:20
12		7月14日(日) ⑤16:50-18:20
13		7月21日(日) ⑤16:50-18:20
14	前半・仮テーマ発表(続き) / 後半・レジュメの書き方	7月28日(日) ⑤16:50-18:20
15	レジュメの書き方(実習)	8月4日(日) ⑤16:50-18:20
16	夏期休暇中に開催されるレジュメ発表会を踏まえ、後期からのクラス編成を行います。	10月6日(日) ⑤16:50-18:20

17		10月13日(日) ⑤16:50-18:20
18		10月20日(日) ⑤16:50-18:20
19		10月27日(日) ⑤16:50-18:20
20		11月3日(日) ⑤16:50-18:20
21		11月10日(日) ⑤16:50-18:20
22		11月17日(日) ⑤16:50-18:20
23		11月24日(日) ⑤16:50-18:20
24		12月1日(日) ⑤16:50-18:20
25		12月8日(日) ⑤16:50-18:20
26		12月15日(日) ⑤16:50-18:20
27		12月22日(日) ⑤16:50-18:20
28		1月12日(日) ⑤16:50-18:20
29		1月19日(日) ⑤16:50-18:20
30		1月26日(日) ⑤16:50-18:20
試験		

使用教科書／評価方法等

教科書	
参考書	
評価方法	序論の完成・合格 (30%)、出席を含むクラス全体への貢献 (70%)
その他	

ID: YA13636b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	通年	応用実践	租税法研究指導【序論クラス】	慶松勝太郎 以下、研究 指導委員会	30	4

授業の目的

租税法研究指導の目的は、会計専門職業人に求められる高度な論理的思考力を養成することにあります。とりわけ租税法の独特な思考様式を、論文執筆とディスカッションを通じて涵養することを目指しています。したがって、履修者は主体的に論文執筆を行うと共に、積極的に議論に参加し、自身だけでなくクラス全体に貢献することが求められます。

授業の到達目標

本クラスの到達目標：序論の完成・合格
序論に必要な要素（対象・目的・問題提起・研究方法・論文構成）を過不足なく満たし、担当教員が税法修士論文として成立することが可能と判断できるものを作成しなければなりません。前期中に合格しない場合、半期遅れとなります。

履修条件

今期直前に開催されているレジュメ発表会で発表を行っていること。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	全体ガイダンス（序論の説明、全体の進め方の説明、班分けの発表など）	4月14日(日) ④15:10-16:40
2	※以下、「小山・慶松班」、「伊東・春日班」、「木村・山本班」の3班にわかれて指導を行います。	4月21日(日) ④15:10-16:40
3		5月12日(日) ④15:10-16:40
4		5月19日(日) ④15:10-16:40
5		5月26日(日) ④15:10-16:40
6		6月2日(日) ④15:10-16:40
7		6月9日(日) ④15:10-16:40
8		6月16日(日) ④15:10-16:40
9		6月23日(日) ④15:10-16:40
10		6月30日(日) ④15:10-16:40
11		7月7日(日) ④15:10-16:40
12		7月14日(日) ④15:10-16:40
13		7月21日(日) ④15:10-16:40
14		7月28日(日) ④15:10-16:40
15	先行研究の検討について（全体講義）	8月4日(日) ④15:10-16:40
16		10月6日(日) ④15:10-16:40

17		10月13日(日) ④15:10-16:40
18		10月20日(日) ④15:10-16:40
19		10月27日(日) ④15:10-16:40
20		11月3日(日) ④15:10-16:40
21		11月10日(日) ④15:10-16:40
22		11月17日(日) ④15:10-16:40
23		11月24日(日) ④15:10-16:40
24		12月1日(日) ④15:10-16:40
25		12月8日(日) ④15:10-16:40
26		12月15日(日) ④15:10-16:40
27		12月22日(日) ④15:10-16:40
28		1月12日(日) ④15:10-16:40
29		1月19日(日) ④15:10-16:40
30		1月26日(日) ④15:10-16:40
試験		

使用教科書／評価方法等

教科書	
参考書	
評価方法	序論の完成・合格 (30%)、出席を含むクラスへの貢献 (70%)
その他	

ID: YA13636c

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	通年	応用実践	租税法研究指導【先行研究検討クラス】	慶松勝太郎 以下、研究 指導委員会	30	4

授業の目的

租税法研究指導の目的は、会計専門職業人に求められる高度な論理的思考力を養成することにあります。とりわけ租税法の独特な思考様式を、論文執筆とディスカッションを通じて涵養することを目指しています。したがって、履修者は主体的に論文執筆を行うと共に、積極的に議論に参加し、自身だけでなくクラス全体に貢献することが求められます

授業の到達目標

本クラスの目標：暫定的にでも説得力のある結論（プレ結論）の構築+そのための先行研究の検討を中心とする本論の作成。
今期を終えて夏期休暇中にはプレ結論発表会を予定します。そこで発表していただく結論と合わせて提出していただく書類が最後のクラスに参加できるか否かの鍵となってきます。したがって、本クラスの履修者は今期中に精力的に本論を作成すると共に、特に研究指導委員会が認める結論の構築に意識を集中させることが必要となります。

履修条件

序論合格を果たしていること

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	全体ガイダンス（スケジュールの概要や班分けの発表、進め方についての説明）	4月14日(日) ③13:30-15:00
2	※以下、「小山・慶松班」、「伊東・春日班」、「木村・山本班」の3班にわかれて指導を行います。	4月21日(日) ③13:30-15:00
3		5月12日(日) ③13:30-15:00
4		5月19日(日) ③13:30-15:00
5		5月26日(日) ③13:30-15:00
6		6月2日(日) ③13:30-15:00
7		6月9日(日) ③13:30-15:00
8		6月16日(日) ③13:30-15:00
9		6月23日(日) ③13:30-15:00
10		6月30日(日) ③13:30-15:00
11		7月7日(日) ③13:30-15:00
12		7月14日(日) ③13:30-15:00
13		7月21日(日) ③13:30-15:00
14		7月28日(日) ③13:30-15:00
15		8月4日(日) ③13:30-15:00

16	プレ結論発表会を踏まえてクラス編成を行います。	10月6日(日) ③13:30-15:00
17		10月13日(日) ③13:30-15:00
18		10月20日(日) ③13:30-15:00
19		10月27日(日) ③13:30-15:00
20		11月3日(日) ③13:30-15:00
21		11月10日(日) ③13:30-15:00
22		11月17日(日) ③13:30-15:00
23		11月24日(日) ③13:30-15:00
24		12月1日(日) ③13:30-15:00
25		12月8日(日) ③13:30-15:00
26		12月15日(日) ③13:30-15:00
27		12月22日(日) ③13:30-15:00
28		1月12日(日) ③13:30-15:00
29		1月19日(日) ③13:30-15:00
30		1月26日(日) ③13:30-15:00
試験		

使用教科書／評価方法等

教科書	
参考書	
評価方法	論文の完成・提出・審査合格 (30%)、出席を含むクラス全体への貢献 (70%)
その他	

ID: YA13636d

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	通年	応用実践	租税法研究指導【完成追込みクラス】	慶松勝太郎 以下、研究 指導委員会	30	4

授業の目的

租税法研究指導の目的は、会計専門職業人に求められる高度な論理的思考力を養成することにあります。とりわけ租税法の独特な思考様式を、論文執筆とディスカッションを通じて涵養することを目指しています。したがって、履修者は主体的に論文執筆を行うと共に、積極的に議論に参加し、自身だけでなくクラス全体に貢献することが求められます。

授業の到達目標

本クラスは今期での論文提出・審査合格を目指します。
審査日程は別に発表しますが（審査は複数回設定します）、最終審査は概ね修了の1ヶ月前ぐらいに口頭試問が行われ、論文自体の提出は更にその1ヶ月前となる予定です。これは提出された論文を厳格にチェックするためです。もちろん、提出までに形式面と内容面の両面で基準を十分に満たすものでなければなりません。したがって、提出者はとにかく早く全体を完成させることが必要となってきます。また、提出以後、審査までの間で基本的に差し替えなど追加の修正はできません。つまり、提出論文はまさに正式審査に充分耐えうる品質でなければならないということです。そこに到達できるよう全力で取り組まれることを期待します。

履修条件

今期が始まる前に開催されるプレ結論発表会とそれに合わせて提出した書類の審査で、研究指導委員会が今期での論文提出・審査が期待できると判断されること。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	全体ガイダンス（提出に向けた注意事項などの共有と班分け、進め方の説明）	4月14日(日) ②11:10-12:40
2	※以下、「小山・慶松班」、「伊東・春日班」、「木村・山本班」の3班にわかれて指導を行います。	4月21日(日) ②11:10-12:40
3		5月12日(日) ②11:10-12:40
4		5月19日(日) ②11:10-12:40
5		5月26日(日) ②11:10-12:40
6		6月2日(日) ②11:10-12:40
7		6月9日(日) ②11:10-12:40
8		6月16日(日) ②11:10-12:40
9		6月23日(日) ②11:10-12:40
10		6月30日(日) ②11:10-12:40
11		7月7日(日) ②11:10-12:40
12		7月14日(日) ②11:10-12:40
13		7月21日(日) ②11:10-12:40
14		7月28日(日)

		②11:10-12:40
15		8月4日(日) ②11:10-12:40
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
試験		

使用教科書／評価方法等

教科書	
参考書	
評価方法	論文の完成・提出・審査合格 (30%)、出席を含むクラス全体への貢献 (70%)
その他	

ID: YA13112b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	基本	マネジメント・シミュレーションⅠ	小林健吾 高田博行 横井隆志	15	2

授業の目的

マネジメント・シミュレーションは、LEC 会計大学院の教育目的に基づいた実践的な教育の中核となる科目として設置されている。そこではバーチャルな経営環境の下で財務数値の分析に基づいた経営意思決定を行い、企業経営の諸問題への理解を促進する。そして、企業会計の必要性和効用をチームによる協働を通じて体験的に学習することを意図している。

マネジメント・シミュレーションⅠでは、入門的なステップとして、基礎的な知識の必要性を知覚させ、関連諸科目の学習を促し、学習意欲の向上に貢献することを目的としている。

授業の到達目標

マネジメント・シミュレーションⅠでは卸売業を対象とし、市場環境に応じた価格の決定、営業規模の選択と販売量の予測、それに対応する販売計画や仕入計画、財務計画の策定といった基礎的な問題に限定している。それらの意思決定を行うことによって、利益計画の基本構造を習得することが到達目標となる。

履修条件

必修として実施するから、履修条件は設けない。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	この授業の進め方のガイダンス、並びにチームの編成、企業内での職務の担当を決定する。次に、参加者間の討議によって第3期までの分析に基づく企業評価を行い、事後の経営方針を決定する。	10月5日(土) ③13:30-15:00
2	システムの立ち上げと利用方法のガイダンス。システムの運用についてはマネジメント・シミュレーションⅡも共通化しているので、要領をしっかり習得してもらう。場合によってはトライアルを行う。	10月5日(土) ④15:10-16:40
3	第3期までの財務数値の分析に基づいて第4期の入力を行う。続いてサーバー処理した結果について分析を行う。入力と結果の分析にはそれぞれ時間をかけ、指導主任の教授をはじめ全教員が適宜指導を行う。	10月12日(土) ③13:30-15:00
4	マネジメント・シミュレーションⅠは一連のマネジメント・シミュレーションの基礎入門編であることから、幾つかの基礎知識講座を設けている。ここではテーマ学習①として「利益計画と損益分岐点分析の実践」を執り行う。	10月12日(土) ④15:10-16:40
5	テーマ学習①を参考に第5期の入力について検討を行う。またサーバー処理後の結果についても分析を行う。適宜、自動主任を中心に教員一同がアドバイスを行う。	10月19日(土) ③13:30-15:00
6	第6期の意思決定と入力を行う。サーバー処理された結果を入手し分析する。参加者の習熟度を見ながら、特に損益分岐点分析の活用注目してアドバイスを行う。	10月19日(土) ④15:10-16:40
7	基礎知識講座：テーマ学習②として「KPIとしての新しいROEモデル」を実施する。ここでは企業経営の目標としてのROEの重要性和、そのKPI(Key Performance Indicator)への展開と利用について演習を行う。	10月26日(土) ③13:30-15:00
8	第7期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。テーマ学習②を参考に、利益計画を立てる際にどのようなKPIを重視し、どのように重視したかに注目する。	10月26日(土) ④15:10-16:40
9	第8期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。加えて、各チームに業績について発表を行ってもらい、今後の方針等を説明してもらう。教育主任を中心に講評する。	11月2日(土) ③13:30-15:00
10	基礎知識講座：テーマ学習③として「キャッシュ・フローの重要性和その活用法」を実施する。ここではシステム内に準備されたテンプレートを利用して、キャッシュ	11月2日(土) ④15:10-16:40

	ユ・フローの重要性とその理解の仕方について実践的な講義を行う。	
11	第9期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。ここではテーマ学習③の内容を踏まえた検討が行われているかに注目する。	11月9日(土) ③13:30-15:00
12	第10期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。第2回目となる経営報告会も実施し、意思決定の精度が上がっているか検証する。	11月9日(土) ④15:10-16:40
13	第11期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。経営報告会を踏まえて、一連のテーマ学習の成果が業績に結実するようアドバイスしていく。	11月16日(土) ③13:30-15:00
14	最終期となる第12期の意思決定と入力を行う。またサーバー処理された結果を入手し分析する。次回に行われる最終の経営報告会の準備を行う。	11月16日(土) ④15:10-16:40
15	経営報告会と反省会を行う。経営報告会は全期を通じた総括として報告をしてもらい、教育主任を中心に各チームの取り組みについて討議する。引き続いて反省会を実施する。	11月23日(土) ③13:30-15:00
試験	実施しない。	

使用教科書／評価方法等

教科書	参加者用マニュアルを配布する。
参考書	必要な資料等はインターネット・デバイスを通して随時配布される。
評価方法	企業業績だけではなく、計画と実績の乖離(業績管理能力)、株主総会の報告と資料の準備、(業績報告能力)、およびチーム内でのコミュニケーション(協調性と意思疎通能力)の状況、学習能力の向上(積極性と自己革新能力)の状況等によって総合的に評価する。
その他	<p>1. この授業では学生間のコミュニケーション能力の向上も重要なテーマであるから、授業中は勿論のこと、授業時間以外でもインターネット等を通して意見の交換が可能なように準備されるので、積極的にこれを活用することが求められる。</p> <p>2. この科目では授業時間中の状況に応じた適時の指導とコメントが重要な要因になっているから、これに受動的に対応するだけでなく、さらに積極的に疑問等を受講者の側から発信することが求められる。</p> <p>3. 授業概要でも触れたように、この授業科目では学生諸君に基礎的知識の必要性を知覚してもらうことも目標に含まれるが、特に知識の不足が見られる場合には、インターネットを利用して必要な情報を提供し、さらには必要に応じて臨時的に基礎知識講座を補足する。</p> <p>4. この科目は、そこで得られた利益計画の基本の上に、更により高度な競争環境での経営実践を学習する準備段階でもある。つまり、マネジメント・シュミレーションⅡ以降の準備段階とも位置づけられる。積極的なⅡ・Ⅲの受講も期待する。</p>

ID: YA13416b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	基本	ITリテラシー I	横井隆志 徐伯昇	15	2

授業の目的

LEC 会計大学院が掲げるシミュレーション・アプローチを具体化する上で重要な役割を果たすのが表計算アプリケーション“Microsoft Office Excel”である。本科目では、シミュレーション・アプローチの土台を形成すべく、実習を通じて Excel の基本操作を習得し、関数を中心としたワークシートの作り込みを行う。あわせて、修士論文の作成等を念頭に、研究資料の入手方法や、効率的な論文作成のためのワープロソフトの使用法を学習する。

授業の到達目標

シミュレーター作成等に必要 Excel の操作法を中心に、ITリテラシーの基本的な素養を身につけ、表計算アプリケーションを用いて簡易的なシステムを構築できる程度のスキルを修得することを本科目の到達目標とする。

履修条件

特になし

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	＜ガイダンス並びに Excel の基本＞ 初めて Excel を使用することを想定し、ワークシートの基本やセルを参照する計算など、Excel の基礎的な要素を学習する。その中で、相対参照と絶対参照について学習する。あわせて、関数の基本について触れる。	10月3日(木) ⑤19:30-21:00
2	＜条件判断を行う関数＞ 設定された論理式(条件)の正否を判断する IF 関数について、基本的な用法を学ぶ。あわせて、関数ウィザードを用いて関数の引数を入力する方法などを学ぶ。	10月10日(木) ⑤19:30-21:00
3	＜関数のネストと論理関数＞ 引き続き、条件判断を行う関数について学習する。さらに、複数の関数を組み合わせるネストや、IF 関数を補う論理関数について学習する。	10月17日(木) ⑤19:30-21:00
4	＜検索を行う関数＞ 様々な用途に活用できる基本的な関数として、表の中から目的の値を取り出すことができる VLOOKUP 関数、HLOOKUP 関数について学習する。	10月24日(木) ⑤19:30-21:00
5	＜VLOOKUP 関数をより実践的に活用するための関数の活用＞ VLOOKUP 関数と組み合わせることにより、ワークシートの実用性を高める MATCH 関数について学習する。あわせて、INDEX 関数、CHOOSE 関数について学習し、早見表や複数の対照表からデータを取り出す方法について学習する。	10月31日(木) ⑤19:30-21:00
6	＜日付と時刻＞ Excel における日付と時刻の扱いについて、シリアル値の概念を中心に学習する。その中で、日付と時刻を操作する関数の使い方、ユーザー定義による表示形式の設定について学ぶ。	11月7日(木) ⑤19:30-21:00
7	＜インターフェースを意識したワークシートの作り込み＞ 第三者がワークシートを使用することを想定する場合、作業の手順や入力する内容ができるだけわかりやすいようにワークシートの構成を工夫する必要がある。ここでは、データの入力規則等によるワークシートの操作性向上を目指す。	11月14日(木) ⑤19:30-21:00
8	＜修士論文執筆のための Word の活用＞ Word には、論文等の作成を念頭に、目次や脚注、引用文献、図表等を管理する機能が備わっている。これらの機能を活用し、より効率的に修士論文を作成する方法を学習する。	11月21日(木) ⑤19:30-21:00

9	<IT ツールの活用と著作権問題> 社会人学生が効率的に研究を進めるための携帯情報端末やクラウド等の活用法について学ぶ。同時に、高度情報社会において生じる著作権の問題等について考える。	11月28日(木) ⑤19:30-21:00
10	<データベース機能> Excel のワークシート上で「フィールド」と「レコード」という概念に基づいて構成されるデータベースについて、フォームによる入力やフィルタによるデータの抽出について学習する。あわせて、小計機能や	12月5日(木) ⑤19:30-21:00
11	<Excel によるデータ分析> 商品や顧客の重要度を把握するための ABC 分析とパレート図の作成、商品の位置づけを確認する PPM 分析を通じて、グラフの作成・加工の手法を学ぶ。	12月12日(木) ⑤19:30-21:00
12	<システムの設計思想とインテリジェンスの構築> 様々な情報の集合である“information”に対し、ユーザーの意思決定と行動を喚起する有益な情報が“intelligence”である。実例を通じて intelligence の概念を学ぶと同時に、データの収集と Intelligence の構築について、演習を通じて学習する。	12月19日(木) ⑤19:30-21:00
13	<システムの設計思想とインテリジェンスの構築> 実務の現場で必要とされる Intelligence とは何か、実際にデータを収集し、Intelligence を構築する際の課題などについて、ディスカッションを通じて情報共有を行う。	1月9日(木) ⑤19:30-21:00
14	<VBA の基本 (1) > Excel には操作を自動で実行するためのプログラミング言語として Visual Basic for Applications が搭載されている。ここでは、一連の動作を記録することでマクロ化する方法と VBA コードの基本、VBA エディタを用いたマクロの編集について学習する。	1月16日(木) ⑤19:30-21:00
15	<VBA の基本 (2) > あらかじめ用意された関数ではまかなえない処理を行う方法として、VBA で処理の内容を記述することによりワークシート上で一般の関数と同様に扱うことの出来る関数を作成するユーザー定義関数について学習する。	1月23日(木) ⑤19:30-21:00
試験	試験は実施しない。授業で扱った内容の修得と定着を目的として出題する課題と出席状況、授業への貢献などにより成績評価を行う。	

使用教科書／評価方法等

教科書	特に指定しない。
参考書	適宜、授業時間内に示す。
評価方法	課題 70%、出席ならびに授業への貢献度など 30%
その他	

ID: YA13451

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	基本	実用英語演習応用	藤澤慶已	15	2

授業の目的

言語習得に関する理論と実用を考察することによって、特に第二言語の習得に関する理解を深めます。中でも、外国語としての英語の習得にかかわる諸問題を考え、ビジネス英語に求められる専門的かつ実践的素養を身に付けます。最終的には TOEIC のスコアアップはもちろん、実践的なコミュニケーション力を養います。

授業の到達目標

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト TOEIC で C ランク (470~730 点) 後半を目指す。

履修条件

--

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	日本人の弱点攻略 日本語と英語の音声的な違い母音と子音の比率のうち特に母音の暗さに焦点を当て弱点を攻略していきます。 TOEIC 演習	10月1日(火) ⑤19:30-21:00
2	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ 日常生活の中でネイティブが使う流暢な英語を検証。 TOEIC 演習	10月8日(火) ⑤19:30-21:00
3	Practicum (実践演習)	10月15日(火) ⑤19:30-21:00
4	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ プレゼンテーション等、ネイティブが使う英語表現を検証。 TOEIC 演習	10月22日(火) ⑤19:30-21:00
5	Practicum (実践演習)	10月29日(火) ⑤19:30-21:00
6	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	11月5日(火) ⑤19:30-21:00
7	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	11月12日(火) ⑤19:30-21:00
8	Practicum (実践演習)	11月19日(火) ⑤19:30-21:00
9	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	11月26日(火) ⑤19:30-21:00
10	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	12月3日(火) ⑤19:30-21:00
11	TOEIC 模試 Listening	12月10日(火) ⑤19:30-21:00
12	TOEIC 模試 Reading	12月17日(火) ⑤19:30-21:00
13	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	1月7日(火) ⑤19:30-21:00
14	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	1月14日(火) ⑤19:30-21:00
15	まとめ	1月21日(火) ⑤19:30-21:00
試験		

使用教科書／評価方法等

教科書	* 『スコアが劇的にアップする TOEIC テスト弱点克服トレーニング』 藤澤慶巳著 あさ出版 * 各回配布レジメ
参考書	
評価方法	期末課題 50%、出席を含む授業への貢献度など 30% 平常点 20%
その他	

ID: YA13430

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	発展	IT リテラシーⅡ	横井隆志 徐伯昇	15	2

授業の目的

情報技術の進歩により、さまざまなデータが溢れている時代において、ユーザーにとって有益な情報（インテリジェンス）は埋れてしまいがちである。ユーザーにとって有益な情報（インテリジェンス）とは、ユーザーに次の意思決定と行動を喚起させるものでなければならない。またユーザーがどの程度のリテラシーを備えているかを知り、その程度に合わせたものでもなければならない。その溢れているデータを整理し、ユーザーに合わせたインテリジェンスの構築、また一目で見て分かるインターフェイスの構築をゴールとする。

授業の到達目標

Excel で通常使われるであろうデータ量を扱い、＜ステップ 1＞そこからユーザーにとって有益な情報（インテリジェンス）を発掘し（データマイニング）、＜ステップ 2＞そのデータを整理し（データベースの構築）、またデータを取得、抽出し、＜ステップ 3＞それをグラフなどによってビジュアル化されたインターフェイス（表示）を造りあげ、そのシステム開発におけるプロセスを、受講生全員で共有することを到達目標とする。

履修条件

IT リテラシーⅠの単位を修得済であること

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	<はじめに> 授業の進め方や、本授業のテーマと我々が到達すべき目標を明確にし、それを受講生と共有する。その後、簡単な演習を行う。	10月6日(日) ⑥18:30-20:00
2	<習うより慣れる！ーその1ー> 演習（インターフェイスとデータベースの構築）Excel の計算式、またグラフなどの機能を使つての演習。データを入力する事と、それを見せることの違いを理解してもらおう。	10月13日(日) ⑥18:30-20:00
3	<習うより慣れる！ーその2ー> 演習（インターフェイスとデータベースの構築）Excel の計算式、またグラフなどの機能を使つての演習。データを入力する事と、それを見せることの違いを理解してもらおう。	10月20日(日) ⑥18:30-20:00
4	<習うより慣れる！ーその3ー> 会計データやマーケティングデータなどのデータをじっくり観察し、その入力されたデータの真偽、またはそこから得られるであろう情報（インテリジェンス）を Excel を使つて、的確にキャッチする。	10月27日(日) ⑥18:30-20:00
5	<相手（ユーザー）に驚きと感動を与えよう！> Excel でシステム構築する上で、どんな事ができるのか？を提示し説明する。そして受講者に対し、どんなシステム構築をしたいか？をディスカッション形式で行う。	11月3日(日) ⑥18:30-20:00
6	<さあ、はじめよう！> 各受講生がシステムの要件定義（Excel を使つて何がしたいのか？）をこちらで用意した書式を元に作成して頂き、発表する。	11月10日(日) ⑥18:30-20:00
7	<さあ、はじめよう！ーインターフェイスの構築1ー> 必要なデータは何か？を常に意識しつつ、こちらで用意した書式に絵を描き、Excel に反映していく。	11月17日(日) ⑥18:30-20:00
8	<さあ、はじめよう！ーインターフェイスの構築2ー> 必要なデータは何か？を常に意識しつつ、こちらで用意した書式に絵を描き、Excel	11月24日(日) ⑥18:30-20:00

	に反映していく。	
9	<p>くさあ、はじめよう！ーデータベース構築1ー</p> <p>パソコンの理解とプログラムによるデータ取得。ExcelVBA（プログラミング）を使って、データ取得の方法とその表示の仕方をパソコンの仕組みという基礎的な知識を交えながら行う。</p>	12月1日(日) ⑥18:30-20:00
10	<p>くさあ、はじめよう！ーデータベース構築2ー</p> <p>パソコンの理解とプログラムによるデータ取得。ExcelVBA（プログラミング）を使って、データ取得の方法とその表示の仕方をパソコンの仕組みという基礎的な知識を交えながら行う。</p>	12月8日(日) ⑥18:30-20:00
11	<p>くさあ、はじめよう！ーデータベース構築3ー</p> <p>プログラムによるデータ抽出（データ型を知ろう！）数値、文字列などExcelで扱うデータはさまざまである。そのデータを確実に扱うための方法とその重要性を学ぶ。</p>	12月15日(日) ⑥18:30-20:00
12	<p>くさあ、はじめよう！ーシステムに色を添えるー</p> <p>プログラムによるオブジェクト（セルやオートシェイプなど）を可能な限り扱い、システム自体に色を添える。より分かりやすく、見やすいインターフェイスにしていく。また、システムをユーザーが使えるように、簡単なマニュアルの作成を行う。</p>	12月22日(日) ⑥18:30-20:00
13	<p>くさあ、はじめよう！ーシステムテストー</p> <p>システムが問題なく実装するか？のテストを行うため、自分で制作したシステムを他の受講生に使ってもらい、こちらで用意した書式にチェックして行く。そして、その結果を元に修正し完成させる。</p>	1月12日(日) ⑥18:30-20:00
14	<p>くシステムを売り込め！</p> <p>システムのプレゼンテーションと議論自らが企画設計したシステムを機能性と美を軸に発表し、ユーザーがシステムが存在しないと比べて、どれだけの効果を得る事ができるのか？のプレゼンテーションしてもらおう。</p>	1月19日(日) ⑥18:30-20:00
15	<p>く驚きと感動</p> <p>Excelの可能性をして知ってもらおう。また、他のデバイス（タブレット端末など）でアプリケーションの実装を体験してもらい、よりITのさまざまな力を感じてもらおう。</p>	1月26日(日) ⑥18:30-20:00
試験	試験は実施しない。授業時間内に履修者と演習を行い、その知識と技術を受講者全員で共有することを重視する。最終的な成果物として履修者自らが企画設計したシステム（簡易システム）を制作し、それを評価対象とする。	

使用教科書／評価方法等

教科書	特に指定しない。
参考書	適宜、授業時間内に示す。
評価方法	出席を含む授業への貢献度など30%、授業を通じて制作される成果物（簡易システム）70%
その他	

ID: YA13453

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	発展	専門英語応用	藤澤慶已	15	2

授業の目的

英語能力を伸ばすためには、実用英語と学校英語の表現方法の違いを理解することが大きなポイントとなります。この講座では論文を含む様々な分野の英文の読解に特化し、読解に必要な語彙、重要表現を学習していきます。

授業の到達目標

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト TOEIC で B ランク (730~860 点) 後半を目指す。

履修条件

--

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	Words & Expressions I TOEIC 演習	10月2日(水) ⑤19:30-21:00
2	Article Reading I TOEIC 演習	10月9日(水) ⑤19:30-21:00
3	Practicum (論文読解演習)	10月16日(水) ⑤19:30-21:00
4	Essay Reading I TOEIC 演習	10月23日(水) ⑤19:30-21:00
5	Short Thesis Reading I TOEIC 演習	10月30日(水) ⑤19:30-21:00
6	Words & Expressions II TOEIC 演習	11月6日(水) ⑤19:30-21:00
7	Article Reading II TOEIC 演習	11月13日(水) ⑤19:30-21:00
8	Practicum (論文読解演習)	11月20日(水) ⑤19:30-21:00
9	Essay Reading II TOEIC 演習	11月27日(水) ⑤19:30-21:00
10	総合演習 Words & Expressions	12月4日(水) ⑤19:30-21:00
11	TOEIC 模試 Listening	12月11日(水) ⑤19:30-21:00
12	TOEIC 模試 Reading	12月18日(水) ⑤19:30-21:00
13	Short Thesis Reading II TOEIC 演習	1月8日(水) ⑤19:30-21:00
14	Practicum (論文読解演習)	1月15日(水) ⑤19:30-21:00
15	まとめ	1月22日(水) ⑤19:30-21:00
試 験		

使用教科書／評価方法等

教科書	* 『レベル別問題でスコアアップ! 新 TOEIC テスト厳選 700 問』藤澤慶已著 DHC 出版
-----	--

	* 『新TOEIC テストリーディング 重要フレーズ&問題集』 藤澤慶己著 DHC 出版 * 毎回配布物
参考書	
評価方法	期末課題 50%、出席を含む授業への貢献度など 30% 平常点 20%
その他	

ID: YA13132b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	応用実践	会計総合事例研究	林總 山本宣明	15	2

授業の目的

本科目は会計専門職業人が直面する経営問題を、管理会計を始めとして会計関連諸分野の知識を総合して見ていく能力の養成を目的としています。ここでいう会計関連諸分野には、財務会計や監査だけでなく本大学院のカリキュラムで言うところの経営ファイナンス領域や法律領域を含みます。加えて、本科目では特に IT と会計の関連に注目していきます。

授業の到達目標

本科目の到達目標は、履修者が会計というレンズを通して組織を俯瞰するスキルを特に IT に関連付けて養うことです。

本科目は主担当である林と山本が中心となってゲスト講師を適宜迎えて進行します。進行は、1つのストーリーを題材としながら議論を深めていきます。そのため、毎回の授業ではストーリーに関する部分を履修者に発表してもらい、ディスカッションを経た後に担当教員もしくはゲスト講師が各専門の立場から追加講義もしくはミニ・レクチャーを行います。そして、更に議論を深めていくという方法で、とにかく共に徹底して考えていくことを行います。

授業は2週に1回のペースで、1回に2コマ（3時間）を当てます（初回だけは1コマ）。

履修条件

積極的に授業に参加すること。授業への貢献が成績に大きく影響します。なお、履修人数の上限を本科目は15名とします。15名を超える希望者がいる場合は、成績等を加味して選抜します。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	プロローグ<趣旨説明やチーム分けなど>	10月5日(土) ⑤16:50-18:20
2	1日目 会社の仕組み チーム発表とディスカッション① 追加講義「企業価値と会計」(山本)	10月19日(土) ⑤16:50-18:20
3	ディスカッション②	10月19日(土) ⑥18:30-20:00
4	2日目 製品を考える チーム発表とディスカッション② 追加講義「顧客価値と会計」(山本)	11月2日(土) ⑤16:50-18:20
5	ディスカッション②	11月2日(土) ⑥18:30-20:00
6	3日目 材料を管理する チーム発表とディスカッション① 追加講義「工場と会計システム」(林・岸野)	11月16日(土) ⑤16:50-18:20
7	ディスカッション②	11月16日(土) ⑥18:30-20:00
8	4日目 製品をつくる① チーム発表とディスカッション	11月30日(土) ⑤16:50-18:20
9	5日目 製品をつくる② チーム発表とディスカッション	11月30日(土) ⑥18:30-20:00
10	6日目 品質をあげる チーム発表とディスカッション① 追加講義「伝統的な原価計算と戦略的コストマネジメント」(山本)	12月14日(土) ⑤16:50-18:20

11	ディスカッション②	12月14日(土) ⑥18:30-20:00
12	7日目 製品を売る チーム発表とディスカッション① 追加講義「販売システムと生産システム」(岸野)	1月11日(土) ⑤16:50-18:20
13	ディスカッション②	1月11日(土) ⑥18:30-20:00
14	8日目 会社を経営する チーム発表とディスカッション①	1月25日(土) ⑤16:50-18:20
15	9日目・10日目 チーム発表とディスカッション②	1月25日(土) ⑥18:30-20:00
試験	期末レポート	

使用教科書／評価方法等

教科書	林總・山本宣明著『崖っぷち女子大生あおい、チョコレート会社で会計を学ぶ。』清文社
参考書	適宜紹介
評価方法	担当部分の発表や発言を含む授業への貢献を出席ととして総合する割合(60%)、期末レポート(40%)
その他	授業の進度は状況に応じて変化します。

ID: YA13456

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	応用実践	英語プレゼンテーション応用	藤澤慶巳	15	2

授業の目的

英語プレゼンテーション能力を身につけるために、これまで学んできた英語を実際にどのように活用していくのか、その応用能力としての実践発話練習、実用文法、スピーチセラピー等を、英語を実際に口に出して使うことを通じて養っていきます。

また、英語圏の人たちのコミュニケーション様式がいかなるものか、日本のそれとどう違うか、なども紹介していきます。

授業の到達目標

英語コミュニケーション、プレゼンテーション能力や発音、マナーといった基本的な能力、応用力を身につけると同時に、英語に関わる歴史的、文化的背景についても学ぶことで、グローバル化が進む現代社会における異文化理解を深める。

履修条件

--

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	オリエンテーション	10月3日(木) ⑤19:30-21:00
2	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	10月10日(木) ⑤19:30-21:00
3	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	10月17日(木) ⑤19:30-21:00
4	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	10月24日(木) ⑤19:30-21:00
5	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	10月31日(木) ⑤19:30-21:00
6	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	11月7日(木) ⑤19:30-21:00
7	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	11月14日(木) ⑤19:30-21:00
8	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	11月21日(木) ⑤19:30-21:00
9	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	11月28日(木) ⑤19:30-21:00
10	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	12月5日(木) ⑤19:30-21:00
11	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	12月12日(木) ⑤19:30-21:00
12	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	12月19日(木) ⑤19:30-21:00
13	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	1月9日(木) ⑤19:30-21:00
14	プレゼンテーション演習 表現、発音矯正 実用文法	1月16日(木) ⑤19:30-21:00
15	プレゼンテーション課題	1月23日(木) ⑤19:30-21:00
試 験		

使用教科書／評価方法等

教科書	* 『英語高速リスニング 入門編』 藤澤慶己著 (DHC 出版) * 『すぐに話せる! しゃべれる! 1秒英作文』 藤澤慶己著 (あさ出版) * 毎回配布物
参考書	
評価方法	プレゼンテーション課題 50%、出席を含む授業への貢献度など 30% 平常点 20%
その他	

ID: YA13229

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	発展	会計制度 I	斎藤淳	15	2

授業の目的

財務会計論でカバーし切れなかった論点について、その背景、実情、将来展望等について、税法、監査とも絡めながら多角的に解説していく。単に講義を聴くだけでなく各自で読み解き、考えていって欲しい。あるべき会計は永遠に完成されることはなく常に流動変化している。「真実はひとつ」などということは、会計の世界では適合するとは限らない。触れていない重要論点については、会計制度Ⅱにて引き続き取り上げる。

授業の到達目標

細切れの単なる知識ではなく会計を巡る広範な世界を体系的にかつ実践的に理解し使いこなせるようになること。

履修条件

簿記、会計の基礎を身につけていたほうが望ましい。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	減損会計基準、設定に関する意見書等の内容を検討し、減損会計導入の経緯、仕組みと考え方、公正評価額、時価とは、将来CF、割引計算、割引率、グルーピング、表示等について理解する。	10月1日(火) ⑤19:30-21:00
2	土地再評価法の内容と減損処理との違い、減損会計導入前の導入延期の動きを参照しつつ、会計と政治の絡みについても考えてみる。	10月8日(火) ⑤19:30-21:00
3	計算設例により、減損の判定と計算の過程、会計処理、税務上の取扱い、実際の決算書、注記の実例を検討。減損会計の処理と監査上の留意事項について理解する。	10月15日(火) ⑤19:30-21:00
4	減損会計の内容が含まれている公認会計士試験の問題を検討、共用資産、のれんの会計処理について理解を図り、減損会計の意義と問題点について改めて検討する。	10月22日(火) ⑤19:30-21:00
5	損益会計と税務会計の関係、税効果会計導入の経緯、当時の経済的、会計的背景、その仕組みと考え方を設例に基づき理解する。税効果会計基準、実務指針等の内容を検討。	10月29日(火) ⑤19:30-21:00
6	税効果会計基準、実務指針等の内容を参照しつつ、具体的な会計処理・仕訳、実際の決算書の表示実例を参考にしつつ理解を図る。日本における現状と問題点を検討。住民税の説明を行ったうえで、実効税率の考え方と実務における算出の仕方を理解する。	11月5日(火) ⑤19:30-21:00
7	企業の実例を参照しつつ、税効果会計が与えた影響とその背景に触れた上で、繰延税金資産の資産性、将来予測判定、回収可能性について理解し、税効果会計の意義と問題点、監査上の留意点を総括する。	11月12日(火) ⑤19:30-21:00
8	資産除去債務の意義、導入の背景、計算と処理につき設例も使いながら理解する。減損会計基準との関係、原子力発電所の会計処理についても言及する。	11月19日(火) ⑤19:30-21:00
9	資産除去債務会計の問題点について検討する。借地権の意義分類等について理解する。	11月26日(火) ⑤19:30-21:00
10	金融資産、金融負債の範囲とその発生・消滅の認識評価における基本的考え方、時価、有価証券の評価における種々のポイントを理解する。更に金融危機下における欧米及び日本における動向、問題点に論及。時価会計、更には取得原価主義会計について改めて考えてみる。	12月3日(火) ⑤19:30-21:00
11	同その2	12月10日(火) ⑤19:30-21:00

12	貸倒見積高の算定における債権の区分とそれぞれにおける算定方法、会計処理の仕方、キャッシュフロー見積法、財務内容評価法のそれぞれにおける留意点、問題点、更には税法上の取扱いとの関係等について検討理解する。	12月17日(火) ⑤19:30-21:00
13	無形固定資産の意義、分類、前払費用・繰延資産との違い、特許権等の工業所有権、知財評価と意義、種々の評価方法とその問題点、営業権の処理と開示について理解する。	1月7日(火) ⑤19:30-21:00
14	リース取引の分類、意義、要件について理解したうえで会計処理、税務上の取扱を比較しつつ検討理解を深める。	1月14日(火) ⑤19:30-21:00
15	会計上の変更および誤謬の訂正に関する会計についてその考え方と処理及び表示、更には会社法の計算書類と金融商品取引法における財務諸表の場合の相違について理解する。	1月21日(火) ⑤19:30-21:00
試験	期末試験を実施する。	1月28日(火) ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	『会計監査六法 平成25年版』 日本公認会計士協会編 中央経済社
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末テスト50%、授業中の発言等20%、出席を含む授業への貢献度など30%
その他	

ID: YA13230

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	発展	会計制度Ⅱ	斎藤淳	15	2

授業の目的

会計制度Ⅰでカバーし切れなかった論点について、その背景、実情、将来展望等について、税法、監査とも絡めながら多角的に解説していく。単に講義を聴くだけでなく各自で読み解き、考えていって欲しい。あるべき会計は永遠に完成されることはなく常に流動変化している。「真実はひとつ」などということは、会計の世界では適合するとは限らない。

授業の到達目標

細切れの単なる知識ではなく会計を巡る広範な世界を体系的にかつ実践的に理解し実務的にも使いこなせるようになること。

履修条件

簿記、会計の基礎を身につけていたほうが望ましい。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	コンバージェンスの国際的動向と日本の対応を概説。IFRS の日本における導入の状況、そのパターン、会社法や税法に与える影響と問題点等について解説。IFRS 基準の内容についての特徴・問題点についても解説。	10月3日(木) ⑤19:30-21:00
2	同その2	10月10日(木) ⑤19:30-21:00
3	貸借対照表の純資産の意義、内容、損益計算書・株主資本等変動計算書と絡めた財務諸表の体系を、改正前の決算書体系と比較して理解する。自己株式の意義、取扱い、表示の変遷、取得・保有・処分・消却における処理の仕方につき設例も参照しつつ解説。企業再編における自己株式交付とデッド・エクイティ・スワップについても解説。	10月17日(木) ⑤19:30-21:00
4	同その2	10月24日(木) ⑤19:30-21:00
5	連結会計の意義、仕組、基本的会計処理の概要、連結の範囲の決定基準を理解する。	10月31日(木) ⑤19:30-21:00
6	連結決算日、会計処理等の統一、資産負債の評価と投資と資本の相殺消去の処理、少数株主持分、子会社株式の追加取得、一部売却における処理、債権債務の相殺処理等について設例を参照しつつ解説。	11月7日(木) ⑤19:30-21:00
7	連結損益及び包括利益計算書と、連結損益計算書・包括利益計算書との作成基準の決算書方式、包括利益、未実現利益の消去の処理について解説。注記事項、連結における税効果の処理、連結の範囲、連結財務諸表の表示等について理解する。	11月14日(木) ⑤19:30-21:00
8	組織再編について、結合、支配、取得、共同支配等の諸概念を解説。結合の形態とパーチェス法と持分プーリング法とを絡めて設例により会計処理を解説。のれんの会計処理と表示について、再編の諸形式につき解説。	11月21日(木) ⑤19:30-21:00
9	特別講義 (内容未定)	11月28日(木) ⑤19:30-21:00
10	公益法人会計の意義、財務諸表体系、とその仕組み、参考実例を参照に、各種財務諸表から税額計算までの一連の流れを収支計算を意識しながら理解する。	12月5日(木) ⑤19:30-21:00
11	公益法人の制度改革についての理解。NPOや学校法人、社会福祉法人等の様々な会計についてその概略を理解する。	12月12日(木) ⑤19:30-21:00
12	学校法人会計の意義、財務諸表体系、とその仕組みを理解する。	12月19日(木) ⑤19:30-21:00

13	社会福祉法人会計・独立行政法人会計の意義、財務諸表体系、とその仕組みを理解する。	1月9日(木) ⑤19:30-21:00
14	公会計の目的、実態、特長と改革、健全化の要点、地方公共団体の監査、決算書の仕組と内容につき実例を参照しつつ理解する。	1月16日(木) ⑤19:30-21:00
15	同その2	1月23日(木) ⑤19:30-21:00
試験	レポートによる	

使用教科書／評価方法等

教科書	『会計監査六法 平成25年版』 日本公認会計士協会編 中央経済社
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	レポート50%、授業中の発言等20%、出席を含む授業への貢献度など30%
その他	

ID: YA13240

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	発展	ディスクロージャー制度	斎藤淳	15	2

授業の目的

わが国のディスクロージャー制度の概要を把握する。特に、会社法および金融商品取引法におけるディスクロージャー制度の目的、役割および実際の運用について理解する。さらに、発行市場および流通市場におけるディスクロージャーにまつわる様々な諸問題を、粉飾等の実例に基づき検討していく。学生自身の参加活動によって開示制度についてのさまざまな知識を体系的に身につけるとともに自分なりの思考力・判断力・表現力を身につける。

授業の到達目標

各自が自分なりの分析、研究を行い、発表、質疑応答等を実践することによって、より深い理解とコミュニケーション能力の向上を図る。

履修条件

前向きな心と素朴な懐疑心。既存の思い込み先入観を離れ柔軟に新たなる目で物事を見直す気持ちが肝要です。会計の基礎知識が必要。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	ディスクロージャー制度概括	10月6日(日) ③13:30-15:00
2	事例研究A解説。トピックなテーマがあれば随時取り上げますのでどのような事例を取り上げるかは不明です。	10月13日(日) ③13:30-15:00
3	事例研究A解説	10月20日(日) ③13:30-15:00
4	事例研究討議	10月27日(日) ③13:30-15:00
5	事例研究討議	11月3日(日) ③13:30-15:00
6	事例研究講評解説	11月10日(日) ③13:30-15:00
7	事例研究B解説	11月17日(日) ③13:30-15:00
8	事例研究発表	11月24日(日) ③13:30-15:00
9	事例研究発表	12月1日(日) ③13:30-15:00
10	事例研究講評解説	12月8日(日) ③13:30-15:00
11	事例研究C解説	12月15日(日) ③13:30-15:00
12	事例研究発表	12月22日(日) ③13:30-15:00
13	事例研究発表	1月12日(日) ③13:30-15:00
14	事例研究講評解説	1月19日(日) ③13:30-15:00
15	総括・補足説明等	1月26日(日) ③13:30-15:00
試	試験は行わない	

験	
使用教科書／評価方法等	
教科書	特に指定しない。
参考書	『会計監査六法 平成25年版』 日本公認会計士協会編 中央経済社
評価方法	授業中の発言、発表60%、出席を含む授業への貢献度など40%
その他	

ID: YA13243

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	応用実践	IFRS 研究	富田幸恵	15	2

授業の目的

IASB 概念フレームワークを用い、IFRS の基本的概念について考察をおこない、その基本的な考え方を理解し、グローバルに活躍できる会計専門職業人としての高い見識の習得を目的とする。

授業の到達目標

IFRS の基本的な考え方を理解し、IFRS 原文を論理的に解析することにより、その意味内容を一義的に特定できるようになることを目標とする。そのような能力を身につけることで、流動的な IFRS に対応可能な、グローバルに活躍できる会計専門職業人となることを目標とする。

履修条件

特になし

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	オリエンテーション、IFRS とは？、IFRS の特色	10月6日(日) ①9:30-11:00
2	財務報告とその目的①：概念フレームワークの目的、財務報告の機能	10月13日(日) ①9:30-11:00
3	財務報告とその目的②：財務報告の目的	10月20日(日) ①9:30-11:00
4	財務報告とその目的③：意思決定にあたって有用な情報	10月27日(日) ①9:30-11:00
5	財務報告とその目的④：財務情報の質的特性①	11月3日(日) ①9:30-11:00
6	財務報告とその目的⑤：財務情報の質的特性②	11月10日(日) ①9:30-11:00
7	財務諸表の構成要素とその認識・測定①：貸借対照表項目	11月17日(日) ①9:30-11:00
8	財務諸表の構成要素とその認識・測定②：損益計算書項目	11月24日(日) ①9:30-11:00
9	財務諸表の構成要素とその認識・測定③：ASBJ 討議資料での財務諸表の構成要素	12月1日(日) ①9:30-11:00
10	財務諸表の構成要素とその認識・測定④：認識基準、資産・負債の認識	12月8日(日) ①9:30-11:00
11	財務諸表の構成要素とその認識・測定⑤：収益・費用の認識	12月15日(日) ①9:30-11:00
12	財務諸表の構成要素とその認識・測定⑥：4つの測定基礎	12月22日(日) ①9:30-11:00
13	財務諸表の構成要素とその認識・測定⑦：ASBJ 討議資料での測定	1月12日(日) ①9:30-11:00
14	財務諸表の構成要素とその認識・測定⑧：資本及び資本維持の概念	1月19日(日) ①9:30-11:00
15	総括	1月26日(日) ①9:30-11:00
試 験		2月2日(日) ①9:30-11:00

使用教科書／評価方法等

教科書	『エッセンシャル IFRS』(第2版) 秋葉賢一 中央経済社
-----	--------------------------------

参考書	
評価方法	出席を含む授業への貢献度 40%、試験 60%
その他	注意事項：授業の内容は進度などに応じて変わることがあります。

ID: YA13232

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	応用実践	財務会計事例研究	高田博行	15	2

授業の目的

本講義は会計情報の投資情報としての有用性と限界を理解させることを目的とする。この目的を達成のため、デフォルメした「ケース」を用いる。この「ケース」では、概念フレームワークに示されている資産・負債の概念が、キャッシュフローの裏付けを有するがゆえに有用と考えられていることを理解せしめるのに必要な範囲の会計基準を取り上げ、また、ある種の負債がこの例外となっていることから意思決定情報として有用性が減殺されていることを理解せしめるために、社債債務を取り上げる。

授業の到達目標

会計情報の投資情報としての有用性と限界とが理解でき、また、会計事象を、財務会計に関する概念フレームワークと矛盾することなく理解し、そのうえで当該理解の内容を論理的かつ財務諸表の利用者に誤解を避けさせる配慮をしつつ説明できるようになること。

履修条件

質疑応答を交えつつ双方向性ある講義を目指したい。講義への積極的な貢献をせんとする心構えがあれば特段の履修条件は設けない。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	双方向性のある講義には論理的思考能力が要求されることから、相手の立場にたって論旨を読み取り、事実の誤認、論理の飛躍、根拠薄弱、データ解析の誤謬などの有無を、批判的に検討することのできる能力の向上が必要であることを説明する。	10月6日(日) ④15:10-16:40
2	資産、負債の意義、差額概念としての純資産の経済社会における役割期待などを説明する。負債消滅の要件を説明し、社債の借り換えを例にとり、負債消滅の要件が法的概念である債務消滅の要件とは異なることを説明する。	10月13日(日) ④15:10-16:40
3	企業会計に関する基準や指針などの会計ルールに基づき演繹的かつ論理的に結論を出す能力の向上を目的として、資本等取引や統計的サンプリングを例に挙げ、定義や意義に基づき論理的・演繹的に考えることが重要であることを説明する。	10月20日(日) ④15:10-16:40
4	会計ルールを正確に読取る能力の向上を目的として、たとえば「その他」と「その他の」との読み分けの重要性を例に挙げるなどして、文章を記号論理として読み取るためのポイントを説明する。また、預託金方式のゴルフ会員権が金銭債権に該当しないことや、退職給付に係る負債と債務との異同等を説明する。	10月27日(日) ④15:10-16:40
5	金融商品の認識における2つのアプローチを説明し、金融商品である有価証券については、財務構成要素アプローチが適用されていることを説明する。また、有価証券の法的な性格が必ずしも会計処理と整合していないことを説明する。	11月3日(日) ④15:10-16:40
6	金融商品の時価概念や公正価値概念を理解せしめる。時価評価の困難性を理解せしめるため、格子モデルやブラック＝ショールズ＝モデルの問題点を説明する。資産・負債の当初認識、及び、資産・負債の消滅認識について説明する。	11月10日(日) ④15:10-16:40
7	金融資産の当初の認識、有価証券の売買契約の認識、償却原価の算定、及び、満期保有目的の債券の適格要件に関するルールなどを説明する。「その他有価証券」の会計処理、及び、表示につき、会計規則集を参照させつつ、説明する。	11月17日(日) ④15:10-16:40
8	減損処理に関する会計基準の概要を説明する。減損処理が製造設備に係る投資の回収剰余計算に影響を与え、結果として、製品原価情報の位置付けが変化したことを説明する。	11月24日(日) ④15:10-16:40
9	固定資産の減損の兆候、判定のプロセス、及び、法人税法における減損損失の取り扱いを説明する。デット・アサンプション、及び、ローン・パーティシペーションを取り上げ、金融負債や金融資産の消滅の要件を参照させつつ、会計処理方法を説明する。	12月1日(日) ④15:10-16:40

10	減損処理の製品製造原価への影響を実感させるため、簡単な数値例を用いて説明する。満期日と償還金額とが確定している債券の会計処理の概要を説明する。債券の割引現在価値法による評価を、数値例を用いて説明する。	12月8日(日) ④15:10-16:40
11	過剰設備の減損処理が投資情報としての有用性に与える影響を理解せしめるため、数値例を用いて説明する。税効果会計の意義、実効税率の求め方を説明する。	12月15日(日) ④15:10-16:40
12	前回に引き続き、税効果会計を取り上げる。繰延税金資産に係る評価性引当額の計上・取崩しのルールにつき、数値例を用いて説明する。自己社債の会計処理を、資産・負債の概念に基づき、法的な考え方と対比させつつ、説明する。	12月22日(日) ④15:10-16:40
13	実際の有価証券報告書から集めたデータに基づき、複数の総合スーパーを比較分析する。一人当たりの売上高や交差比率が分析ツールとして重要なことを認識せしめる。ダイエーを例に挙げ、実質支配力基準の下では「ゼロ連結」となることが理論上は生じ得ること説明する。	1月12日(日) ④15:10-16:40
14	現実をデフォルメした過少資本企業を検討すべき「ケース」として与え、グループ討議により、現状分析と論点析出をさせる。	1月19日(日) ④15:10-16:40
15	前回のグループ討議により検討した「ケース」につき、グループごとに会社再建策を発表させる。	1月26日(日) ④15:10-16:40
試験	記述式。会計監査六法、及び、電卓は、必ず持参すること。詳細は授業最終回において指示する。	2月2日(日) ④15:10-16:40

使用教科書／評価方法等

教科書	オリジナルのテキストを配布する。
参考書	講義時間中に適宜、指示する。
評価方法	<p>期末テスト50%、出席を含む授業への貢献度など50%</p> <p>知識の再現力よりは、論理的に考え、かつ、表現する能力の向上を目指しており、院生の能力を常に把握する必要性から、出席を重視し、全15回のうち、9回以上の出席をすることが及第の最低条件とする。評価のウェイトは40%とする。</p> <p>つぎに、参加者が相互に啓発されることを期待して、教員と院生、院生と院生相互間の双方向の活発な質疑応答を期待している。参加者は、積極的な貢献が求められており、学際領域を意識した発言、応用能力の高さを示す発言、その他の貢献に対してする評価のウェイトは10%とする。</p> <p>残りの50%は、教育効果を測定するための記述式試験を課して評価する。</p>
その他	講義の内容及び進度は、受講者の理解度を勘案して適宜変更する。

ID: YA13325

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	発展	原価計算論	林總 山本宣明	15	2

授業の目的

原価計算は幾つかの目的を有しています。しかし、基本的に原価計算が必要とされるのは、企業の利益計画を遂行するためです。すなわち、原価計算システムは各企業の利益計画の在りように影響されます。原価計算を理解するのが難しいのは、利益計画の多様性、もっと言えば経営の多様性に影響されるからです。原価計算構造の細部への視点と共に経営的な視点を持つことが、真に必要とされる原価計算システムの構築を可能にします。職業会計人に求められる原価計算観を養成すること、これが本科目の目的です。

なお、工場見学を予定するので、可能な限り参加をお願いします(工場見学は平日の日中に組みざるを得ない可能性が高い)。

授業の到達目標

原価計算の基本的な思考法を理解すること。また、思考法を活かした計算が具体的に行えること。

履修条件

必修科目なので特に設けないが、管理会計論を履修していることが望ましい。また、原価計算に関する自己学習を積極的に行うこと。管理会計入門の事前・事後・同時の履修も推奨します。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	<原価計算の基本フレームワークと小史> 原価計算の基本フレームワークである費目別計算、部門別計算、製品別計算という3段階計算の意味を検討します。合わせて原価計算の発展史の概要を紹介します。	10月5日(土) ②11:10-12:40
2	<個別原価計算と総合原価計算> 伝統的な原価計算の代表的存在である個別原価計算と総合原価計算の両者を比較します。特に総合原価計算の現代的な役割について検討します。	10月12日(土) ②11:10-12:40
3	<標準原価計算と原価改善> 原価管理の主要な方法である標準原価計算の歴史と現状を検討します。しかる後にトヨタで発展した原価改善と呼ばれる方法を紹介し、標準原価計算との異同を考察します。	10月19日(土) ②11:10-12:40
4	<活動基準原価計算 その1> 活動基準原価計算が何故提起されることになったのかを、『レレバンス・ロスト』の議論を整理することで考察していきます。活動基準原価計算シリーズの初回では、どこに問題の焦点があるのかを把握することに重点を置いて議論します。	10月26日(土) ②11:10-12:40
5	<活動基準原価計算 その2> 『レレバンス・ロスト』以降、活動基準原価計算を巡ってどのような議論が為されていったのかをレビューします。活動基準原価計算の基本構造を押さえ、研究の進展によってどのような論点やツールが提起されるようになったのかを検討します。	11月2日(土) ②11:10-12:40
6	<活動基準原価計算 その3> 問題の所在とこれまでの研究の経過を踏まえ、活動基準原価計算システムの実装について議論します。そのため、林先生が構築されたシステムを素材に議論を深めていきます。加えて、幾つかの事例を紹介し批判的に検討します。	11月9日(土) ②11:10-12:40
7	<原価計算基準の研究> 我が国の原価計算実務に大きな影響を与えてきた「原価計算基準」を取り上げます。全文を精読した上で、基準ができるまでの経過や、できた後の論議を精査します。また、同基準に対する批判がどのような点にあるのか明確にします。	11月16日(土) ②11:10-12:40
8	<諸井先生ご講演> 「原価計算基準」の作成に携わられた諸井先生にご講演を賜	11月23日(土)

	ります。時間に応じて質疑応答も予定します。	②11:10-12:40
9	<直接原価計算> 直接原価計算が何故必要とされたのかを明確にし、その有用性を検討します。歴史的な検討と共に、理論的な深堀を行います。全部原価計算との調整など実務的に焦点となるポイントを特に検討します(固変分解にも触れます)。	11月30日(土) ②11:10-12:40
10	<スループット会計> ゴールドラットが提唱した制約理論のポイントを押さえた上で、原価計算の観点からスループット会計の位置付けを行います。またスループット会計がどのような射程を持つものなのか議論していきます。	12月7日(土) ②11:10-12:40
11	<品質原価計算> 活動基準原価計算の回で戦略的コスト・マネジメントを取り上げますが、その展開として品質原価計算に焦点を当てます。概要を踏まえた上で、原価企画との関連に特に注目し、製品の設計段階における原価管理の重要性と戦略性を考察します。	12月14日(土) ②11:10-12:40
12	<ライフサイクル・コスト> 製品ライフを考慮した原価計算を取り上げます。品質原価計算と同様に戦略的コスト・マネジメントの1つの展開として捉えています。	12月21日(土) ②11:10-12:40
13	<工場見学> 工場見学の予定は先方の都合もあるため、シラバス上はここに置きますが、どこかで1回必ず行うことを予定します。	1月11日(土) ②11:10-12:40
14	<工場見学を踏まえたディスカッション> 工場見学を終えた翌回の授業では、見学を踏まえたディスカッションを中心とする授業を行います。	1月18日(土) ②11:10-12:40
15	<総まとめ> 工場見学やこれまでの講義内容を踏まえ、林先生に在りうべき原価計算についてお話頂きます。また、履修者の皆さんと議論を深めたいと思います。	1月25日(土) ②11:10-12:40
試験	計算問題と論述など原価計算の基本思考が身についているかチェックする試験を行います。	2月1日(土) ②11:10-12:40

使用教科書/評価方法等

教科書	林總著『新版わかる! 管理会計』ダイヤモンド社
参考書	適宜指定
評価方法	期末テスト40%、出席を含む授業への貢献度など60%
その他	授業内容や進度は状況に応じて変化します。積極的な貢献を期待します。

ID: YA13334

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	応用実践	財務分析論	結城邦博	15	2

授業の目的

基本的な財務諸表分析手法を理解し、中小企業における財務分析や大企業における不正会計事例を考察することで、取引先や子会社などを対象とした実践的な財務分析手法を身に付けることを目的とします。 本講義は3部構成です。

- ・第1部は、数社の有価証券報告書を用い、伝統的な財務諸表分析について考察します。
- ・第2部は、大企業とはアプローチが異なる中小企業の財務分析を粉飾の観点から検討します。
- ・第3部は、実際に起きた不正会計事例を扱い、どのような財務分析手法が不正会計を見抜くのにも有効かなどを履修者に発表していただき議論する予定です。

授業の到達目標

財務諸表を基に分析を行い、自分なりの仮説が持てるようになることを目標とします。

履修条件

特にありません。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	【オーバービュー】 講座の説明、指標開発の歴史、財務諸表分析と何か	10月12日 ⑤16:50-18:20
2	【貸借対照表分析】 貸借対照表の見方、比率分析など	10月26日 ⑤16:50-18:20
3	【損益計算書分析】 損益計算書の見方、利益率分析など	10月26日 ⑥16:50-18:20
4	【貸借対照表と損益計算書の組み合わせ分析】 資本利益率、回転率など	11月9日 ⑤16:50-18:20
5	【キャッシュフロー計算書分析】 キャッシュフロー計算書の見方、比率分析など	11月9日 ⑥16:50-18:20
6	【中小企業の財務分析】 中小企業における収益力の分析方法	11月23日 ⑤16:50-18:20
7	【中小企業の財務分析】 中小企業における粉飾決算書の分析方法	11月23日 ⑥16:50-18:20
8	【中小企業の財務分析】 キャッシュフロー分析	12月7日 ⑤16:50-18:20
9	【中小企業の財務分析】 ケース・スタディー	12月7日 ⑥16:50-18:20
10	【不正会計に対する財務分析】 不正のトライアングル、粉飾決算における3要素	12月21日 ⑤16:50-18:20
11	【不正会計に対する財務分析】 不正会計事例の検討	12月21日 ⑥16:50-18:20
12	【不正会計に対する財務分析】 不正会計事例 ①②③ <発表>	1月18日 ⑤16:50-18:20
13	【不正会計に対する財務分析】 同上 続き	1月18日 ⑥16:50-18:20
14	【不正会計に対する財務分析】 不正会計事例 ④⑤⑥ <発表>	2月1日 ⑤16:50-18:20
15	【不正会計に対する財務分析】 同上 続き	2月1日 ⑥16:50-18:20

試験	期末レポート	
使用教科書／評価方法等		
教科書	改定版 ポイント図解式会計 財務諸表分析入門 平林亮子編 アスキー・メディアワークス 第1部は、テキスト中心に進めますが、第2部、第3部は、資料を配布し講義を進めます。	
参考書	適宜、講義の中で紹介します。	
評価方法	出席を含む授業への貢献度など (20%)、中間レポート (20%)、発表 (30%)、 期末レポート (30%)	
その他	授業の進み具合や履修者の方の数に応じて内容を変えることがあります。	

ID: YA13332

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	応用実践	管理会計事例研究	林總	15	2

授業の目的

現代の管理会計は、理論だけでなく、経営システム、業務システムを知らないと理解できません。そして、これらの前提となるのが、ビジネスそのものの理解です。本講では、システムを通して、ビジネスがどのように行われているか。また、管理会計と IT はどのようにかかわっているのかについて学んでいきます。

授業の到達目標

管理会計を仕事に生かせるスキルを養成する。

履修条件

管理会計か原価計算を履修していること

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	講義の進め方、管理会計の意義と体系 管理会計がなぜ必要とされるか。管理会計の体系を俯瞰する（講義の進め方、受講の前提の説明、成績評価基準、自己紹介）	10月5日(土) ④15:10-16:40
2	会社の仕組み 管理会計の理解には会社の活動の知識が不可欠である。そこで、企業統治、会社組織(事業部、部門)、ビジネスプロセス(受注、生産、販売、在庫、管理)、情報システムを俯瞰する。特に、生産管理について理解を深める。管理会計との結びつきを学ぶ。	10月12日(土) ④15:10-16:40
3	工場の仕組み(製造プロセス) どのように生産活動がなされるのか、具体的な事例をとりあげる。さらに、原価計算と在庫会計との位置づけを検討する。なぜ原価計算をするのか理解する	10月19日(土) ④15:10-16:40
4	営業の仕組み どのように営業活動がなされるのか。具体的な事例をとりあげる。製造部門との関係はどのようになっているのか	10月26日(土) ④15:10-16:40
5	工場の仕組み(自動車会社)	11月2日(土) ④15:10-16:40
6	一般会計システムの構造	11月9日(土) ④15:10-16:40
7	販売管理システムの構造	11月16日(土) ④15:10-16:40
8	生産管理システムの構造	11月23日(土) ④15:10-16:40
9	在庫管理システムの構造	11月30日(土) ④15:10-16:40
10	予算システムの構造	12月7日(土) ④15:10-16:40
11	伝統的原価計算とオブジェクト指向による原価計算 経営資源(リソースコスト)の(理論と事例) 経費、作業時間、機械時間等原単位原価の収集方法と原価計算とどのように連動させるかを学ぶ。	12月14日(土) ④15:10-16:40
12	プロセス・アクティビティ(理論と事例) プロセス、アクティビティの定義、アクティビティコストの計算方法、アクティビティの管理の仕方を具体的に学ぶ。	12月21日(土) ④15:10-16:40
13	コストオブジェクト(理論と事例) コストオブジェクトの定義の仕方、アクティビティとの関係、さまざまな業種におけるコストオブジェクトコストの計算と分析の仕方を学ぶ。	1月11日(土) ④15:10-16:40
14	管理会計システムの具体例。実例による解説 製造業	1月18日(土)

		④15:10-16:40
15	管理会計システムの具体例。実例による解説 小売業	1月25日(土) ④15:10-16:40
試験		

使用教科書／評価方法等

教科書	レジュメを配布します
参考書	『美容院と1000円カットでは、どちらが儲かるか』林總著 ダイヤモンド社 2008年
評価方法	出席を含む授業への貢献度など70%、レポート30%
その他	

ID: YA13512b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	基本	監査論	篠宮雅明	15	2

授業の目的

現代の市場経済では、企業に対して財務内容の開示が求められており、開示の主要な手段である財務諸表については、適正性に関する独立した公認会計士又は監査法人による監査が必要とされている。その意味で、財務諸表の監査は、市場経済を支える重要な役割を担っている。本講義では、財務諸表の監査を中心とした監査の目的から機能、我が国における監査制度、監査基準の構成、監査実施のプロセスについて学習していく。

授業の到達目標

監査の制度的枠組みや監査実施上の基本的な考え方・技術・意見形成の過程を理解することにより、監査理論の基礎を習得することを目標とする。

履修条件

なし

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	社会を揺るがす経済事件 会計及び監査に関する事件（一般的に粉飾決算と呼ばれる事件）として、証券市場に大きな影響を与えた我が国のカネボウ事件と米国のエンロン事件の概要の理解を通して、株式が証券市場に上場するという事、証券市場における開示の手段と粉飾決算の原因（不正リスク要因）の概要を学習する。	10月2日(水) ⑤19:30-21:00
2	経済事件とコーポレート・ガバナンス 経営者のリスク管理体制の構築義務を再認識させた大和銀行ニューヨーク支店事件の概要の理解を通して、コーポレート・ガバナンス（企業統治）、コンプライアンス（法令遵守）、内部統制の概要を学習する。	10月9日(水) ⑤19:30-21:00
3	経済社会を支える財務情報 主に企業の資金調達的手段と財務情報の公開制度の概要の理解を通して、財務情報を利用する利害関係者のニーズ、利害関係者保護の必要性（情報の信頼性の確保）、財務情報開示制度の充実（頻度の増加、開示手段の多様化など）について学習する。	10月16日(水) ⑤19:30-21:00
4	財務諸表監査の必要性 監査の役割に関する歴史的な考察を通して、財務諸表監査の目的、財務諸表監査の必要性、監査人がなすべきこと、利害関係者が監査人に期待することと監査人が実際に行っていることのギャップ（期待のギャップ）などについて学習する。	10月23日(水) ⑤19:30-21:00
5	監査を取り巻く法律 監査に関係する法律は多数存在するが、それらの中から、営利企業に対して監査を義務付ける法律である金融商品取引法と会社法、監査主体（公認会計士、監査法人）を規制する法律である公認会計士法の概要について学習する。	10月30日(水) ⑤19:30-21:00
6	監査を担当する人 監査証明業務を行う公認会計士とはどのような職業なのか、公認会計士の業務、公認会計士の資格取得、公認会計士に求められるもの（独立性、正当な注意、職業的懐疑心、守秘義務など）、公認会計士の責任などについて学習する。	11月6日(水) ⑤19:30-21:00
7	監査を取り巻く組織 監査制度、証券市場、財務情報に関係する組織として、我が国における唯一の監査主体の組織（日本公認会計士協会）、監督組織（金融庁、公認会計士・監査審査会など）、会計基準の作成主体（企業会計審議会、企業会計基準委員会）の概要、米国及び国際的な組織の概要について学習する。	11月13日(水) ⑤19:30-21:00

8	<p>監査のルール</p> <p>財務諸表監査が社会的に信頼を得るためには、監査の実施や報告について一定の基準を設ける必要がある。我が国における一般に公正妥当と認められる監査の基準である監査基準の社会的役割、改訂の経緯、構成などについて学習する。</p>	11月20日(水) ⑤19:30-21:00
9	<p>監査のプロセス(1)</p> <p>監査契約の締結から、監査の実施、監査報告に至るまでの、監査の基本的なプロセスの概要を理解するとともに、主に監査計画の策定から監査の実施に際して考慮すべき監査の基本的な考え方(試査、リスク・アプローチなど)の概要について学習する。</p>	11月27日(水) ⑤19:30-21:00
10	<p>監査のプロセス(2)</p> <p>監査のプロセスのうち、監査の実施プロセス(リスク評価、監査要点の設定、リスク対応、監査証拠の評価など)を中心に、さらに経営者から入手する監査証拠の一種である経営者確認書、監査の実施過程とその結果を記録する監査調書について学習する。</p>	12月4日(水) ⑤19:30-21:00
11	<p>監査結果の報告</p> <p>監査主体から利害関係者への情報伝達の手段としての監査報告書の構成と記載内容、除外事項の種類と監査意見の関係、追記情報の意義と種類、さらに継続企業(ゴーイング・コンサーン)前提について学習する。</p>	12月11日(水) ⑤19:30-21:00
12	<p>監査の信頼性向上のための取り組み</p> <p>カネボウ事件などで失墜した監査の社会的な信頼性を回復するための取り組みとして、内部統制報告書の監査制度、監査人の独立性の確保を強化するための施策(非監査証明業務の同時提供禁止、ローテーションなど)、監査人に対する監視・監督体制の強化などについて学習する。</p>	12月18日(水) ⑤19:30-21:00
13	<p>健全な社会と監査—いろいろな組織の監査</p> <p>社会は営利企業のみで構成されているのではなく、広く不特定多数の者に対してサービスを提供する非営利組織体も数多く存在する。非営利組織体が開示する財務情報とその信頼性の確保について、学校法人、公益法人、独立行政法人・国立大学法人、政治団体に対する監査を中心に学習する。</p>	1月8日(水) ⑤19:30-21:00
14	<p>コンピュータ環境下の監査</p> <p>監査が義務付けられる営利企業のほとんどは、情報技術(IT)を利用して財務情報を記録・処理している。また、内部統制も情報システムに組み込まれて機能しているケースが多い。このような高度にコンピュータ化された環境における監査の実施について学習する。</p>	1月15日(水) ⑤19:30-21:00
15	<p>不正リスクに対応した監査</p> <p>平成25年3月に設定された「監査における不正リスク対応基準」について、不正に対応した監査の考え方、財務諸表監査の目的や期待ギャップとの関係、不正リスクに対応した監査のプロセスについて、その概要を学習する。</p>	1月22日(水) ⑤19:30-21:00
試験	<p>期末テスト(筆記試験)</p>	1月29日(水) ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	<ul style="list-style-type: none"> 『新版 まなびの入門監査論(第2版)』盛田良久・百合野正博・朴大栄編著 中央経済社 2012年 講義において配布する資料
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『財務諸表監査 私論』五十嵐達朗著 日経事業出版センター 2012年 『監査実務ハンドブック(平成25年版)』日本公認会計士協会出版局 2012年
評価方法	期末テスト60%、出席を含む授業への貢献度など40%
その他	

ID: YA13525

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	発展	監査手続論	相川聡志	15	2

授業の目的

1年間を通して監査を行うにあたって、それぞれの段階の監査手続を時系列を追うように解説する。各段階での監査の目的を理解し、それに応じた監査手続の設計及び実施ができる能力を養うことを目的とする。

授業の到達目標

実務における一連の監査手続を14回15回で実践シミュレーションし、実務に出られる即戦力の習得を到達目標とする。

履修条件

「監査論」の既履修もしくは同程度の理解を前提とする。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	監査全体像 監査を行う目的（最終的なゴール）について確認を行う。財務諸表監査及び内部統制監査について、監査全体から見た関係を学習する。1年間を通じた監査の流れを学習する。	10月1日(火) ⑤19:30-21:00
2	リスクアプローチ 総論現代における監査の根幹を成すリスクアプローチについて学習する。	10月8日(火) ⑤19:30-21:00
3	監査契約、監査の基本的な方針の策定（上） そもそも監査契約自体を締結してよいのかについての検討を行う。現代における監査の根幹を成す重要性の基準値について学習する。	10月15日(火) ⑤19:30-21:00
4	監査の基本的な方針の策定（下） 連結財務諸表に対するグループ監査について学習する。	10月22日(火) ⑤19:30-21:00
5	財務諸表監査全体レベル及びアサーションレベルのリスク評価 それぞれのレベルにおいて発生しうるリスクについて把握を行う。	10月29日(火) ⑤19:30-21:00
6	リスクに対応したコントロールの評価 5回で把握したリスクに対して、どのようなコントロールが設計されているかの把握を行う。また、そのコントロールの有効性についての評価を行う。サンプリングについても学習する。	11月5日(火) ⑤19:30-21:00
7	ITに係る内部統制 ITを利用した内部統制の評価について学習する。	11月12日(火) ⑤19:30-21:00
8	業務プロセスに係る内部統制評価 リスク評価・コントロール評価が終わった段階での結合リスク評価を行う。結合リスク評価に応じた実証手続についての概括的な設計を行う。	11月19日(火) ⑤19:30-21:00
9	実証手続1 8回で行った結合リスク評価に応じた実証手続の概括的設計から必要な詳細な手続を導く。いわゆる実査・確認・立会等の監査手続の総論を行う。	11月26日(火) ⑤19:30-21:00
10	実証手続2 資産（現預金、売掛金、棚卸資産、固定資産、等）	12月3日(火) ⑤19:30-21:00
11	実証手続3 負債資本（買掛金、借入金、引当金、純資産、等）	12月10日(火) ⑤19:30-21:00
12	実証手続4 損益科目、連結財務諸表	12月17日(火) ⑤19:30-21:00

13	<p>監査意見の形成</p> <p>監査意見は監査人にとっての最終的な結論である。結論を導くに至る過程を学習する。また、継続企業の前提についても学習する。</p>	<p>1月7日(火)</p> <p>⑤19:30-21:00</p>
14	<p>監査手続シュミレーション (上)</p> <p>1~8 回までの講義を踏まえ、一連の監査手続をディスカッションをしながらクラス全員で行う。</p>	<p>1月14日(火)</p> <p>⑤19:30-21:00</p>
15	<p>監査手続シュミレーション (下)</p> <p>9~13 回までの講義を踏まえ、一連の監査手続をディスカッションをしながらクラス全員で行う。</p>	<p>1月21日(火)</p> <p>⑤19:30-21:00</p>
試験	なし	

使用教科書／評価方法等

教科書	講義において配布する資料、及び『新起草方針に基づく 監査実務指針集』日本公認会計士協会出版局 2012年2月20日刊行
参考書	適宜案内を行う。
評価方法	出席を含む授業への貢献度など 40%、授業内での発言及び参加姿勢 30%、14 回及び 15 回の監査手続シュミレーションでの発言及び参加姿勢 30%
その他	<p>授業内での発言は正誤によって評価はしない。あくまでも授業に対する参加姿勢と理解しようとする姿勢を評価の対象とする。</p> <p>14 回、15 回は全員で輪になってのディスカッション形式とする。1 回~13 回で学習した内容をシュミレーションで大いに発揮して欲しい。</p>

ID: YA13536

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	応用実践	内部統制監査	篠宮雅明	15	2

授業の目的

平成 20 年 4 月、我が国において上場会社に対して、財務報告に係る内部統制の経営者による評価と公認会計士等による監査（内部統制報告制度）が義務付けられてから既に 3 年が経過した。その間、実際に制度を適用した企業等からの要望や意見に応える形で、平成 23 年 3 月に財務報告に係る内部統制基準・実施基準が改訂され、内部統制報告制度の運用の見直しが図られている。

本講義では、経営者（企業の構成員）の観点から財務報告に係る内部統制の整備・運用・評価について、また、監査人の観点から財務諸表監査との関係、監査計画の策定から監査の実施、監査報告についての理解を通して、我が国における内部統制報告制度の内容を学習する。

授業の到達目標

我が国における内部統制監査の制度と実務を理解することにより、内部統制を構築・運用・評価する経営者（企業の構成員）としての関わり方及び監査人としての関わり方を習得することを目標とする。

履修条件

「監査論」及び「監査手続論」の既履修もしくは同程度の理解を前提とする。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	内部統制の充実の必要性 財務諸表監査においては平成 3 年のリスク・アプローチ導入当初から監査の対象とされてきた内部統制が、10 数年経過した平成 20 年に内部統制監査として改めて監査が義務付けられた経緯について学習する。	9 月 30 日(月) ⑤19:30-21:00
2	ダイレクト・レポーティングの不採用 我が国の制度において、内部統制そのものの有効性について意見を表明するダイレクト・レポーティングが不採用となったのはなぜか。また、ダイレクト・レポーティングを採用しないとしながらも、監査人自らが入手した監査証拠に基づいて判断した結果を意見として表明するとはどういうことかについて学習する。	10 月 7 日(月) ⑤19:30-21:00
3	内部統制の定義－目的と基本的要素 内部統制報告制度における内部統制の定義については、COSO のフレームワークを基本的に踏襲しながらも、目的と基本的要素にそれぞれ一つずつ加えた我が国独自の定義付けが行われている。COSO のフレームワークの内容を中心に、内部統制の目的と基本的要素について学習する。	10 月 14 日(月) ⑤19:30-21:00
4	内部統制の限界 どんなに適切に整備され、運用されている内部統制であっても、内部統制の限界により、その目的達成が絶対的に保証されるものではない。内部統制の限界とはどのようなものか学習する。	10 月 21 日(月) ⑤19:30-21:00
5	経営者による内部統制の評価のプロセス 必ずしも監査の専門家としての能力を有していない経営者が内部統制をどのように評価するのか。内部統制基準・実施基準に基づく、経営者による評価の体制、評価のプロセスについて学習する。	10 月 28 日(月) ⑤19:30-21:00
6	全社的な内部統制 全社的な内部統制とはどのようなものか、その評価はどのように行うか、全社的な内部統制が業務プロセスに係る内部統制に与える影響にはどのようなものがあるか。全社的な内部統制の概要とその評価（評価単位、評価方法など）について学習する。	11 月 4 日(月) ⑤19:30-21:00
7	業務プロセスに係る内部統制の評価① 業務プロセスに係る内部統制の評価について、評価対象となる業務プロセスの識別の	11 月 11 日(月) ⑤19:30-21:00

	手順（重要な事業拠点の選定、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目、重要性の大きい業務プロセスなど）、評価方法及び評価時期について学習する。	
8	業務プロセスに係る内部統制の評価② 内部統制の評価に際しては、閲覧可能な一定の記録（文書化）が求められる。業務プロセスにおいては、いわゆる3点セット（フローチャート、業務記述書、リスク・コントロール・マトリックス（RCM））が該当する。この3点セットについて学習する。	11月18日(月) ⑤19:30-21:00
9	ITを利用した内部統制 上場会社のほとんどは財務報告の基礎となる会計記録に関してITを利用しており、内部統制についてもITを利用したものが少なくない。手作業による内部統制とITを利用した内部統制の違いやメリット・デメリット、IT全般統制とIT業務処理統制の関係について学習する。	11月25日(月) ⑤19:30-21:00
10	内部統制の有効性と開示すべき重要な不備 内部統制が有効であるとはどのような状況を言うのか。また、内部統制の不備とはどのようなものか。それぞれの概念の理解を通して、両者の関係、内部統制の不備のうち開示すべき重要な不備とはどのようなものかについて学習する。	12月2日(月) ⑤19:30-21:00
11	期末日現在における有効性 財務報告は、会計期間を通じた会計記録の結果として、期末日を基準として行われる。一方で、経営者の評価は、期末日現在の内部統制の有効性に関して行われる。会計期間を通じて内部統制が有効でなければ、財務報告の信頼性は保証されないのではないか。この点について学習する。	12月9日(月) ⑤19:30-21:00
12	内部統制報告書 経営者による財務報告に係る内部統制の評価結果の伝達手段であり、また、監査人の意見表明の対象である内部統制報告書とはどのようなものか。その構成内容、文例などについて学習する。	12月16日(月) ⑤19:30-21:00
13	財務諸表監査と内部統制監査の関係① 内部統制監査は、財務諸表監査と同一の監査人が実施することにより、効率的かつ効果的に行うことが期待される。今回は、財務諸表監査と内部統制監査の一体的実施という観点から、両者の関係、実務的な課題について学習する。	1月6日(月) ⑤19:30-21:00
14	財務諸表監査と内部統制監査の関係② 財務報告に係る内部統制の有効性は、財務諸表の信頼性に影響を与える。内部統制が有効でない場合、財務諸表の信頼性は確保されていない可能性があるが、財務諸表監査の意見表明において、無限定適正意見が表明されることは珍しくない。今回は、監査の結果という観点から、両者の関係について学習する。	1月13日(月) ⑤19:30-21:00
15	内部統制監査における監査手法 内部統制監査における監査手法は、財務諸表監査における監査手法（主に運用評価手続）に違いはあるのか。この点について、適用する監査手続の種類や組み合わせ、実施の範囲や深度の観点から学習する。	1月20日(月) ⑤19:30-21:00
試験	期末レポート	

使用教科書／評価方法等

教科書	講義において配布する資料
参考書	『内部統制の統合的枠組み 理論編』鳥羽至英・八田進二・高田敏文共訳 白桃書房 1996年 『内部統制の理論と制度』鳥羽至英著 国元書房 2007年 『J-SOX 対応 IT 統制監査実践マニュアル』NPO 日本システム監査人協会編 森北出版 2011年 『監査実務ハンドブック（平成25年版）』日本公認会計士協会出版局 2012年
評価方法	期末レポート50%、出席を含む授業への貢献度など50%
その他	

ID: YA13413

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	基本	経営学 I	慶松勝太郎	15	2

授業の目的

経営学では主要な経営理論を学ぶことを目的とする。経営理論には組織や戦略など、人間を一つの駒とみる立場と、人間の行動を基本とする立場があるが、経営学 I では主として前者を経営学 II では後者について学ぶ。職業会計人は単に会計の技術的知識を身につければよいだけでなく、経営についての理解を必要とする。理論の理解だけで経営ができるわけではないが、経営理論の習得は、経営の体系的理解に役立つ。

授業の到達目標

経営理論の生まれた背景を理解すること、そうした経営理論を経営の現状分析に応用できるようになることを目標とする。発表と討論を通じてプレゼンテーション能力の向上を図る。

履修条件

--

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	【イントロダクション】 少子高齢化の進展、IT 技術の発展など、変化する経営環境について学ぶ。経営管理の必要理由とドラッカーの云う decentralized system について考える。	10月5日(土) ①9:30-11:00
2	【組織マネジメントとは何か】 組織とは何か、組織マネジメントはなぜ必要か、組織マネジメントの全体像はどんなものかについて学ぶ。	10月12日(土) ①9:30-11:00
3	【古典的経営論】 テイラーの科学的管理法の現代的意味と限界について、フェイヨールの踏み板論、ホーソン実験の意義と発見について学ぶ	10月19日(土) ①9:30-11:00
4	【経営戦略論 I】 経営戦略論の概念について学ぶ。ゼロックスの乾式複写機の成功について学ぶ。キャノンの複写機の成功とゼロックスとは異なるビジネスモデルについて学ぶ。	10月26日(土) ①9:30-11:00
5	【経営戦略論 II】 市場構造と企業間競争について主としてポーターの戦略論に学ぶ。	11月2日(土) ①9:30-11:00
6	【経営戦略論 III】 価値創造システムとアスクルの成功例と今後の課題、ワールドの事例を学ぶ。	11月9日(土) ①9:30-11:00
7	【経営戦略論 IV】 多角化戦略について学ぶ。	11月16日(土) ①9:30-11:00
8	【イノベーションのジレンマ】 急進的イノベーション・漸進的イノベーションについてクリステンセンの『イノベーションのジレンマ』における破壊的イノベーションを理解する。	11月23日(土) ①9:30-11:00
9	【イノベーション】 クリステンセンのイノベーションのジレンマに引き続きイノベーション一般について学ぶ。	11月30日(土) ①9:30-11:00
10	【経営資源論】 財務資源、物的資源、人的資源、組織能力、技術能力など企業の有する物的資源と能力資源について学ぶ。	12月7日(土) ①9:30-11:00
11	【コア・コンピテンス】 企業の有する能力のうちプラハラッドとハメルの「コア・コンピテンス論」の論文を読む。	12月14日(土) ①9:30-11:00

12	【組織論のデザイン】 組織設計の原理を学ぶ。職能的組織、事業部制、官僚組織等について学ぶ。	12月21日(土) ①9:30-11:00
13	【イノベーションと組織】 イノベーションに対する組織的障害、イノベーションを促進する組織等について学ぶ。	1月11日(土) ①9:30-11:00
14	【経営文化論】 経営文化、組織風土の意味を考える。	1月18日(土) ①9:30-11:00
15	【モチベーション】 人は何によって動くかについて学ぶ。	1月25日(土) ①9:30-11:00
試験	試験は行わない。レポートの提出を求める。	

使用教科書／評価方法等

教科書	『組織マネジメントの基礎』柴田悟一編著 東京経済情報出版 2010年(5版)。『経営戦略の基礎』中橋国蔵編著 東京経済出版 2012年。 『イノベーションのジレンマ』クレイトン・クリステンセン著 株式会社翔泳社 2007年(初版20刷)。 「企業の中心的能力」C.K. プラハラッド、ゲイリー・ハメル。
参考書	『現代企業入門』土屋守章著 日本経済新聞社出版 1992年(19刷)。 『現代企業論』土屋守章著 平成5年(初版5刷)。 『経営者の役割』C. Iバーナード著 山本安二郎・田杉競・飯野春樹訳 ダイヤモンド社 1999年。
評価方法	出席を含む授業への貢献度など50%、期末レポート50%
その他	

ID: YA13414

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	基本	ファイナンス論	高森寛	15	2

授業の目的

近年、会計とファイナンスは融合しつつある半面、それぞれ、対照的な原理と原則に基いてます。会計学においては、複式簿記をベースにして、取得原価の原理が貫かれております。ファイナンスでは、諸資産の価値は、取得原価ではなく、未来がもたらす便益とリスクに依存します。これら対照的な知識・原理の両方を身につけてこそ、これからの会計とファイナンスのプロフェッショナル（専門職業人）として活躍することができます。この科目は、ファイナンスの方の原理と原則と、未来へ向けての投資戦略に関わる基本的な知識・原理を身につけることを目指します。

授業の到達目標

「企業の諸資産と企業そのものの市場価値は、どのように決まるのか」が最大の重要テーマです。まずは、「株式」という権利資産の価値の源泉は何かを理解することからはじめて、モダン・ポートフォリオ理論のエッセンスを学びます。リスクを勘案しながら、諸資産を価値づけする方法論を学び、知的資産など、デリバティブ的資産についても、その価値を評価する基本原理を身につけます。

履修条件

特になし。中学、高等学校程度の数学知識が望ましい。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	ファイナンスに係る基本的な諸概念 I: 市場経済と株式システム、会計原則とファイナンスの原理は、どう違うか、埋没費用と機会費用、権利資産としての株式とその価値、企業家精神の源泉は、株式システムのどこにあるのか。企業は、いくつかのステーク・ホルダーの運命共同体である。	10月5日(土) ⑤16:50-18:20
2	マネーフローの時間価値と各種キャッシュフロー資産の価値: 一様フロー現在価値係数、資本回収係数、年間等価費用係数、投資型金融商品の価値、事業資産の価値は、どのようにきまるか。	10月12日(土) ⑤16:50-18:20
3	株式の価値と企業の市場価値 I: 時価ベースの資産バランスシート、割引配当モデルとゴードンのモデル、企業の価値はどのように決まるのか、将来の成長性とリスクは株式の価値にどのように影響するか。企業の価値は、だれにどのように帰属するか。	10月19日(土) ⑤16:50-18:20
4	ファイナンスに係る基本的な諸概念 II: 機会費用、投資家の要求収益率と資本コスト、同じコインの表と裏としての費用と価値。MM理論の要約。会計上のバランスシートと時価ベースのバランスシートの資産価値は、なぜ、乖離するのか。どういうときに、どちらを信用するのか。	10月26日(土) ⑤16:50-18:20
5	株式の価値と企業の市場価値 II: 投資の意思決定と事業の価値、資本の生産性、ROA、ROE、企業の収益性と株価、株主の限定責任と残余請求権はオプション契約であり、株式価値の源泉である。コーポレート・ガバナンスと企業価値、内部留保はだれのものか。	11月2日(土) ⑤16:50-18:20
6	企業の成長機会とその価値: 配当と内部留保、サステイナブル成長率、収益性のリスクと成長性は、株式価値にどう反映するか。	11月9日(土) ⑤16:50-18:20
7	埋没費用か機会費用か - 減価償却費は費用でもキャッシュフローでもない、それをどう扱えばよいのか。利益もキャッシュフローではない。フリーキャッシュフローについて。経済付加価値分析 (EVA)。	11月16日(土) ⑤16:50-18:20
8	中間試験 : これまでの知識と諸概念について	11月23日(土) ⑤16:50-18:20
9	リスクの扱いに関する基礎 I: 確率および統計の基礎概念、収益性の尺度、リスクの尺度、リスク変数間の連動性の尺度。多次元変量の扱い。確率と統計に関する重要定	11月30日(土) ⑤16:50-18:20

	理。ポートフォリオ資産の β の合成。	
10	リスクの扱いに関する基礎 II: 不確実性と分散投資、回帰分析と相関分析、分散投資の意味。リスクとリターンに関する効用と無差別曲線。リスクとリターンのトレードオフ。効用最大化の投資行動モデル。	12月7日(土) ⑤16:50-18:20
11	リスクの扱いに関する演習: 回帰分析とシミュレーション。CAPM モデルのパラメータ β の意味と推定。	12月14日(土) ⑤16:50-18:20
12	モダン・ポートフォリオ理論のエッセンス I: 資本資産評価 (CAPM) モデル。ファイナンンにおける基本論理: 無裁定条件に向けて市場価格は落ち着く。リスクを担う投資家にはリターンが約束される。市場では、リスクに価格がつく。	12月21日(土) ⑤16:50-18:20
13	モダン・ポートフォリオ理論のエッセンス II: 市場モデル、シングル・インデックスモデル。システムティック・リスクとアンシステムティック・リスク。市場では、価格がつくリスクとつかないリスクがある。	1月11日(土) ⑤16:50-18:20
14	現代ファイナンス理論 - CAPM (資本資産評価) モデルに関する応用と演習 I。企業価値を下落させる経営決定と上昇させる決定。株主の利となる経営意思決定とは何か。資本へのリターンが軽視されると株価は下落する。	1月18日(土) ⑤16:50-18:20
15	現代ファイナンス理論 - オプション資産とデリバティブ資産。先渡し契約と先物市場の意義。オプション資産の価値は、どのように決まるのか。金融工学の考え方。知的資産の価値評価。	1月25日(土) ⑤16:50-18:20
試験	期末試験	2月1日(土) ⑤16:50-18:20

使用教科書/評価方法等

教科書	『コーポレートファイナンス』、第8版、リチャード・ブリーリー他著、藤井真理子他訳、日経BP社
参考書	『現代ファイナンスの基礎理論』、高森寛著、東洋経済新報社
評価方法	宿題・中間テスト等 30%、期末テスト 30%、出席を含む授業への貢献度など 40 %
その他	適宜に、宿題、課題等をだします。

ID: YA13429

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	発展	経営学Ⅱ	竹澤史江	15	2

授業の目的

本講義では、組織行動論の観点から組織の中の人間行動に関する基本的な理論や考え方を学習する。具体的には、組織の中の個人、組織の中の集団、そして組織のシステムという3つの側面から組織内の人間行動を考察し、働く人々の行動を説明・予測・統制する理論や考え方について理解を深める。そして、職場において求められるモチベーションの向上、より良いコミュニケーションの形成、より効率的なチームの構築に必要な高度な思考力・判断力・実践力の育成を図る。また、近年の社会変化の中で生じている雇用や労働に関する問題についても検討を行う。

授業の到達目標

- ・組織の中で人間行動を理論的に考察することができる。
- ・ビジネスの現場における人間行動をめぐる諸問題について課題を提示できる。
- ・経営活動に対する関心を高め、組織行動論の観点から自分の意見を述べるができる。

履修条件

経営学Ⅰを履修しているか、または経営学の基礎的な知識があると理解が深まる。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	組織行動学とは何か 組織行動学とは、組織内で人々が示す行動や態度についての体系的な学問であることを理解する。	10月2日(水) ⑤19:30-21:00
2	個人の行動の基礎 個人の行動を理解するために、価値観、態度、認知、学習に注目し、考察を行う。	10月9日(水) ⑤19:30-21:00
3	パーソナリティと感情 パーソナリティと組織における行動との関係や、感情が仕事に関連する行動に与える影響について検討する。	10月16日(水) ⑤19:30-21:00
4	動機づけの基本的なコンセプト 動機づけの基本的なプロセスや期待理論など代表的な理論について学習する。	10月23日(水) ⑤19:30-21:00
5	動機づけ：コンセプトから応用へ 学習した動機づけ理論をどのように実践に結び付けるか、目標による管理など動機づけの技法について考察する。	10月30日(水) ⑤19:30-21:00
6	個人の意思決定 組織において意思決定はどのように行われるのか、また意思決定の効果を高めるにはどうすればよいのかを検討する。	11月6日(水) ⑤19:30-21:00
7	集団行動の基礎 集団に関する個本的な概念を学習する。さらに、グループシンクとグループシフトについて考察する。	11月13日(水) ⑤19:30-21:00
8	「チーム」を理解する 効果的なチームを構築するための基盤、構成、職務設計、プロセスについて学習する。	11月20日(水) ⑤19:30-21:00
9	コミュニケーション コミュニケーションの機能や阻害要因、また効果的なフィードバックの提供に関連する行動について検討する。	11月27日(水) ⑤19:30-21:00
10	リーダーシップと信頼の構築 リーダーシップの特性理論、行動理論、条件適合理論の代表的な理論や、近年の新たな理論を取り上げ考察する。	12月4日(水) ⑤19:30-21:00

11	力（パワー）と政治 組織における政治的観点の重要性や政治的行動に貢献する要因について理解を深める。	12月11日(水) ⑤19:30-21:00
12	コンフリクトと交渉 コンフリクトに関する考え方の変遷、コンフリクト処理の方法、そして交渉における今日的な問題を検討する。	12月18日(水) ⑤19:30-21:00
13	人材管理の考え方と方法 採用、研修、評価など人事に関する制度について学習するとともに、近年の雇用や労働に関する諸問題について考察する。	1月8日(水) ⑤19:30-21:00
14	組織変革と組織開発 組織に変革をもたらす因子、変化への抵抗とその克服、組織開発、組織変革における現代的問題を検討する。	1月15日(水) ⑤19:30-21:00
15	管理者の役割 分業と協業を前提とする会社組織において管理者に求められる役割について考察する。	1月22日(水) ⑤19:30-21:00
試験		

使用教科書／評価方法等

教科書	スティーブンP. ロビンズ著 高木晴夫訳『新版 組織行動のマネジメントー入門から実践へ』ダイヤモンド社、2009年。
参考書	開本浩矢『入門 組織行動論』中央経済社、2007年。 奥林康司・上林憲雄・平野光俊（編著）『入門 人的資源管理（第2版）』中央経済社、2010年。
評価方法	期末レポート70%、出席を含む授業への貢献度など30%
その他	

ID: YA13431

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	応用実践	経営事例研究	慶松勝太郎	15	2

授業の目的

この講義では実際の企業の事例を取り上げ、そこでの問題点を討議することで企業への理解を深める。講義はゼミナール形式とし、事例についての討議を重点とする。
 企業に関しては1. 種々の異なった企業形態があることを理解する。2. 異なった事業環境における異なった経営者判断について理解する。
 SWOT 分析を行い企業の強み・弱み・脅威・事業機会を解析する。実施の経営者による講演を企画する。

授業の到達目標

異なった事業形態、異なった技術的内容についておおよそを理解し、どのような業種であっても企業の内容が理解できることを目指す。
 討論を通じてプレゼンテーション能力を高めるとともに、不確定条件下で意思決定が行えることを目標とする。

履修条件

--

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	イントロダクション	9月30日(月) ⑤19:30-21:00
2	ケース・メソッドによる事例研究	10月7日(月) ⑤19:30-21:00
3	ケース・メソッドによる事例研究	10月14日(月) ⑤19:30-21:00
4	ケース・メソッドによる事例研究	10月21日(月) ⑤19:30-21:00
5	経営者による講演 (予定)	10月28日(月) ⑤19:30-21:00
6	ケース・メソッドによる事例研究	11月4日(月) ⑤19:30-21:00
7	ケース・メソッドによる事例研究	11月11日(月) ⑤19:30-21:00
8	ケース・メソッドによる事例研究	11月18日(月) ⑤19:30-21:00
9	ケース・メソッドによる事例研究	11月25日(月) ⑤19:30-21:00
10	ケース・メソッドによる事例研究	12月2日(月) ⑤19:30-21:00
11	ケース・メソッドによる事例研究	12月9日(月) ⑤19:30-21:00
12	経営者による講演 (予定)	12月16日(月) ⑤19:30-21:00
13	ケース・メソッドによる事例研究	1月6日(月) ⑤19:30-21:00
14	ケース・メソッドによる事例研究	1月13日(月) ⑤19:30-21:00
15	総括討論	1月20日(月) ⑤19:30-21:00
試	試験は行わない	

験	
使用教科書／評価方法等	
教科書	慶応ビジネス・スクール作成のケースより学生と相談のうえ教材を選ぶ。
参考書	『ハーバードビジネススクールにて』土屋守章著 中央公論社出版 1995年(27版)。 『入門ケース・メソッド学習法』ウィリアム・エレット著 斎藤聖美訳 ダイヤモンド社 2010年。
評価方法	出席を含む授業への貢献度など50% プレゼンテーションと討論への貢献度50%
その他	

ID: YA13454

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	応用実践	M&A	南繁樹	15	2

授業の目的

公認会計士、税理士その他財務会計ないし税務の職務を行う者にとって、M&A は魅力的な業務領域の一つである。しかし、M&A は、法務、税務及び会計の複合的な知識が必要となることに加え、教科書には必ずしも記載されていない実務的な知識も必要となり、その全体像を把握するのは容易ではない。本講では、M&A の諸形態を概観したうえで、法務、税務、会計、ファイナンス理論に関する基礎知識をカバーすることを目指す。

授業の到達目標

実務においてM&Aに公認会計士、税理士又はフィナンシャル・アドバイザーとして関与する前提となる基礎的な知識を習得すること。適宜、関連する法律（会社法・金融商品取引法等）、証券取引所規則（適時開示規則等）、会計基準（企業結合会計基準・事業分離等会計基準）、税法（法人税法・所得税法・租税特別措置法等）に言及する。

履修条件

財務会計及び法人税法の基礎的知識を前提とする。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	M&A とは何か（M&A の具体例を挙げて、M&A がどのようなものかを理解する）	10月4日(金) ⑤19:30-21:00
2	M&A は何のために行うのか（M&A は何のために行われるのか、市場の拡大、過当競争の排除、川上・川下企業との結合による商流の確立、財務基盤の強化、新規分野への進出など、具体的なイメージを持つことができるようにする）	10月11日(金) ⑤19:30-21:00
3	M&A と企業価値評価（DCF 法、類似会社比準法、市場株価法、純資産法など、標準的な企業価値評価の方法を理解する）	10月18日(金) ⑤19:30-21:00
4	M&A の諸形態①株式譲渡（株式譲渡の主体・法的効果を理解する）	10月25日(金) ⑤19:30-21:00
5	M&A の諸形態②事業譲渡（事業譲渡の主体・法的効果を理解する）	11月1日(金) ⑤19:30-21:00
6	M&A の諸形態③合併（合併の主体・法的効果を理解する）	11月8日(金) ⑤19:30-21:00
7	M&A の諸形態の違いとそれぞれを利用するメリット・デメリット	11月15日(金) ⑤19:30-21:00
8	M&A の税務①株式譲渡（個人・法人が売主になる場合の株式譲渡の課税を理解する。特に、個人と法人が売主になる場合の区別など）	11月22日(金) ⑤19:30-21:00
9	M&A の税務②事業譲渡（事業譲渡とその後の解散の課税を理解する。特に、個別の資産の譲渡となること、資産調整勘定（のれん）の効果、解散による残余財産分配が配当とみなされることの理解が重要である）	11月29日(金) ⑤19:30-21:00
10	M&A の税務③合併（合併の課税を理解する。適格合併の要件と効果、さらに非適格合併の要件と効果が重要である）	12月6日(金) ⑤19:30-21:00
11	M&A の税務④繰越欠損金（赤字会社の買収において繰越欠損金の利用が重要であることを理解し、買収後に繰越欠損金の利用が制約される要件を理解する）	12月13日(金) ⑤19:30-21:00
12	M&A の税務（応用編）	12月20日(金) ⑤19:30-21:00
13	M&A の税務（応用編）	1月10日(金) ⑤19:30-21:00
14	M&A の税務（応用編）	1月17日(金)

		⑤19:30-21:00
15	M&A の会計 (連結会計・企業結合会計)	1月24日(金) ⑤19:30-21:00
試験		1月31日(金) ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	追って指定する。
参考書	追って指定する。
評価方法	期末テスト70%、出席を含む授業への貢献度など30%
その他	授業日程は、変更が生じることがありますので、あらかじめご了承ください。

ID: YA13615b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	基本	租税法	小山登	15	2

授業の目的

将来、みなさんが会計専門職業人として活躍される際、租税法に対する論理的思考が必須となります。特に租税法では、税実務上前例なき案件に直面することも多々あります。この案件を解決し結論を導出するには、高度の思考力、判断力、実践力が肝要とされるのです。租税法の授業を通じ、これらの能力を十分に養成し、経済社会の発展に貢献できる“人財”を育成することを目的としています。

授業の到達目標

租税法に限らず、会計実践上さまざまな案件に直面した際、自らの能力でその案件を解決し、結論を導き出さなければなりません。租税法の授業を通じて、この能力を養成し実社会で通用する人材を育成していきたいと考えています。

履修条件

受講生のみなさんが、事前に分担した項目につきまとめたレポートを発表し、教員がコメントする形で授業を進めていきます。みなさんの積極的な授業参加を希望します。

授業計画

回	授業内容	日程
1	「租税の意義・租税法の意義と特質」 これより研究対象とする租税法の意義と特質、さらに租税の種類と分類等の概要の検討を行います。	10月6日(日) ⑥18:30-20:00
2	「わが国における租税制度の発達 - 戦後における発達について -、租税法の基本原則」 わが国の戦後における租税制度の発達について、シャープ勧告を中心に検討を行います。さらにわが国における将来の租税制度の展望を考察します。	10月13日(日) ⑥18:30-20:00
3	「租税法の法源と効力」 租税法の法源の内容を理解し、その効力について研究していきます。特に税実務上使用されている税務通達の意義と位置付けについても検討を行います。	10月20日(日) ⑥18:30-20:00
4	「租税法の解釈と適用 (1)」 租税法解釈の基盤とされている実質課税の原則について研究します。特に法実質主義と経済的実質主義について検討を行います。	10月27日(日) ⑥18:30-20:00
5	「租税法の解釈と適用 (2)」 租税法と私法との関連性について研究します。特に私法からの借用概念について判例等を通じて検討を行います。さらに解釈論の体系に文理解釈と目的論的解釈があり、これら解釈の考察を行います。	11月3日(日) ⑥18:30-20:00
6	「租税実体法の意義・課税要件総論」 租税実体法の意義を検討し、納税義務の成立要件とされる課税要件について考察を行います。特に各租税に共通の課税要件である納税義務者、課税物件、課税物件の帰属、課税標準(課税ベース)、税率について検討します。	11月10日(日) ⑥18:30-20:00
7	「課税要件各論・所得課税 - 所得税 -」 個人の所得に対する重要な租税である所得税について検討を行います。所得税の所得の意義、類型、課税単位さらに所得税制度の基本的仕組について具体的事例を使い考察をしていきます。	11月17日(日) ⑥18:30-20:00
8	「所得課税 - 法人税 - (1)」 法人の所得に対する重要な租税である法人税について検討を行います。特に法人税の課税根拠について法人擬制説と法人実在説をとりあげ考察を行います。	11月24日(日) ⑥18:30-20:00
9	「所得課税 - 法人税 - (2)」 前回の続きとして法人の納税義務者の問題をとりあげ検討を行います。さらにわが国の二重課税調整措置に関して具体例をあげ考察します。	12月1日(日) ⑥18:30-20:00
10	「法人税法第22条を巡る問題点」 法人税法第22条に規定のある法人の所得金額の計算システムについて検討します。特に益金概念を構成する資産の無償譲渡について企業会計との相違点を考察します。この結果、法人税法上無償取引の益金構成要因を研究します。	12月8日(日) ⑥18:30-20:00

11	「法人税法第 22 条を巡る問題点」 法人税法第 22 条に規定のある法人の所得金額の計算システムについて検討します。特に益金概念を構成する資産の無償譲渡について企業会計との相違点を考察します。この結果、法人税法上無償取引の益金構成要因を研究します。	12 月 15 日(日) ⑥18:30-20:00
12	「同族会社と所得課税」 同族会社の行為、または計算の否認規定について、判例等の事例に基づき、規定の趣旨、目的、さらに問題点を考察します。また、この否認規定の過去から現在に至る裁判所の見解に関する変遷の検討を行います。	12 月 22 日(日) ⑥18:30-20:00
13	「多様な事業体・国際取引と所得課税 (1)」 現在多様な事業体が存在し、この事業体に関する課税問題が租税法上の重要な課題とされています。そこで今回は多様な事業体を取りあげ課税問題を検討します。	1 月 12 日(日) ⑥18:30-20:00
14	「国際取引と所得課税 (2)」 今回、国際的経済活動に対する課税を研究します。この研究は国際租税法の研究であり、今日重要な課税問題の研究分野となっています。特に、国際的三重課税問題、移転価格税制の問題、過少資本税制の問題、タックス・ヘイヴン対策税制の問題等を取りあげ検討を行います。	1 月 19 日(日) ⑥18:30-20:00
15	「まとめ」 1 回～14 回の問題の総括を行いたいと考えています。また、重要な課税事例を取りあげ、みなさんと共に討論を行いたいと思います。(各回、主要判例があれば検討したいと考えています。)	1 月 26 日(日) ⑥18:30-20:00
試験	課題レポート提出	

使用教科書／評価方法等

教科書	『租税法 第 18 版』金子宏著 弘文堂 (2013 年 4 月) 『確認租税法用語 250』増田英敏・加瀬昇一編著 成文堂 (2008 年 12 月)
参考書	『ケースブック租税法 第 3 版』金子宏 他 3 名編著 弘文堂 (2011 年 3 月)
評価方法	期末課題レポート 70%、出席を含む授業への貢献度など 30%
その他	みなさんの授業への出席が、授業の成果を有効に高める原動力となります。みなさんの全 15 回出席を希望します。

ID: YA13626

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	発展	企業法Ⅱ	平田和夫	15	2

授業の目的

企業法Ⅰに引き続き、商法総則・商行為、金融商品取引法及び民法等の基礎知識の習得を目的とする。授業では、概説書をベースとして、適宜判例集を参照することにより、抽象的な概念の把握にとどまらず、具体的な事案についても理解を深めることができるようにする。併せて、会社法制及び民法（債権関係）の改正の最新の動向にも触れる。本講義は、理論と実務の融合を目指すものであるが、更なる発展的な学習の契機ともなり得るものである。

授業の到達目標

法律系専門職に携わる以上、商法総則・商行為、金融商品取引法及び民法等の基礎的な理解は必須とあってよい。今や何らの付加価値もない専門職が生き残ることはできない。本講義で得た知識を武器として、質の高い会計専門職業人を目指してほしい。

履修条件

なし。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	商法総則 商法の意義につき企業法説等を紹介し、商法の法源・適用範囲に触れた上、商人資格、営業概念、商号、商業帳簿、商業使用人、商業登記、事業譲渡等の基本的な概念を理解する。	10月4日(金) ⑤19:30-21:00
2	商行為その1 商行為概念の基礎を理解した上、商行為の代理、商事法定利率、商事消滅時効、多数当事者間の債務の連帯、商人間の留置権のほか、商事売買、運送営業、倉庫営業、匿名組合等の基本を学ぶ。	10月11日(金) ⑤19:30-21:00
3	商行為その2 同上	10月18日(金) ⑤19:30-21:00
4	金融商品取引法1 開示制度の趣旨を踏まえつつ、発行開示、継続開示及び内部統制報告について、その手続の概要を理解する。発行開示等の規制に違反した場合の民事責任について、責任を負う主体、責任の性質・内容、証明責任の分配等につき、近時の主要な判例に触れつつ理解する。	10月25日(金) ⑤19:30-21:00
5	金融商品取引法2 大量保有報告及び公開買付けについて学ぶ。公開買付けについては、その趣旨、適用範囲、手続等の基本を押さえつつ、近時の主要な判例に触れ、併せてMBOの概要を理解する。	11月1日(金) ⑤19:30-21:00
6	民法(総則) 民法の基本原則を踏まえ、権利能力及び行為能力、法人制度の概要、物の意義及び分類のほか、民法総則で最も重要な法律行為及び時効について主要な判例に触れつつ理解する。	11月8日(金) ⑤19:30-21:00
7	民法(物権) 物権法定主義、物権的請求権及び対抗要件等の基本を押さえた上、占有権、所有権のほか、各種用益物権及び担保物権の基礎を理解し、とりわけ抵当権については主要な判例に触れつつ学ぶ。	11月15日(金) ⑤19:30-21:00
8	民法(債権総論その1) 抽象的で難解な分野であるが、債務不履行責任、債権者代位権及び詐害行為取消権、多数当事者の債権及び債務、債権譲渡・契約上の地位の移転、債権の消滅について、その基本を理解する。	11月22日(金) ⑤19:30-21:00
9	民法(債権総論その2) 同上	11月29日(金) ⑤19:30-21:00
10	民法(債権各論その1) 同時履行の抗弁権、危険負担、契約の解除といった契約総則を概観した上、売買を筆頭に、贈与・交換、消費貸借・賃貸借、請負・委任、寄託、組合等の各契約形態の基本を理解する。	12月6日(金) ⑤19:30-21:00

11	民法（債権各論その2） 同上	12月13日(金) ⑤19:30-21:00
12	民法（親族・相続） 企業法務においても、とりわけ相続法は重要である。相続人、相続分、遺産分割、相続の承認及び放棄、遺言及び遺留分等の基本を理解する。	12月20日(金) ⑤19:30-21:00
13	民法（債権関係）の改正その1 民法制定後110年余りを経て、法制審議会民法（債権関係）部会では、債権法に関する大規模な改正作業が進行している。議論の内容及び経過等について、その概要を紹介する。	1月10日(金) ⑤19:30-21:00
14	民法（債権関係）の改正その2 同上	1月17日(金) ⑤19:30-21:00
15	民法（債権関係）の改正その3 同上	1月24日(金) ⑤19:30-21:00
試験	期末テスト	1月31日(金) ⑤19:30-21:00

使用教科書／評価方法等

教科書	落合誠一ほか『商法Ⅰ総則・商行為〔第5版〕有斐閣Sシリーズ』（有斐閣、2013） 山下友信＝神田秀樹編『金融商品取引法概説』（有斐閣、2010） 潮見佳男『入門民法（全）』（有斐閣、2007） 山下友信＝神田秀樹編『商法判例集』（有斐閣、第5版、2012）（企業法Ⅰ使用のもの） 『有斐閣判例六法平成25年版』（有斐閣、2012）（企業法Ⅰ使用のもの）
参考書	適宜指定する。
評価方法	出席を含む授業への貢献度など80%、期末テスト20%
その他	なし。

ID: YA13627b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	発展	法人税法	齊藤誠	15	2

授業の目的

法人税の体系的な理解を図るため、テーマ毎に学びます。まず、法人税法の本質論との関係で、配当益金不算入等の二重課税排除について学びます。次に、納税義務者に関連して、事業体課税、公益法人課税について学びます。租税回避を検討するにあたって、事実認定と、法律解釈における、経済的観察法と、租税法主義との関係について学びます。以下、課税所得計算の基本となる、法人税法22条を中心に、益金、損金、権利確定基準、債務の確定、公正会計処理基準、資本等取引、別段の定めについて学びます。更に、圧縮記帳、減価償却、特別償却、リース取引等を学び、役員給与等、寄附金、交際費、国際取引について学ぶこととなります。法人税法に関係ある、租税特別措置法も、その都度学習していくこととなります。

授業の到達目標

各自の問題意識の整理と、法人税法の体系の理解に注力します。

履修条件

初回にテーマ発表の割り振りをしますので、必ず出席すること。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	配当益金不算入について、法人税の意義と、本質。二重課税の排除、事業年度等法人税の基本について学びます。	10月6日(日) ①9:30-11:00
2	事業体課税、法人税の納税義務者について ファンドの運用にかかわる方は検討すべき内容です。	10月13日(日) ①9:30-11:00
3	公益法人課税 法人税の納税義務者について 公益法人の法律改正に伴う税法上の取り扱いについて学びます。	10月20日(日) ①9:30-11:00
4	租税回避をテーマにして、事実認定、法律解釈における、経済的観察法と、租税法主義との関係 みなし規定、限度額等法人税法解釈上の問題点について学習します。法人税法解釈にあたって考慮すべき内容です。	10月27日(日) ①9:30-11:00
5	低額取引、無償取引と法人税法、益金の意義、権利確定主義 法人税法22条2項の理解について学びます。	11月3日(日) ①9:30-11:00
6	貸倒損失について、損金意義、債務の確定との関係 法人税法22条3項について学びます。	11月10日(日) ①9:30-11:00
7	IFRS と、公正処理基準(法22-4 会社法431)、損金経理(法2-25) 確定決算主義(法74-1) 法人税法と、会計学、会社法、金融商品取引法との関係について、公正処理基準、損金経理、確定決算主義を中心に学びます。	11月17日(日) ①9:30-11:00
8	新株引受権、自己株式、デットエクイティスワップ等資本等取引 資本等取引と損益取引の混合取引(金子「租税法」について学びます。	11月24日(日) ①9:30-11:00
9	圧縮記帳、減価償却、特別償却、資本的支出と法人税、租税特別措置法 資産の評価損(法33-1) 固定資産に関する法人税法上の取り扱いを整理します。	12月1日(日) ①9:30-11:00
10	リース取引基準と、法人税法 リース会計基準の変遷に伴う法人税法上の取り扱いの変遷と、現行法人税法での取り扱いについて学びます。	12月8日(日) ①9:30-11:00
11	役員給与等(法35) 寄附金(法37) 交際費(租特61-4) 租税公課 損金の額に関する計算の法人税法上の根拠について学びます。	12月15日(日) ①9:30-11:00
12	同族会社行為計算否認(法132) 組織再編成税制、連結納税、グループ法人課税 組織再編成と行為計算否認について学びます。	12月22日(日) ①9:30-11:00

13	繰越欠損金、解散、清算終了と法人税法 平成 22 年法人税法の改正に伴い清算所得税が廃止になりました。清算法人の所得の計算は、通常の法人の所得の計算と基本的にはわりありません。特例として、期限切れの欠損金の損金算入が認められます。法人の最終局面の学習です。	1 月 12 日(日) ①9:30-11:00
14	タックスヘイブン対策税制、外国税額控除、過小資本課税、移転価格税制等国际関係税制について整理します。	1 月 19 日(日) ①9:30-11:00
15	重要判例検討と、総まとめ 判例は、法人税法の適用と運用について具体的に学ぶ手段となります。判例の読み方について学びます。	1 月 26 日(日) ①9:30-11:00
試験	課題レポート提出。講義時の発表、小論文作成を含みます。	

使用教科書／評価方法等

教科書	金子宏「租税法 18 版」弘文堂
参考書	講義の都度指摘
評価方法	出席を含む講義への貢献度など 30%課題レポート提出 70%
その他	テーマ担当者が 15 分程度発表した後、講義し、その後質疑を行います。また、必要によってテーマの入れ替えを行うことがありますが、その場合は事前に連絡します。

ID: YA13628b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	発展	所得税法	伊東博之	15	2

授業の目的

わが国に導入されて久しい所得税は基幹税としての地位を保っている。また、個人にとっては最も身近な税といえる。一方、個人納税者の太宗を占める給与所得者の大半が自らの手で税額計算を行うことなく納税が完結するという制度の特徴もあって、所得税法自体は必ずしも身近とはいえない。そこで所得税法の条文の理解はもとより、その趣旨や背景を理解するとともに学説、裁判例等を交えて総合的に所得税課税の全体像を理解する。

授業の到達目標

所得計算や所得区分などの個別規定の修得による所得税制の理解に加え、個人の担税力に応じた課税を特徴とする所得税の課税の目的や根拠と現在における社会事象との乖離や不整合を捉えることができるように理解すること。

履修条件

所得税法等の規定（条文）を繰り返し、繰り返し読み、その制度の内容等を理解する努力をすること。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	【所得税の納税義務（沿革、税体系、所得概念、納税義務者等）】 主にシャープ勧告以後の沿革を概観するとともに、所得税法のわが国税体系における位置づけをはじめ、所得税の納税義務にまつわる事項を中心に説明し爾後の授業の理解に資する。	10月5日(土) ③13:30-15:00
2	【所得区分1（所得区分の意義、利子、配当）】 10種類に所得を区分していることの意義を理解する。また、資産性所得の代表である利子所得及び配当所得について、その特徴や性質を理解する。併せて関連する判例を研究する。	10月12日(土) ③13:30-15:00
3	【所得区分2（不動産、事業）】 資産性所得である不動産所得と資産勤労結合所得とされる事業所得について取り上げる。これら両所得はいくつもの共通点・類似点があることや沿革から不動産所得廃止論（事業所得統合論）が議論されている。事業的規模かそうでないかにより課税上の取扱いにも影響することや事業所得の意義が明確ではないという指摘などもあり、裁判例も多い。これらを通じて両所得の意義・範囲等を理解する。	10月19日(土) ③13:30-15:00
4	【所得区分3（給与、退職）】 勤労性所得とされる給与所得と退職所得とはいずれも規定は例示列举にとどまっているため帰納的に意義付けをするしかない。結果として他の所得区分との境界を巡り多数の判例が存在する。ITの発展に伴う雇用形態の変化や法定控除額の適否等の問題を含め研究する。	10月26日(土) ③13:30-15:00
5	【所得区分4（山林、譲渡）】 臨時・偶発的要素の強い両所得について取り上げる。とりわけ譲渡所得については、譲渡の意義を巡る議論、控除費用の範囲等多くの裁判例がありこれらについて研究する。また、土地等又は株式等の譲渡に対する課税制度の変遷とともに複雑化した内容を的確に理解する。	11月2日(土) ③13:30-15:00
6	【所得区分5（一時、雑）】 包括所得概念の下で課税の対象とされた両所得について、特に他の所得区分との接点を中心に事例を交えて研究し理解する。	11月9日(土) ③13:30-15:00
7	【収入金額（範囲、計上時期）】 収入すべき金額には金銭以外の物や権利を含むこと、その金銭以外のものの評価方法	11月16日(土) ③13:30-15:00

	及び所得区分による収入すべき時期の差異等について理解する。併せて関連する判例を研究する。	
8	【必要経費（家事関連費）】 収入金額から控除される必要経費とはどのようなものか（脱税経費は経費として認められるか）、概算経費にはどのようなものがあるか、家事関連費との区分などを理解する。併せて関連する判例を研究する。	11月23日(土) ③13:30-15:00
9	【所得計算（総所得金額、損益通算、繰越控除）】 各所得区分ごとの所得金額を計算後の損益通算や純損失や雑損失の繰越控除、純損失の繰戻し還付など特殊な所得計算を含めて年間の課税所得金額の計算について理解する。	11月30日(土) ③13:30-15:00
10	【所得控除（各控除の概要）】 所得控除が設けられている意義（課税最低限の保障や担税力への考慮ほか）をはじめ各種所得控除の種類、控除の順序、控除対象者、控除要件等について網羅的に理解する。	12月7日(土) ③13:30-15:00
11	【税額計算、変動・臨時所得の平均課税、税額控除】 特殊な税額計算である平均課税を含め税額計算の仕組み及び課税所得金額から控除する各種税額控除の意義及び内容等のほか、還付申告、損失申告、準確定申告などの確定申告の種類並びにその申告要件等その他予定納税を含む納付について理解する。	12月14日(土) ③13:30-15:00
12	【青色申告、確定申告と納付】 申告納税制度の根幹をなす申告手続や納付について理解するとともに、併せて事業所得者等に認められている青色申告制度や記帳制度についてその意義を理解する。	12月21日(土) ③13:30-15:00
13	【源泉徴収制度（意義、申告所得税との関係）】 源泉徴収制度の意義、仕組み、何らの手続を要せずに確定するその法的性格、特に申告所得税の確定申告との関係等について過去の最高裁等の判例を材料に研究する。	1月11日(土) ③13:30-15:00
14	【源泉徴収（徴収義務者、徴収時期、問題点等）】 源泉徴収義務者の範囲、源泉所得税の納税地、支払時の徴収義務と支払の意義、年末調整の意義等源泉徴収を巡る申告所得税との比較においての特徴を理解する。また、源泉徴収制度の問題点とされる事項も検討する。	1月18日(土) ③13:30-15:00
15	【不服申立・加算税・罰則・質問検査権】 納税者の権利救済の手段である不服申立制度、申告義務違反等に対する行政上、刑事上の制裁及び税務職員の質問検査権等について理解する。併せて関連する判例も研究する。	1月25日(土) ③13:30-15:00
試験	課題レポートの提出	

使用教科書／評価方法等

教科書	池本征男『所得税法 理論と計算 七訂版』税務経理協会 2012年
参考書	金子宏『租税法第17版』弘文堂 2012年、金子宏ほか編著『ケースブック租税法 第3版』弘文堂 2011年
評価方法	課題レポート 70%、出席を含む授業への貢献度など 30% 課題論文に授業の目標とする点がいかに反映しているかに重きを置く。
その他	授業の内容は進度などに応じて変わることがある。

ID: YA13634

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2013	後期	応用実践	実践国際租税法	大塚正民	15	2

授業の目的

前期の「国際租税法」では、日本の主たる「租税に関する法律」である「所得税法」、「法人税法」、「消費税法」、「相続税法」の「国内的側面」および「国際的側面」から「日本法としての国際租税法の全体像」の把握を試みました。その際に、いくつかの「租税条約」および「判例」に言及しましたが、後期の「実践国際租税法」では、上記の「租税に関する法律」よりも、むしろ「租税条約」および「判例」を主たる材料として、「日本国内法と租税条約との交錯」の検討を試みたいと思います。具体的には、後記の教科書について、各自が予め割り当てられ箇所を精読して、その概要を授業時間に他の参加者に説明する、という形式を取ります。

授業の到達目標

「租税条約」および「判例」を主たる材料として、「日本国内法と租税条約との交錯」の検討。

履修条件

前期の「国際租税法」を履修済みか、または、履修済みと同じ程度の基礎的知識を有すること。

授業計画

回	授 業 内 容	日 程
1	設例その1:4号非居住者の(個人)の7号所得:ベルギー条約とアメリカ条約	10月5日(土) ②11:10-12:40
2	設例その2:4号外国法人の7号所得:スイス条約	10月12日(土) ②11:10-12:40
3	設例その3:3号非居住者(個人)の7号所得:ベルギー条約とアメリカ条約	10月19日(土) ②11:10-12:40
4	設例その4:1号外国法人の7号所得:ベルギー条約とアメリカ条約	10月26日(土) ②11:10-12:40
5	教科書第1部総論第1章 条約と国内法および第2章租税条約と国内税法	11月2日(土) ②11:10-12:40
6	教科書第1部総論第3章 問題点の整理	11月9日(土) ②11:10-12:40
7	教科書第2部各論第1章 各論で取り上げる問題の位置づけ	11月16日(土) ②11:10-12:40
8	教科書第2部各論第2章 所得の定義 第3章 所得の源泉地	11月23日(土) ②11:10-12:40
9	教科書第2部各論第4章 課税権の行使に関する規定	11月30日(土) ②11:10-12:40
10	教科書第2部各論第5章 恒久的施設の範囲	12月7日(土) ②11:10-12:40
11	教科書第2部各論第6章 恒久的施設に帰属する(国内税法上の)国外源泉所得	12月14日(土) ②11:10-12:40
12	教科書第2部各論第7章 恒久的施設に帰属しない国内源泉所得	12月21日(土) ②11:10-12:40
13	教科書第2部各論第8章 二重課税排除条項	1月11日(土) ②11:10-12:40
14	教科書第2部各論第9章 特殊関連企業条項	1月18日(土) ②11:10-12:40
15	最終日の口頭試問	1月25日(土) ②11:10-12:40

試験	ペーパーテストはありません。	
----	----------------	--

使用教科書／評価方法等

教科書	租税条約と国内税法の交錯、第2版、井上康一・仲谷栄一郎、商事法務（2011年9月）	
参考書	とくにありません。すべてインターネットを介して参考資料にアクセスします。	
評価方法	出席率(30%)、授業の際の発表(教科書の概要の説明)(30%)および最終日の口頭試問(40%)を総合的に判断します。	
その他		